

病 院 年 報

2 0 2 3 年 度

横須賀市立市民病院

基 本 理 念

「ありがとう」

患者さん・ご家族からありがとうと言っていただける病院に

職員同士が笑顔でありがとうと言い合える病院に

For the patients and smile

基 本 方 針

1. 医療倫理を守り、根拠に基づいた医療を実践します。
2. 透明性を持った公平で誠実な医療を提供します。
3. 患者さん中心のチーム医療を実践します。
4. 地域の救急医療・災害医療を推進します。
5. 地域医療機関と連携し、地域の医療水準の向上に貢献します。
6. 将来を担う医療技術者を育成し、自らも成長し続けます。

ご挨拶

令和 5(2023)年度の年報を発刊するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

横須賀市立市民病院は、1963 年 12 月に市立武山病院として開設しました。1971 年 4 月に「横須賀市立市民病院」に名称を変更し、病床数 220 床としました。1984 年 4 月には診療科目 20 科、病床数 526 床としております。その後、幾多の変遷を経て、2006 年 7 月に病床数を 482 床とし現在の許可病床数となっております。2010 年 4 月、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理制度で運営を開始し、現在に至っております。詳細は「I 病院の沿革」をご覧くださいければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に二類感染症から五類に移行し、この一年徐々に平常の生活に戻りつつあります。しかし、新型コロナウイルスが消滅したわけではなく、時に感染流行が起きており、今後も厳重に注意していく必要があります。感染状況を注視しつつ、流行以前の診療を取り戻す努力をしているところであります。

現在、「公立病院経営強化プラン」が策定され、公立病院も黒字化が求められています。ここ数年はコロナ補助金で黒字となつてはいますが、医業収支で黒字化が必須であります。徐々に改善してきているとはいえ、機能分化・連携強化、役割・機能の明確化・最適化とともに持続可能な公立病院経営を達成すべく職員一丸となって尽力していく所存であります。

皆様方に於かれましては、今後ともご指導ご鞭撻並びにご支援の程、衷心よりお願い申し上げます。

2024 年 9 月

横須賀市立市民病院
管理者 関戸 仁

目 次

I	病院の沿革	1
II	病院の概要	
1	診療科目・医療基準等	6
2	組織図	9
3	職員数	10
4	委員会及び諸会議	12
5	施設の概要	18
III	経営経理の状況	
1	損益計算書	20
2	経営分析	21
IV	業務の状況	
1	患者に関する状況	
(1)	診療科別入院患者数	22
(2)	診療科別外来患者数	23
(3)	新規登録患者地域別構成比	24
(4)	入院患者地域別構成比	24
(5)	入院患者延数男女別年齢構成	25
(6)	外来患者延数男女別年齢構成	25
(7)	救急患者取扱状況	26
(8)	公衆衛生活動状況	27
(9)	手術件数	28
(10)	死亡・解剖数	28
(11)	投書・ご意見・患者支援の状況	29
2	診療に関する状況	
(1)	内視鏡業務	30
(2)	透析業務	31
(3)	リハビリテーション業務	32
(4)	健康管理業務	33
(5)	放射線業務	34

(6) 臨床検査業務	3 6
(7) 薬剤業務	3 7
(8) 給食業務	3 9
(9) 栄養指導業務	3 9
(10) 在宅医療	4 0
(11) 医療相談	4 1
(12) エコー業務	4 2
(13) がん部位別退院患者数	4 3
(14) ME 業務	4 4
(15) 医療安全業務	4 5
3 地域医療支援病院	4 6
V 各部門の紹介	4 8
VI 研究・研修の状況	1 0 2
VII 実習生等の受け入れの状況	1 1 5

I 病院の沿革

1963 年	12 月	市立武山病院として開設（病床数 40 床）
1964 年	12 月	生活保護法に基づく指定病院に指定
1971 年	4 月	横須賀市立市民病院に名称変更（病床数 220 床）
1984 年	3 月	第 2 期増改築工事を 1981～83 年度の 3 ヶ年継続事業で行った
1984 年	4 月	新設科を含め、業務開始 診療科目 20 科、病床数 526 床（一般病床 506 床、伝染病床 20 床） 内科系または外科系による救急当直開始
1987 年	4 月	病院職員安全衛生委員会設置
1988 年	11 月	横須賀市立市民病院セミオープンシステム開始
1990 年	11 月	MRSA 感染予防対策実施
1991 年	4 月	糖尿病教室開始
1991 年	10 月	院内保育所開設
1992 年	11 月	第 2・4 土曜日を休診日とした
1993 年	6 月	救急当直体制を内科系・外科系の 2 科当直制とした
1994 年	4 月	来院者用第 2 駐車場開設 こう門科を新設、診療科目 21 科
1996 年	3 月	MRI（磁気共鳴断層撮影装置）導入 骨塩定量測定装置導入
1996 年	4 月	内科に血液免疫診察室新設
1996 年	7 月	緊急当直体制の小児科当直時に内科系当直配置
1996 年	8 月	西棟 7 階に衛生材料を主に扱う第 2 売店開設
1996 年	11 月	臨床工学技士による医療機器の集中管理開始
1997 年	6 月	院外処方せんの発行開始
1997 年	8 月	来院者用第 3 駐車場開設
1997 年	10 月	在宅医療開始
1998 年	3 月	災害拠点病院指定
1998 年	4 月	リハビリテーション科に言語聴覚士を採用し、言語療法室開設 小児病棟に市立荻野小学校市民病院学級開設
1998 年	5 月	外来診療予約制開始
1998 年	7 月	緊急 PTCA 連絡方法として、CCU ホットライン開設
1998 年	9 月	第 1 回院内コンサート開催
1998 年	10 月	院外処方せんの全面発行開始
1999 年	4 月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般病床 506 床及び感染症病床 6 床） 診療材料を一元管理するため、材料センター開設

1999 年	11 月	健康管理センターが竣工、業務を開始
2000 年	4 月	神経内科新設（診療科目 22 科） 地域医療連携室新設
2000 年	5 月	リウマチ・膠原病外来（専門外来）開設
2000 年	6 月	小児科救急診療開始（月～金の午後 5 時から 8 時まで）
2000 年	9 月	メディカルリスクマネジメント要領制定
2001 年	6 月	特診科を精神科に名称変更
2001 年	7 月	患者の遺族等に対するカルテ開示開始
2002 年	3 月	高エネルギーX線治療装置（リニアック）更新
2002 年	4 月	臨床研修病院の指定を受けた
2002 年	6 月	インフォームドコンセントやセカンドオピニオンの申し出窓口設置
2003 年	3 月	会計業務の 24 時間化実施
2003 年	5 月	睡眠時無呼吸症候群外来開設
2003 年	10 月	東棟改修工事竣工
2004 年	4 月	横須賀市の組織に病院管理部設置 臨床研修医 1 期生 3 名採用
2004 年	12 月	病院内全面禁煙実施
2005 年	4 月	リウマチ科新設（診療科目 23 科）
2005 年	11 月	中央棟耐震補強工事開始
2006 年	2 月	豊橋市民病院（愛知県）と災害時相互医療協力協定締結
2006 年	3 月	外来診療状況表示システム導入
2006 年	4 月	組織改正により地域医療部及び医療技術部設置 患者支援室新設 専従の医療安全管理担当者配置 平日の 24 時間小児救急医療体制開始（24 日から） 薬剤師の救急当直の全日実施開始（28 日から）
2006 年	7 月	病床数を 482 床に変更（一般病床 476 床、感染症病床 6 床） 特定集中治療室の施設基準取得 DPC 準備病院となった
2006 年	8 月	財団法人医療機能評価機構による病院機能評価の認証取得（Ver. 4.0）
2006 年	9 月	地域医療支援病院の承認を受けた
2006 年	12 月	患者駐車場の有料化実施
2007 年	1 月	診療費領収書裏面への広告掲載開始
2007 年	3 月	中央棟耐震補強工事竣工 日本人間ドッグ学会が実施する人間ドッグ健診施設機能評価（Ver. 1 の認定を受けた

2007 年	4 月	横須賀市立市民病院経営健全化計画開始（2009 年度まで） 外来診療状況表示システム造設
2007 年	7 月	診療費のクレジットカード支払導入
2007 年	10 月	助産師外来開設
2007 年	12 月	7 階にラウンジコーナー設置
2008 年	1 月	病院敷地内全面禁煙実施
2008 年	2 月	病棟再編を実施し東 3 階及び東 4 階病棟休棟
2008 年	3 月	正面玄関前整備工事竣工
2008 年	4 月	DPC 対象病院となった 副病院長を 3 人体制（うち 1 人は兼看護部長） 医療安全管理室設置
2008 年	7 月	土曜日を休診日とした 広告可能な診療科名の見直しに係る診療科目変更（診療科目 29 科）
2008 年	8 月	糖尿病フットケア外来開設 禁煙外来開設
2008 年	9 月	産科病棟で母児同室開始 医業未収金回収業務委託開始
2008 年	11 月	市長が市民病院の指定管理者制度への移行の方針を示した
2009 年	3 月	給食業務委託開始
2009 年	4 月	新型インフルエンザ対策に係る発熱外来用テント設営
2009 年	5 月	院内感染対策室開設
2009 年	9 月	緩和ケア病室開設（2 床） サージカルマスク自動販売機設置
2010 年	1 月	病棟再編実施
2010 年	3 月	医療情報システム更新 PACS 導入によりフィルムレス化（モニタによる画像参照）達成
2010 年	4 月	公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理制度で 運営開始 土曜日を開院 フィルムコピーが照射録からオーダーリングになった
2010 年	6 月	『かながわ子育て応援団』に認証
2010 年	8 月	消化器病センター設立 術前経口補水開始
2010 年	11 月	院内助産開始
2011 年	3 月	産後ケア（産褥）入院開始
2011 年	4 月	放射線治療を外来開始

2011 年	10 月	東棟 5 階透析室が 23 床に増床し本稼働
2011 年	11 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認証取得 (Ver. 6.0)
2012 年	4 月	人間ドッグ健診施設機能評価 (Ver. 2) が更新認定 救急ワークステーションが本稼働 救急救命士の再教育病院実習を開始
2012 年	7 月	一般病棟入院基本料 7 : 1 を取得
2012 年	11 月	日本 DMAT 隊員養成研修に参加し、DMAT が結成
2012 年	12 月	乳房 X 線撮影装置 (マンモグラフィ) 更新
2013 年	3 月	最新型の血管撮影装置 (アンギオ) 更新 滅菌装置更新
2013 年	4 月	感染対策室が専従となり、感染防止対策加算 2 から 1 になった
2013 年	8 月	ハラスメントに関する相談窓口を設置
2013 年	10 月	糖尿病内科を内分泌・糖尿病内科に変更
2014 年	1 月	東棟 2 階にハイケアユニット開棟
2014 年	2 月	ナースコールと PHS を更新
2014 年	3 月	3T MRI 装置稼働
2014 年	5 月	中央棟 4 階病棟が中央棟 5 階病棟へ移転
2014 年	10 月	中央棟 5 階病棟を 25 床から 32 床へ増床
2015 年	3 月	320 列 CT 装置稼働
2015 年	4 月	骨粗しょう症外来開設
2015 年	6 月	特定集中治療室を 1 床 20 m ² と拡張し、中央棟 4 階病棟へ移動
2015 年	7 月	ハイケアユニットを 8 床から 12 床へ増床 中央棟 5 階病棟を 32 床から 35 床へ増床
2015 年	10 月	医療事故調査制度に対する院内整備実施
2015 年	12 月	特定集中治療室管理加算 1 取得
2016 年	3 月	電子カルテ導入
2016 年	4 月	JADECOM けんぽが設立され加入 泌尿器科入院診療再開 (常勤医 2 名体制)
2016 年	9 月	骨塩定量測定装置稼働
2016 年	10 月	東棟 4 階病棟に地域包括ケア病棟開棟 ツリウムヤグレーザー、パルスホルミウムレーザー稼働 体外衝撃波結石破碎装置更新
2016 年	11 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認証取得 (3rdG:Ver1.1)
2017 年	1 月	地域包括ケア病棟 1 施設基準取得
2017 年	4 月	日本人間ドック学会健診施設機能評価 Ver. 3 取得
2017 年	7 月	検体管理加算Ⅳ取得

2017 年	9 月	産科常勤医師着任
2017 年	10 月	SCU 当直開始（週 2 回）
2017 年	12 月	ドクターカー運用開始
2018 年	2 月	7 階食堂（うちくら）グランドオープン
2018 年	4 月	総合患者支援センターとして①地域医療連携室、②患者支援室、③入退 院支援センターに改組
2018 年	10 月	中央棟 5 階病棟を 35 床から 45 床へ
2018 年	11 月	東棟 3 階病棟に回復期リハビリテーション病棟開棟
2019 年	7 月	一般病床（7 対 1）20 床増床
2019 年	9 月	第 13 回 JADECOM 学術大会 in YOKOSUKA 開催
2020 年	2 月	新型コロナウイルス感染症患者受入開始（ダイヤモンド・プリンセス号 の米国人乗客 2 名）
2020 年	4 月	新型コロナウイルス感染症「神奈川モデル」重点医療機関に認定
2020 年	10 月	神奈川県 発熱診療等医療機関指定
2021 年	3 月	オンライン診療開始
2021 年	4 月	コロナワクチン接種開始
2021 年	6 月	お見舞いメールサービス開始
2021 年	8 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認証取得（3rdG:Ver2.0）
2022 年	3 月	デジタルサイネージ設置、本稼働
2022 年	6 月	関節外科にて A P S 療法（再生医療）開始
2022 年	10 月	西 4 階病棟と西 5 階病棟を統合（60 床）、稼働病床数 382 床から 344 床へ
2022 年	10 月	最新型の血管撮影装置（アンギオ）更新
2022 年	10 月	院内コンビニ「ファミリーマート」オープン
2023 年	6 月	地域包括ケア病棟（34 床）再開棟
2023 年	6 月	院内 Wi-Fi サービス開始
2023 年	9 月	中 5 階病棟を休棟し、稼働病床数 344 床から 299 床へ
2023 年	9 月	フルデジタル乳房撮影装置更新
2023 年	11 月	横浜銀行 ATM 終了
2024 年	1 月	能登半島地震に DMAT 派遣
2024 年	2 月	電子カルテ更新

Ⅱ 病院の概要

1 診療科目・医療基準等

(2024 年 3 月 31 日現在)

施 設 名	横須賀市立市民病院
所 在 地	〒240-0195 神奈川県横須賀市長坂 1 丁目 3 番 2 号 TEL (046)856-3136 FAX (046)858-1776 ホームページ https://yokosuka-shimin.jp/
開 設 者	横須賀市長 上 地 克 明
管理者(病院長)	関 戸 仁
開設年月日	1963 年 (昭和 38 年) 12 月 2 日
標榜診療科目	内科、外科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、消化器外科、肛門外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科 29 科
各種医療センター	健康管理センター、横須賀人工関節センター
専 門 外 来	糖尿病フットケア外来、禁煙外来、ペースメーカー外来、ストーマ外来、甲状腺外来、閉塞性動脈硬化症外来、神経外来、骨粗鬆症外来、女性乳腺外来、APS 療法外来、心不全外来、がん相談外来
病 床 数	482 床 (一般病床 476 床及び感染症病床 6 床)
医 療 指 定	地域医療支援病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、臨床研修指定病院、救急指定病院、アレルギー専門医療機関指定、保険医療機関、生活保護法指定医療機関、結核指定医療機関、労災保険指定医療機関、船員法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、自立支援医療機関、養育医療指定医療機関、麻酔科標榜許可、DPC 対象病院、肝臓専門医療機関、肝炎治療指定医療機関
施 設 基 準	情報通信機器を用いた診療に係わる規準、初診料 (歯科) の注 1 に掲げる基準、歯科外来診療環境体制加算、一般病棟入院基本料 (急性期一般入院料 1)、救急医療管理加算、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1)、急性期看護補助体制加算 (25 対 1 看護補助者 5 割以上)、看護補助体制充実加算、看護職員夜間配置加算 12 対 1 配置加算 1、重症者等療養環境特別加算、無菌治療室管理加算 2、緩和ケア診療加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 1 (注 2 のイ (医療安全地域連携加算 1) を含む)、感染対策向上加算 1 (注 2 (指導強化加算) を含む)、患者サポート体制充実加算、報告書管理体制加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、後発医薬品使用体制加算 1、病棟薬剤業務実施加算 1・2、データ提出加算 2 のイ、入退院支援加算 1 (入院時支援加算を含む)、せん妄ハイリスク患者ケア加算、精神疾患診療体制加算、地域医

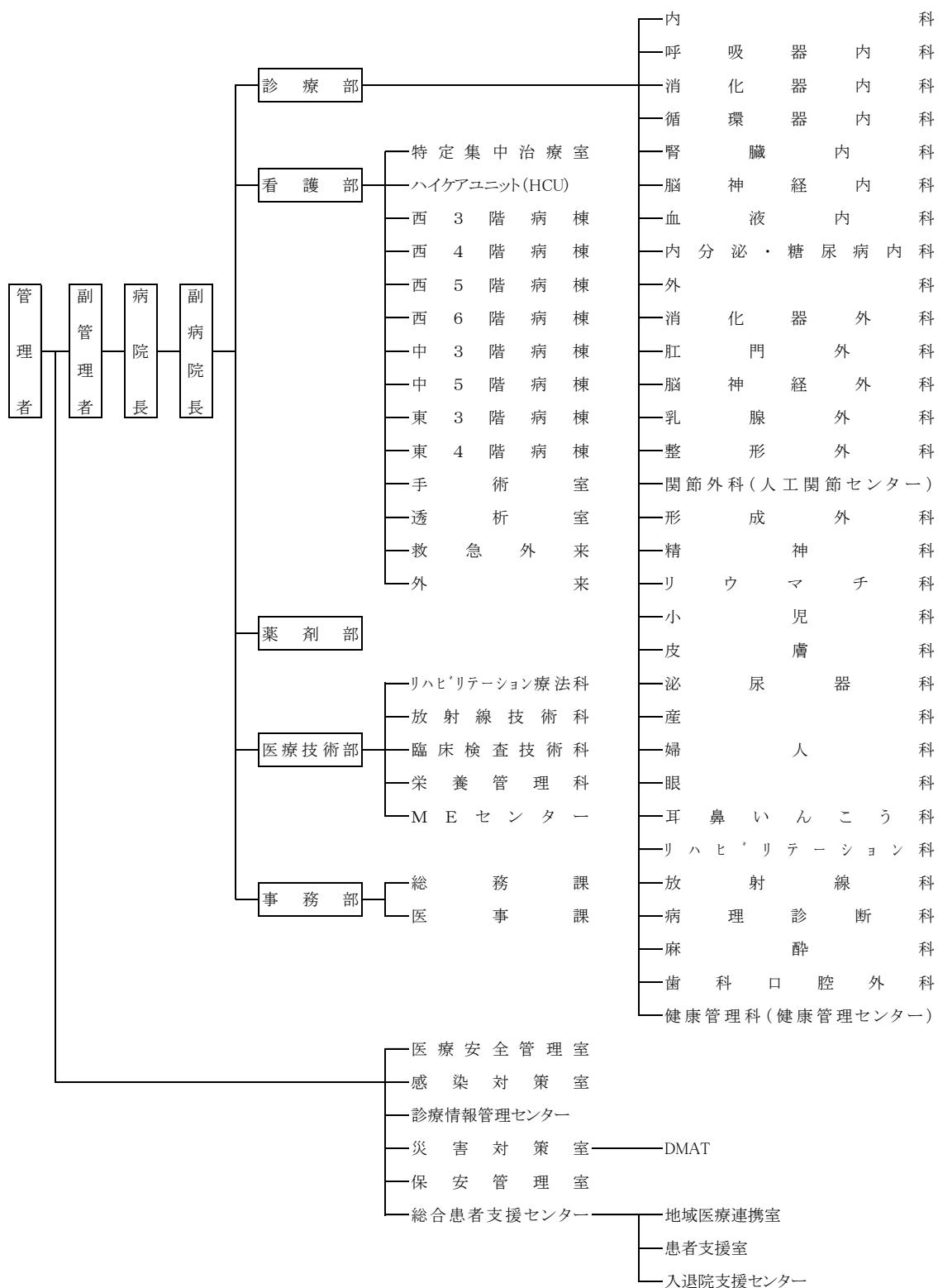
施設基準	療体制確保加算、特定集中治療室管理料 1、ハイケアユニット入院医療管理料 1、回復期リハビリテーション病棟入院料 3、地域包括ケア入院料 2 および地域包括ケア入院医療管理料 2、短期滞在等手術基本料 1、入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）、心臓ペースメーカー指導管理料（注 5 遠隔モニタリング加算を含む）、喘息治療管理料、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料Ⅰ～Ⅱ、外来緩和ケア管理料、糖尿病透析予防指導管理料、婦人科特定疾患治療管理料、腎代替療法指導管理料、二次性骨折予防継続管理料 1～3、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算、外来腫瘍化学療法診療料 1、連携充実加算、ニコチン依存症管理料、療養・就労両立支援指導料の注 3 に掲げる相談支援加算、開放型病院共同指導料、肝炎インターフェロン治療計画料、薬剤管理指導料 1・2、医療機器安全管理料 1、在宅療養後方支援病院、在宅血液透析指導管理料、持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定、BRCA1／2 遺伝子検査、HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）、時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査、前立腺針生検法（MRI 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）、遠隔画像診断、CT 撮影及び MRI 撮影、抗悪性瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算 1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、歯科口腔リハビリテーション料 2、人工腎臓、導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、通則 5 及び 6 に掲げる手術、骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）、乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）、乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）、内視鏡下胃十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメカ含む）、大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）、腹腔鏡下肝切除術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、輸血管理料Ⅱ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設前処置加算、麻酔管理料（Ⅰ）、病理診断管理加算 1、悪性腫瘍病理組織標本加算、クラウン・ブリッジ維持管理料、歯科矯正診断料、看護職員処遇改善評価料、酸素単価
指定医	母体保護法指定医、麻酔科標榜許可医、身体障害者福祉法指定医、精神保健指定医

【学会認定・教育指定】

日本内科学会専門医研修プログラム基幹施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医制度研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本病態栄養学会認定 栄養管理・NST 実施施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC） 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本精神神経学会専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 拠点教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本臨床薬理学会専門医制度研修施設 地域包括医療・ケア認定施設
---	--

2 組織図

(2024年4月1日現在)



3 職 員 数

(1) 部門別職員数

ア 常 勤 職 員

区 分		2022 年度	2023 年度	2024 年度
		(2022 年 4 月 1 日現在)	(2023 年 4 月 1 日現在)	(2024 年 4 月 1 日現在)
医 師		53	50	51
臨 床 研 修 医 師		10	10	10
看 護 職 員	助 産 師	3	0	0
	看 護 師	199	177	166
	准 看 護 師	0	0	0
	看 護 助 手	22	21	22
	計	224	198	188
医 療 技 術 員	保 健 師	1	1	0
	薬 剤 師	16	17	16
	臨 床 検 査 技 師	20	19	19
	診療放射線 (X線) 技 師	16	17	17
	管 理 栄 養 士	4	5	5
	理 学 療 法 士	12	14	18
	言 語 聴 覚 士	3	2	2
	作 業 療 法 士	5	7	7
	視 能 訓 練 士	1	1	1
	あん摩マッサージ 指 圧 師	0	0	0
	臨 床 工 学 技 士	11	11	10
	計	89	94	95
そ の 他 職 員	事 務 員	30	29	29
	電 気 技 師	0	0	0
	設 備 技 師	0	0	0
	ボ イ ラ ー 技 師	0	0	0
	S E	2	2	2
	労 務 員	0	0	0
	医 療 相 談 員	3	2	2
	計	35	33	33
合 計		411	385	377

イ 非 常 勤 職 員

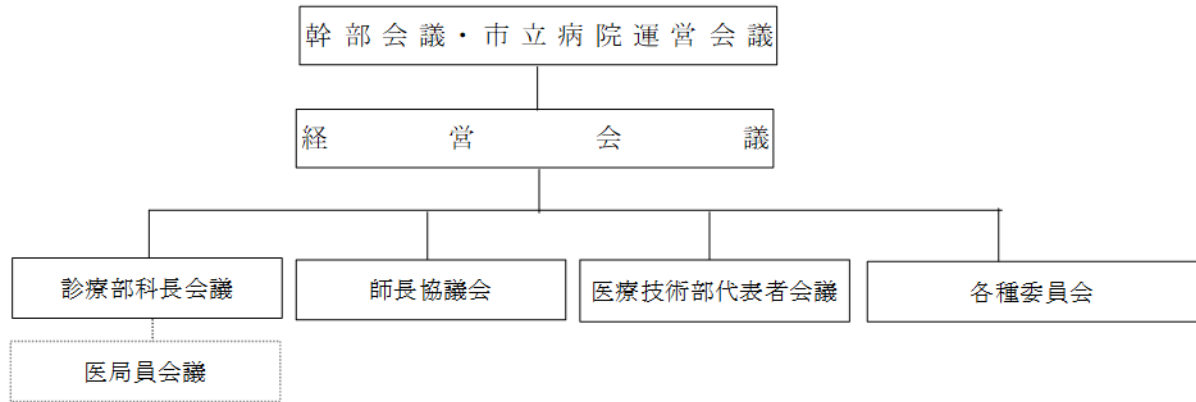
区 分	2022 年度	2023 年度	2024 年度
	(2022 年 4 月 1 日現在)	(2023 年 4 月 1 日現在)	(2024 年 4 月 1 日現在)
非 常 勤 医 師	71	68	69
助 産 師	4	0	0
保 健 師	2	0	2
看 護 師	55	60	57
准 看 護 師	1	1	1
看 護 助 手	12	11	8
歯 科 衛 生 士	1	1	1
薬 剤 師	1	1	1
臨 床 検 査 技 師	1	1	1
診療放射線(X線)技師	2	1	2
理 学 療 法 士	0	0	0
言 語 聴 覚 士	0	0	0
視 能 訓 練 士	0	0	0
あん摩マッサージ指圧師	0	0	0
医 療 相 談 員	0	0	0
図 書 室 司 書	0	0	0
外 来 受 付 事 務 員	0	0	0
医事課パート・非常勤	4	4	4
その他パート・非常勤	17	18	16
合 計	171	166	162

(2) 認定看護師・専門看護師の状況 (2024 年 4 月 1 日現在)

認定看護管理者 1 名、感染症看護専門 1 名、緩和ケア 1 名、皮膚・排泄ケア 2 名、
慢性心不全看護 1 名、認知症看護 1 名、透析看護 1 名、特定ケア看護師 2 名

4 委員会及び諸会議

(2024年3月31日現在)



協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催 時期
市立病院運営会議	市立2病院連携のための、重要事項の審議・報告	管理者、副管理者、顧問、副病院長、診療部長、看護部長代行、看護副部長、薬剤部科長、放射線技術科科長、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、MEセンター科長、事務部長、総務課長、医事課長、総務課課長補佐、医事課課長補佐、総務課係長、うわまち病院の幹部会議構成員	毎月 1回
幹 部 会 議	病院事業計画及び運営方針等を決定するための審議機関	管理者、副管理者、病院長、顧問、副病院長、看護部長代行、看護副部長、薬剤部科長、放射線技術科科長、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、MEセンター科長、事務部長、総務課長、医事課長、総務課課長補佐、医事課課長補佐、総務課係長、横須賀総局	毎月 1回
経 営 会 議	幹部会議での決定事項の周知及び各部門運営状況の報告	管理者、副管理者、病院長、顧問、副病院長、診療部長、看護部長代行、看護副部長、医療安全管理者、薬剤部科長、放射線技術科科長、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、MEセンター科長、栄養管理科主任、事務部長、総務課長、医事課長、総務課課長補佐、医事課課長補佐、総務課係長、横須賀総局	毎月 1回
診 療 部 科 長 会 議	診療に関する協議、検討等	管理者、副病院長、病院長、顧問、診療部長、医師、総務課長、医事課長、総務課係長	毎月 1回
医 局 員 会 議	医局への周知事項の伝達等	医師	毎月 1回
師 長 協 議 会	看護に関する協議、検討	看護部長代行、看護副部長、看護師長	毎月 2回
医 療 技 術 職 代 表 者 会 議	医療技術部各科に関する協議、検討	部長、技師長、各科科長、主任、薬剤部含む	毎月 1回
医療安全管理委員会	医療安全に関すること	管理者、副病院長、顧問、看護部長代行、医療技術部長、医療安全管理者、安全管理室科長兼放射線技術科員、放射線技術科科長補佐、薬剤部科長心得、MEセンター科長、事務部長、総務課長、医事課長、医療安全管理室員	毎月 1回

協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催時期
医療安全管理委員会 ①報告書確認管理チーム	報告書の確認漏れを防ぐ	診療部長、薬剤部科長、安全管理室課長兼放射線技術科員、医事課長、総務課員、医療安全管理者	毎月
リスクマネジャー会議	医療事故防止に関する こと	診療部長、医師、医療安全管理者、看護師長、主任看護師、リハビリテーション療法科、薬剤師、主任臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、主任管理栄養士、総務課員、医事課員、医療安全管理室員	毎月 1 回
リスクマネジャー会議 ①BLS・急変時対応 院 内 教 育 チーム	急変時対応に関する 職員研修	診療部長、医師、主任看護師、NDC 看護師、臨床工学技士、診療放射線技師、医事課員、医療安全管理者	随時
透析機器安全管理 委 員 会	透析治療の安全に 関すること	副病院長、医師、主任看護師、ME センター科長、臨床工学技士	随時
医薬品安全管理 委 員 会	医薬品の安全に 関すること	診療部長、看護師長代行、主任看護師、薬剤部科長、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、薬剤師、ME センター科長、医療安全管理者	毎月 1 回
医療機器安全管理 委 員 会	医療機器の安全に 関すること	診療部長、主任看護師、主任診療放射線技師、臨床検査技師、主任理学療法士、主任薬剤師、臨床工学技士、総務課係長、医療安全管理者	随時
院内感染対策委員会	院内の感染対策に 関すること	管理者、総括院内感染対策医、副病院長、看護部長代行、師長感染症看護専門看護師、看護師長、薬剤部科長、主任薬剤師、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、臨床検査技師、事務部長、総務課長、医事課長、医事課係長	毎月 1 回
院内感染対策チーム	院内感染の発生防止 に 関すること	総括院内感染対策医、副病院長、師長感染症看護専門看護師、看護師長、主任看護師、看護師、業務主任薬剤師、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、総務課員、医事課員	毎月 1 回
抗菌薬適正使用支援 チ ャ ーム	抗菌薬の適正使用に 関すること	副病院長、医師、師長感染症看護専門看護師、業務主任薬剤師、主任臨床検査技師、感染対策室員、医事課員	平日 毎日
新型インフルエンザ ワ ー キ ン グ	新型インフルエンザ に 関すること	副病院長、師長感染症看護専門看護師、看護師長、主任放射線技師、業務主任薬剤師、主任臨床検査技師、医事課係長、総務課員	毎月 1 回
病院職員安全衛生 委 員 会	労働安全衛生法に基 づく安全管理体制に 関すること	産業医、安全・衛生の経験を有する者、衛生管理者、看護師長、看護師、主任臨床検査技師、主任診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、総務課長、医事課長、総務課課長補佐、健康管理科係長、健康管理科員、職員過半数代表者	毎月 1 回
災 害 対 策 委 員 会	病院の防災対策に 関すること	管理者、副病院長（災害対策室長）、看護部長代行、薬剤部科長、リハビリテーション療法科科長代理、主任診療放射線技師、診療放射線技師、主任管理栄養士、事務部長、総務課長、医事課長、総務課係長（災害対策室員）	随時
災 害 対 策 委 員 会 ①災害対策ワーキング	災害対策に 関すること	主任診療放射線技師、診療放射線技師、主任臨床検査技師、主任看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、総務課長、総務課係長、医事課員、災害対策室員	毎月 1 回

協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催 時期
個人情報保護委員会	個人情報の適正な取り扱いに関する事	管理者、副病院長、診療部長、看護部長代行、医療安全管理者、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、主任管理栄養士、事務部長、総務課長、医事課係長、地域医療連携室係長、医事課員	随時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理に関する事	副病院長、診療部長、看護師長、薬剤部科長、ME センター科長、総務課員	随時
保険診療委員会	保険診療に関する事	副病院長、診療部長、医師、臨床検査技術科科長、主任診療放射線技師、薬剤部科長、医事課長、医事課員、委託業者	毎月 1 回
D P C クリティカルパス委員会	クリティカルパスの運用推進に関する事	診療部長、医師、看護師長、主任看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、診療放射線技師、医事課長、医事課員	随時
D P C 分 析 会 委 員 会	DPC の適切なコーディング及び分析に関する事	副病院長、診療部長、薬剤部科長、臨床検査技術科科長、放射線技術科科長補佐、医事課長、医事課員	随時
薬 事 委 員 会	薬品の登録、使用管理及び薬品購入に係る基礎的調査に関する事	副病院長、診療部長、看護師長、薬剤部科長、主任薬剤師、主任診療放射線技師、総務課員、医事課係長	毎月 1 回
SPD・診療材料委員会	診療材料の採用及び使用管理に関する事	副病院長、診療部長、看護師長、主任薬剤師、診療放射線技師、ME センター科長、医事課課長補佐、総務課係長	毎月 1 回
機 種 選 定 委 員 会	高額医療器械の機種選定に関する事	管理者、副病院長、顧問、診療部長、看護部長代行、放射線技術科科長補佐、ME センター科長、事務部長、総務課長、医事課長、総務課係長	随時
倫 理 委 員 会	医療倫理の確立に関する事	管理者、副病院長、顧問、診療部長、看護部長代行、師長感染症看護専門看護師、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、事務部長、医事課長、総務課員、外部委員	随時
治 験 審 査 委 員 会	治験審査に関する事	副病院長、診療部長、看護部長代行、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、事務部長、医事課長、総務課員、外部委員	随時
B S C 委 員 会	BSC の推進に関する事	診療部長、看護師長、主任看護師、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、事務部長、総務課長、総務課係長、医事課員	随時
医師研修管理委員会	臨床研修医に関する事	管理者、病院長、副病院長、顧問、診療部長、医師、看護部長代行、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、事務部長、総務課長、総務課係長、総務課員	毎月 1 回
内科専門研修プログラム管理委員会	内科専門研修プログラム等に関する事	副病院長、診療部長、総務課長、総務課係長、総務課員	随時
福利厚生検討委員会	福利厚生に関する事	副病院長、職員過半数代表者、看護師長、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、臨床工学技士、総務課係長、総務課員、医事課員、健康管理科員、地域医療連携室員	随時

協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催時期
職員宿舍管理委員会	医師公舎及び看護師宿舎の使用管理並びに職員の入退去の調整に関すること	医師公舎入居者代表、研修医、看護部長代行、総務課係長、総務課員	随時
働き方改革推進委員会	医師・看護師等の業務負担軽減に関すること	管理者、病院長、副病院長、診療部長、看護部長代行、看護副部長、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、ME センター科長、主任管理栄養士、事務部長、総務課長、医事課長、医事課課長補佐、総務課課長補佐、総務課員	随時
①医師の働き方改革推進委員会WG	医師・看護師等の業務負担軽減に関すること	副病院長、看護副部長、放射線技術科科長補佐、医事課長、総務課長、医事課課長補佐、総務課課長補佐、総務課員	随時
ハラスメント対策委員会	ハラスメント対策に関すること	副病院長、顧問、事務部長、総務課長、医事課長、総務課課長補佐	随時
業績評価制度委員会	業績評価制度に関すること	管理者、副病院長、診療部長、医療技術部長、地域医療連携室長、看護部長代行、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、ME センター科長、事務部長、総務課長、医事課長	随時
医療情報システム委員会	院内医療情報システムに関すること	診療部長、看護師長、主任看護師、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、主任薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、医事課長、総務課係長、医事課係長、総務課員	毎月1回
研修学術広報委員会	職員研修、学術及び図書並びに広報活動に関すること	診療部長、看護師長、臨床検査技師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、総務課係長、総務課員、医事課員	随時
年報作成委員会	診療のご案内、病院年報の作成に関すること	副病院長、看護師長、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、作業療法士、総務課係長、総務課員、医事課員	随時
病床管理委員会	病床の有効利用に関すること	副病院長、診療部長、看護副部長、看護師長、放射線技術科科長補佐、総務課長、医事課課長補佐	随時
入退院支援検討委員会	退院調整の検討に関すること	副病院長、看護師長、主任薬剤師、主任診療放射線技師、主任理学療法士、主任管理栄養士、医事課員、委託業者	随時
救急委員会	救急業務に関すること	副病院長、診療部長、医師、看護副部長、看護師長、NDC 看護師、ME センター科長、主任臨床検査技師、薬剤師、主任診療放射線技師、医事課長、医事課員	毎月1回
地域医療連携推進委員会	地域医療連携の推進に関すること	地域医療連携室長、診療部長、看護師長、看護師、薬剤部科長、リハビリテーション療法科科長代理、主任診療放射線技師、主任管理栄養士、医事課長、地域医療連携室係長、医療相談員、医事課員	随時
手術室管理委員会	手術室の利用及び管理に関すること	副病院長、診療部長、看護師長、ME センター科長、主任放射線技師、総務課員、医事課員	随時

協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催時期
内視鏡室管理委員会	内視鏡室の運営に関すること	副病院長、診療部長、医師、看護師、ME センター科長、主任診療放射線技師、総務課員、医事課員	随時
緩和ケアチーム	緩和ケア業務に関すること	副病院長、診療部長、緩和ケア認定看護師、薬剤部科長、薬剤師、主任診療放射線技師、管理栄養士	毎月1回
化学療法委員会	化学療法に関すること	副病院長、診療部長、看護師長、看護師、薬剤部科長、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、医事課係長、医事課員、総務課員	毎月1回
放射線委員会	放射線の使用に関すること	診療部長、看護副部長、放射線技術科科長補佐、主任診療放射線技師、診療放射線技師、医事課長補佐、総務課係長	毎月1回
臨床検査委員会	臨床検査及び病理に関すること	病院長、診療部長、臨床検査技術科科長、主任臨床検査技師、医事課員、総務課員	随時
輸血療法委員会	輸血療法全般の総括に関すること	副病院長、診療部長、主任看護師、薬剤師、臨床検査技師、医事課員	随時
栄養管理委員会	NST、嚥下及び褥瘡対策に関すること	診療部長、看護師長、主任看護師、看護師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師、主任管理栄養士、管理栄養士、医事課員	毎月1回
栄養管理委員会 ① NST グループ	NSTに関すること	診療部長、主任看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、主任管理栄養士、管理栄養士、医事課員	毎月1回
栄養管理委員会 ② 嚥下 グループ	嚥下に関すること	診療部長（歯科医師）、看護師長、主任看護師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、医事課員	毎月1回
栄養管理委員会 ③ 褥瘡対策グループ	褥瘡対策に関すること	診療部長、医師、看護師長、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、総務課員、医事課員	毎月1回
褥瘡対策グループ ③-1 褥瘡対策チーム	褥瘡対策チームに関すること	診療部長、医師、看護師長、皮膚排泄ケア認定看護師、主任看護師、看護師	随時
糖尿病管理委員会	糖尿病診療に関すること	診療部長、主任看護師、看護師、主任薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、主任管理栄養士、医事課員、地域連携室員	随時
糖尿病管理委員会 ① 糖尿病ケアチーム	糖尿病ケアチームに関すること	診療部長、医師、看護師、主任薬剤師、薬剤師、主任臨床検査技師、臨床検査技師、理学療法士、主任管理栄養士、管理栄養士、総務課員、医事課員、地域連携室員、健康管理科事務員	毎月1回
給食運営委員会	患者給食の提供等に関すること	診療部長、看護師長、主任管理栄養士、管理栄養士、総務課係長、医事課員、委託業者	毎月1回
リハビリテーション委員会	リハビリテーション業務に関すること	診療部長、医師、看護師長、主任診療放射線技師、リハビリテーション療法科科長代理、主任理学療法士、医事課員	随時
健康管理委員会	健康管理センターの運営等に関すること	診療部長、看護師、主任診療放射線技師、診療放射線技師、臨床検査技師、総務課員、健康管理科係長、健康管理科員	毎月1回

協議会・委員会名	目 的	構 成 員	開催時期
虐待対策委員会 (虐待対策緊急症例検討会)	虐待症例に関する こと	診療部長、看護師、事務部長、総務課長、医事課長、医療相談員	随時
接 遇 向 上 委 員 会	職員の接遇向上に 関すること	診療部長、看護師、主任診療放射線技師、臨床検査技師、総務課員、医事課員、健康管理科員、地域医療連携室員、委託業者	随時
病 歴 管 理 委 員 会	診療録に関する こと	副病院長、医師、看護副部長、看護師長、薬剤部科長、主任診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、医療相談員、医事課係長、医事課員、委託業者	随時
未 収 金 対 策 委 員 会	未収金対策に 関すること	副病院長、診療部長、看護部長代行、事務部長、医事課長、総務課係長、総務課員、医事課員、医療相談員、健康管理科事務員	随時
病 診 連 携 の 会 ワーキングチーム	病診連携の会に 関すること	副病院長、地域医療連携室長、看護師長、放射線技術科科長補佐、医療相談員、医事課長、総務課係長、医事課係長、地域医療連携室係長、総務課員	随時
機 能 評 価 ワーキングチーム	機能評価に 関すること	診療部長、看護副部長、看護師長、医療安全管理者、師長感染症看護専門看護師、主任薬剤師、主任臨床検査技師、主任診療放射線技師、主任理学療法士、主任管理栄養士、ME センター科長、総務課長、総務課課長補佐、医事課課長補佐、医事課係長	随時
特定行為看護師検討 委 員 会	看護師の特定行為に 関すること	副病院長、看護部長代行、顧問、NDC 看護師、看護師、医療安全管理者、薬剤部科長、臨床検査技術科科長、放射線技術科科長補佐、総務課課長補佐係長	随時
医 療 放 射 線 管 理 委 員 会	患者の被ばくに関 すること	診療部長、医師、看護師長、医療安全管理者、放射線技術科科長補佐、主任診療放射線技師、事務部長、総務課係長	随時
施 設 基 準 管 理 委 員 会	施設基準の管理に 関すること	診療部長、看護部長代行、薬剤部科長、放射線技術科科長補佐、臨床検査技術科科長、リハビリテーション療法科科長代理、事務部長、総務課長、医事課長、医事課課長補佐	随時
外 来 運 営 委 員 会	外来の運営に 関すること	副病院長、看護師長、主任薬剤師、主任診療放射線技師、臨床検査技師、事務部長、総務課長、医事課長、総務課係長、健康管理科係長	毎月 1 回
オ ン ラ イ ン 診 療 ワーキングチーム	オンライン診療に 関すること	副病院長、診療部長、看護師長、医事課長、医事課係長、総務課員	随時
透 析 管 理 委 員 会	透析に関する こと	副病院長、主任看護、主任薬剤師、ME センター科長、診療放射線技師、管理栄養士、医事課員、委託業者	随時
認 知 症 ケ ア サ ポ ー ト チーム	認知症ケアサポ ートに関する こと	診療部長、顧問、看護師長、主任看護師、認知症看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、医療相談員、医事課課長補佐	随時
ホ ー ム ペ ー ジ 更 新 委 員 会	ホームページに 関すること	管理者、副病院長、看護師長、リハビリテーション療法科科長代理、主任放射線技師、総務課長、総務課員	随時
診療情報開示委員会	カルテ開示に 関すること	副病院長、看護部長代行、事務部長、総務課長、医事課長、総務課係長、医療安全管理者	随時

5 施設の概要

(2024 年 3 月 31 日現在)

(1) 土 地 28,305.71 m²

病院敷地面積 16,493.81 m²

駐車場 11,811.90 m² ※フェンスを除く

(2) 建 物

名 称	所 在 地	構 造	面積 (m ²)	竣 工 年 月 日
本 館	長坂 1-3-2	西 棟 鉄筋鉄骨コンクリート造地下 1 階地下 7 階塔屋 1 階建 中央棟 鉄筋コンクリート造地下 1 階 地上 5 階建 (一部 6 階) 東 棟 鉄筋コンクリート地下 5 階建 (一部 7 階)	25,677.59	1984 年 3 月 31 日
健康管理センター	長坂 1-3-2	鉄骨造 3 階建	1,265.23	1999 年 10 月 14 日
医 師 宿 舎	長坂 3-12-19	借上宿舎 (9 戸)		
	林 2-4-1 3	借上宿舎 (18 戸)		
看 護 師 宿 舎	長坂 3-2-11	借上宿舎 (15 戸)		
	長坂 1-1-2	借上宿舎 (13 戸)		
	林 1-11-10	借上宿舎 (6 戸)		

(3) 各階配置図

		(西棟)			
7階			食堂、ラウンジコーナー 美容室 講堂、会議室		
6階	(東棟)	(中央棟)	病棟 ・整形外科・関節外科 ・泌尿器科 ・耳鼻いんこう科 ・歯科口腔外科		
5階	感染症病棟 透析室	病棟 ・内分泌・糖尿病内科 ・脳神経内科 ・脳神経外科 ・眼科	病棟 ・外科、消化器外科、 肛門外科、乳腺外科 ・消化器内科 ・皮膚科、形成外科		
4階	地域包括ケア病棟	病棟 特定集中治療室 (ICU・CCU) 臨床研修医室 医療安全管理室 感染対策室 ボランティア室	病棟 ・産後ケア ※西5階病棟と統合		(健康管理センター)
3階	回復期リハビリテーション 病棟	病棟 ・血液内科 ・呼吸器内科	病棟 ・循環器内科 ・腎臓内科 ・内分泌・糖尿病内科 MEセンター	渡り廊下	図書室 ミーティングルーム 看護部教育室
2階	ハイケアユニット (HCU) 外来診察室 病歴室	外来診察室 管理部門 管理者室、副管理者室 病院長室、副病院長室 看護部事務室 総務課事務室	外来診察室 ・小児科 手術室、滅菌センター 病理診断科 臨床検査技術科 医局	(RI 棟)	健診診察室 超音波検査室 心電図検査室
1階	救急受付 救急外来 救急撮影室 (レントゲン) 医事課事務室 地域医療連携室 患者支援室	受付・外来診察室 入退院支援センター 患者相談窓口、薬剤部 売店 (コンビニ)、防災センター 病院玄関	外来診察室 放射線技術科 血管撮影室、第2CT室 X線撮影室、乳房撮影室 内視鏡室 結石破碎室	RI MRI 第1CT リニアック	健康診断受付 健康管理科事務室 ロビー
地下1階		薬品庫、洗濯室 材料センター 霊安室、解剖室 中央監視室	リハビリテーション療法科 栄養管理科、厨房 機械室、電気室		

Ⅲ 経営経理の状況

1 損益計算書

(単位：千円、%)

区 分 \ 年 度	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
経 常 収 益	9,921,279	105.8	8,949,265	90.2	7,376,488	82.4
医 業 収 益	6,938,557	94.9	6,834,299	98.5	6,613,211	96.8
入 院 収 益	4,534,995	94.9	4,382,371	96.6	4,206,894	96.0
外 来 収 益	1,762,407	92.3	1,798,884	102.1	1,779,746	98.9
他会計負担金	399,000	99.3	401,000	100.5	391,000	97.5
その他医業収益	242,155	110.5	252,044	104.1	235,571	93.5
医 業 外 収 益	2,982,722	143.9	2,114,156	70.9	639,657	30.3
他会計補助金	7,000	100.0	7,000	100.0	7,000	100.0
他会計負担金	214,000	100.0	210,000	98.1	196,000	93.3
そ の 他	2,761,722	149.2	1,897,156	68.7	436,657	23.0
特 別 利 益	0	0.0	810	0.0	123,620	15,261.7
経 常 費 用	8,681,504	99.6	8,159,800	94.0	7,399,811	90.7
医 業 費 用	7,855,192	95.0	7,469,528	95.1	7,258,702	97.2
給 与 費	4,260,068	93.1	3,905,882	91.7	3,689,146	94.5
材 料 費	1,634,336	98.5	1,614,825	98.8	1,670,507	103.4
経 費	1,402,177	95.8	1,442,332	102.9	1,409,149	97.7
減価償却費	550,050	97.5	495,506	90.1	480,059	96.9
資産減耗費	3,635	193.2	2,810	77.3	2,084	74.2
研究研修費	4,926	141.6	8,173	165.9	7,757	94.9
医 業 外 費 用	821,266	186.4	562,403	68.5	△29,041	△5.2
特 別 損 失	5,046	57.4	127,869	2,534.1	170,150	133.1
経 常 収 支	1,239,775	-	789,465	-	△23,323	-

(備考)

- 1 横須賀市と地域医療振興協会の連結決算による損益計算書である。
- 2 横須賀市と地域医療振興協会間の金銭取引は相殺消去している。

2 経営分析

区 分 \ 年 度			2021 年度		2022 年度		2023 年度		
			決算	前年度比	決算	前年度比	決算	前年度比	
許 可 病 床 数			床	482	100.0	482	100.0	482	100.0
1 日 当 た り 入 院 患 者 数			人	182.7	90.3	176.7	96.7	182.1	103.1
1 日 当 た り 外 来 患 者 数			人	430.1	92.3	393.1	91.4	390.0	96.7
病床利用率（許可病床数）			%	37.9	△ 4.1	36.7	△ 1.2	37.8	1.1
職 員 1 人 当 た り 患 者 数			人	1.4	92.2	1.5	105.0	1.6	101.8
入 院 外 来 比			%	235.4	5.1	222.5	△ 12.9	214.2	△ 14.1
収 入	患者 1 人当たり診療収入（入院）	円	67,995	105.1	67,931	99.9	63,126	92.9	
	患者 1 人当たり診療収入（外来）	円	13,984	98.0	15,618	111.7	15,573	98.9	
	職員 1 人当たり診療収入	千円	15,244	108.6	16,930	111.1	17,094	101.0	
費 用	患者 1 人当たり経常費用	円	37,846	103.4	38,365	101.4	36,786	97.5	
	患者 1 人当たり給与費	円	21,972	100.2	21,553	98.1	20,240	95.5	
	患者 1 人当たり材料費	円	8,480	106.1	8,987	106.0	9,233	104.5	
対 医 業 収 益 比	経 常 費 用	%	106.0	△ 0.5	99.6	△ 6.4	111.9	△ 7.5	
	医 業 費 用	%	95.9	△ 5.1	91.2	△ 4.7	109.8	0.5	
	給 与 費	%	52.0	△ 3.9	47.7	△ 4.3	55.8	△ 1.4	
	材 料 費	%	20.0	△ 0.3	19.7	△ 0.3	25.3	1.7	
	薬 品 費	%	9.9	△ 1.0	10.2	0.3	12.7	0.4	
	経 費	%	17.1	△ 0.8	17.6	0.5	21.3	0.2	
100 床 当 た り 職 員 数	全 職 員	人	89.0	87.2	78.8	88.6	76.3	96.8	
	医 師	人	13.1	91.3	12.9	98.4	12.7	98.4	
	看 護 師 ・ 助 産 師	人	45.4	83.0	36.7	80.8	33.8	92.1	
	医 療 技 術 員	人	18.9	91.9	17.4	92.3	18.9	108.3	
	事 務 員	人	6.8	97.1	7.3	106.1	6.2	85.7	
	労 務 員	人	5.0	92.3	4.6	91.7	4.8	104.5	
経 営 分 析	固定資産構成比率	%	48.1	△ 3.8	47.7	△ 0.4	50.6	2.9	
	固定負債構成比率	%	10.6	△ 1.5	10.9	0.3	14.2	3.3	
	自己資本構成比率	%	60.2	11.0	70.4	10.3	76.1	5.6	
	固 定 比 率	%	79.9	△ 25.6	67.8	△ 12.2	66.5	△ 1.3	
	流 動 比 率	%	177.5	53.3	280.3	102.8	506.0	225.7	
	負 債 比 率	%	69.1	△ 37.7	44.3	△ 24.8	33.4	△ 10.9	
	経 常 収 支 比 率	%	114.3	6.7	109.7	△ 4.6	99.7	△ 10.0	

（備考）

- 1 横須賀市病院事業会計と地域医療振興協会の連結決算により経営分析値を算出している。
- 2 横須賀市と地域医療振興協会間の金銭取引は相殺消去している。
- 3 職員 1 人当たり患者数＝（入院患者数÷診療日数）／職員数＋（外来患者数÷診療日数）／職員数

IV 業務の状況

1 患者に関する状況

(1) 診療科別入院患者数

(単位:人)

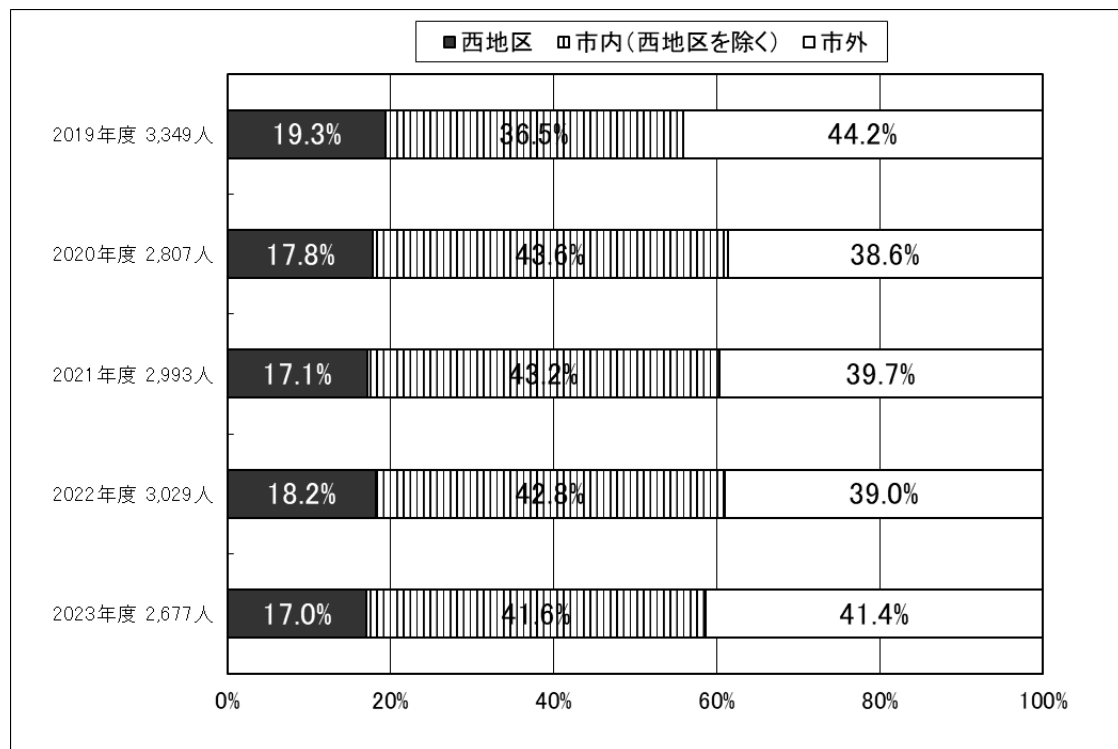
区 分	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均
血 液 内 科	487	1.3	220	0.6	217	0.6
脳 神 経 内 科	6,134	16.8	6,472	17.7	7,350	20.1
呼 吸 器 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
消 化 器 内 科	10,211	28.0	8,416	23.1	8,316	22.7
循 環 器 内 科	9,945	27.2	10,500	28.8	9,341	25.5
腎 臓 内 科	6,166	16.9	5,167	14.2	5,454	14.9
リ ウ マ チ 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
内分泌・糖尿病内科	3,528	9.7	2,474	6.8	2,496	6.8
小 児 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外 科	5,349	14.7	6,059	16.6	6,095	16.7
肛 門 外 科	外科に含む	－	外科に含む	－	外科に含む	－
整 形 外 科	7,499	20.5	6,664	18.3	6,887	18.8
関 節 外 科	8,686	23.8	10,123	27.7	10,383	28.4
形 成 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳 神 経 外 科	4,303	11.8	4,103	11.2	5,492	15.0
皮 膚 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌 尿 器 科	3,937	10.8	3,979	10.9	4,307	11.8
産 科	257	0.7	106	0.3	0	0.0
婦 人 科	0	0.0	0	0.0	66	0.2
眼 科	194	0.5	227	0.6	239	0.7
耳鼻いんこう科	0	0.0	2	0.0	0	0.0
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	66,696	182.7	64,512	176.7	66,643	182.1
人間ドック（二日ドック）	34	0.1	23	0.1	26	0.1
一 般 病 床 数	476 床		476 床		476 床	
感 染 症 病 床 数	6 床		6 床		6 床	
診療日数（日）	365		365		366	

(2) 診療科別外来患者数

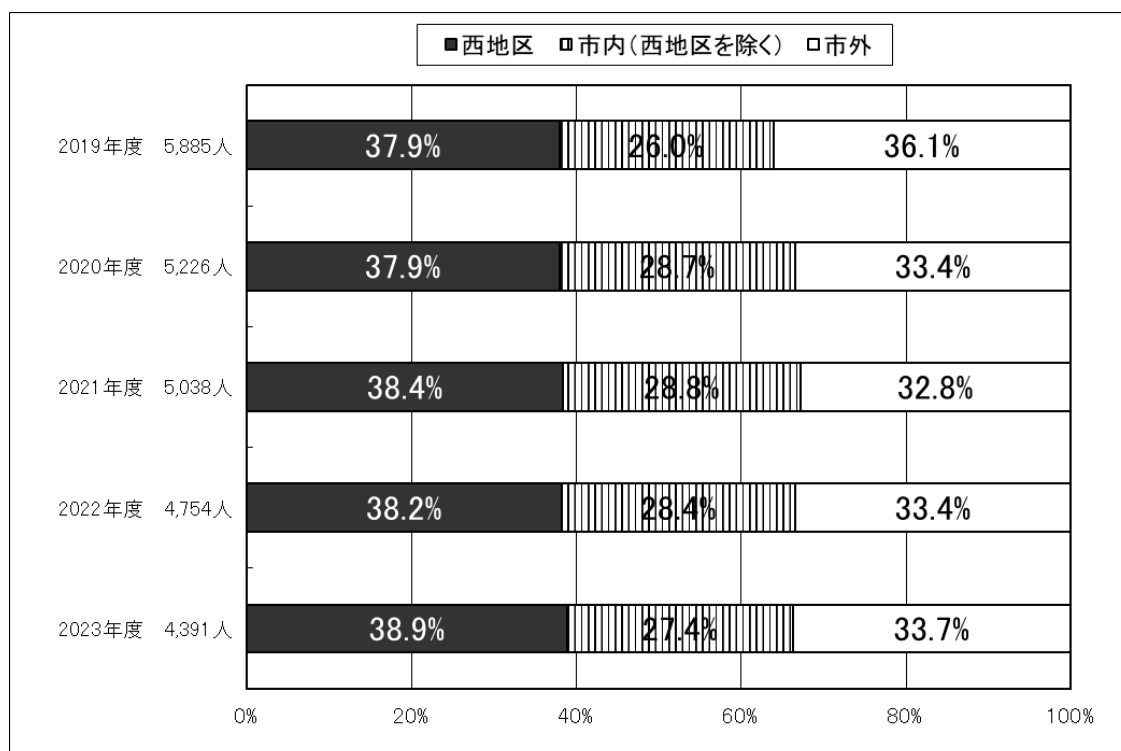
(単位:人)

区 分	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均
内 科	5,187	17.7	4,154	14.2	3,041	10.4
血 液 内 科	1,913	6.5	1,571	5.4	1,271	4.3
内分泌・糖尿病内科	6,143	21.0	6,046	20.6	6,178	21.1
精 神 科	3,768	12.9	3,571	12.2	3,458	11.8
脳 神 経 内 科	4,466	15.2	4,546	15.5	4,654	15.9
呼 吸 器 内 科	853	2.9	1,306	4.5	1,507	5.1
消 化 器 内 科	12,378	42.2	11,799	40.3	11,063	37.8
循 環 器 内 科	16,220	55.4	14,135	48.2	13,351	45.6
腎 臓 内 科	3,661	12.5	3,656	12.5	3,170	10.8
透 析 室	10,839	37.0	10,095	34.5	10,775	36.8
リウマチ科	3,823	13.0	3,508	12.0	3,396	11.6
小 児 科	341	1.2	252	0.9	193	0.7
外 科	7,760	26.5	7,381	25.2	7,460	25.5
肛 門 外 科	外科に含む	－	外科に含む	－	外科に含む	－
整 形 外 科	15,820	54.0	13,750	46.9	13,139	44.8
関 節 外 科	4,491	15.3	4,347	14.8	4,601	15.7
リハビリテーション科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
形 成 外 科	965	3.3	756	2.6	912	3.1
脳 神 経 外 科	2,343	8.0	2,370	8.1	2,276	7.8
皮 膚 科	1,869	6.4	1,925	6.6	1,753	6.0
泌 尿 器 科	7,774	26.5	7,611	26.0	7,786	26.6
産 科	540	1.8	111	0.4	7	0.0
婦 人 科	1,496	5.1	1,346	4.6	1,418	4.8
眼 科	6,010	20.5	5,986	20.4	5,992	20.5
耳鼻いんこう科	2,206	7.5	2,353	8.0	2,024	6.9
放 射 線 科	2,927	10.0	3,398	11.6	2,887	9.9
歯科口腔外科	2,235	7.6	2,236	7.6	1,971	6.7
合 計	126,028	430.1	118,209	403.4	114,283	390.0
外 来 診 療 科 数	26 科		26 科		26 科	
外来診療日数(日)	293		293		293	

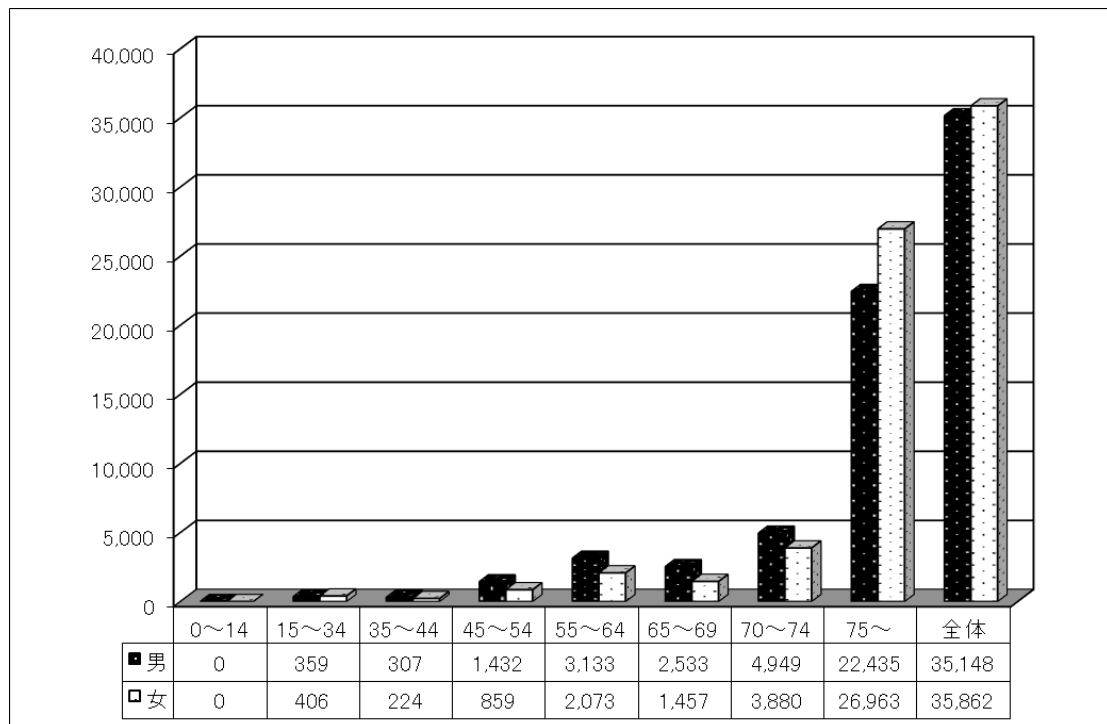
(3) 新規登録患者地域別構成比



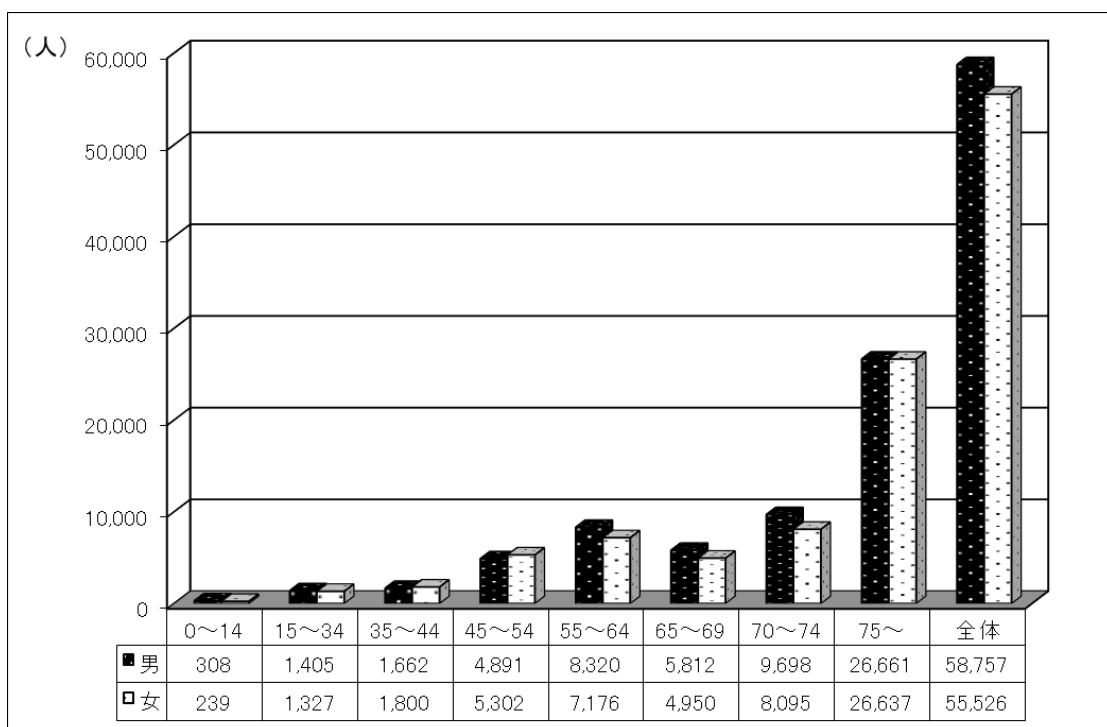
(4) 入院患者地域別構成比 (実患者数)



(5) 入院患者延数男女別年齢構成 (2023 年度)



(6) 外来患者延数男女別年齢構成 (2023 年度)



(7) 救急患者取扱状況

(単位:人)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
取扱区分	交 通 事 故	56 103	45 102	48 109
	一 般 負 傷	638 1,160	776 1,455	539 1,057
	自 損 行 為	9 11	4 5	4 6
	急 病	2,657 5,558	2,725 5,698	2,616 4,943
	分 娩	11 12	2 3	0 0
	そ の 他	0 0	0 1	1 4
	計	3,371 6,844	3,552 7,264	3,208 6,119
来院方法	救 急 車	1,602 3,235	1,750 3,391	1,660 3,217
	そ の 他	1,769 3,609	1,802 3,873	1,548 2,902
性別	男	1,674 3,471	1,863 3,789	1,617 3,065
	女	1,697 3,373	1,689 3,475	1,591 3,054
昼夜別	昼	924 4,397	971 4,358	782 3,693
	夜	2,447 2,447	2,581 2,906	2,426 2,426
治療した診療科	外 科 ・ 整 形 外 科	1,109 1,972	1,096 2,129	1,044 2,016
	内 科	2,068 4,468	2,306 4,747	1,963 3,760
	小 児 科	0 26	0 59	0 26
	産 科 ・ 婦 人 科	17 33	12 19	0 1
	皮 膚 科 ・ 泌 尿 器 科	140 279	103 231	162 254
	そ の 他	37 66	35 79	39 62
住所別	市 内	2,245 4,681	2,393 4,979	2,084 3,988
	市 外	1,126 2,163	1,159 2,285	1,124 2,131
治療後の処置	入 院	967 2,316	981 2,254	830 1,917
	転 院	33 60	26 41	30 59
	帰 宅	2,317 4,388	2,479 4,877	2,271 4,046
	死 亡	54 80	66 92	77 97
	1 日 平 均	9 19	10 20	9 17

上段は、閉院時間帯の患者数（内書）

下段は、救急患者取扱総数

(8) 公衆衛生活動状況

(単位：件)

区 分			2021 年度	2022 年度	2023 年度
集 団 検 診	市職員・学校職員	定 期 検 診	4,777	4,887	4,595
		特 殊 検 診	515	739	738
		胃 部 検 診	325	299	261
		大 腸 検 診	753	715	679
		予 防 接 種	184	106	116
		そ の 他	401	419	370
		計	6,955	7,165	6,759
	病 院 職 員 定 期 検 診		537	496	485
	他職域団体	総 合 検 診	330	283	280
		婦 人 科 検 診	97	87	83
		そ の 他 検 診	742	1,007	889
		計	1,169	1,377	1,252
	合 計		8,661	9,038	8,496
医 療 相 談	人間ドック	二 日 ド ッ ク	34	23	26
		一 日 ド ッ ク	1,007	1,039	1,024
		脳 ド ッ ク	172	177	137
		計	1,213	1,239	1,187
	協会けんぽ	一 次 検 査	1,288	1,265	1,197
		そ の 他	80	73	82
		計	1,368	1,338	1,279
	老健法による診査	成人健康診査基本検査	16	14	21
		後期高齢者健康診査	315	389	410
		肺 部 検 診	747	789	795
		胃がんリスク検診	90	126	145
		大 腸 が ん 検 診	763	774	843
		前立腺がん検診	227	266	197
		乳 が ん 検 診	457	382	436
		子宮頸がん検診	584	570	578
		肝炎ウイルス検診	37	33	52
		歯 周 病 検 診	5	0	0
		計	3,241	3,343	3,477
	が ん 検 診		1,559	1,421	1,512
	特定健診	市 国 保	715	747	886
		そ の 他	316	282	25
		保 健 指 導	68	66	60
		計	1,099	1,095	971
	その他	予 防 接 種	6,607	5,555	3,091
		妊 婦 健 診	283	62	4
		そ の 他	29	26	13
		計	6,919	5,643	3,108
	合 計		15,399	14,079	11,534

※がん検診は、2021 年度より項目ごとの件数へ変更した

(9) 手術件数 (手術室使用)

(単位：件)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
脳 神 経 内 科	0	0	1
循 環 器 内 科	0	0	0
腎 臓 内 科	38	35	49
外 科	296	330	328
整 形 外 科	283	220	224
関 節 外 科	288	276	281
形 成 外 科	87	94	124
脳 神 経 外 科	56	63	65
皮 膚 科	0	0	0
泌 尿 器 科	495	468	513
産 科	3	1	0
婦 人 科	0	0	0
眼 科	154	154	183
耳 鼻 い ん こ う 科	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	0	0	0
合 計	1,700	1,641	1,768

(10) 死亡・解剖数

(単位：件)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
死 亡 数	172	161	157
解 剖 数	4	5	3
解 剖 率 (%)	2.3	3.1	1.9

※2023 年度科別解剖数内訳

脳神経内科 1 件、消化器内科 1 件、腎臓内科 1 件

※死亡数には、検案、死産、行政解剖の死亡数を含まない。

(11) 投書・ご意見・患者支援の状況

(単位：件)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
職員の対応に関すること	14	13	24
治療及び検査等に対する疑問	7	14	3
病 気 に 対 す る 不 安	0	0	0
施設及び設備等に関すること	23	14	22
病院のシステム等に関すること	4	7	5
外国語による患者支援	0	0	0
お 礼 ・ 感 謝 な ど	19	36	18
そ の 他	9	18	19
合 計	76	102	91

※データは市民病院受付分（院内ご意見箱、患者支援室対応、郵送、電子メール、電話）

2 診療に関する状況

(1) 内視鏡業務

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
消化管検査	上部消化管内視鏡	2,172	2,312	2,291
	(うち上部消化管緊急検査)	(176)	(156)	(196)
	(うち経鼻内視鏡検査)	(307)	(303)	(301)
	下部消化管内視鏡	1,189	1,223	1,058
	(うち下部消化管緊急検査)	(104)	(102)	(93)
	ERCP (内視鏡的逆行性膵胆管造影)	1	1	4
	E U S (超音波内視鏡)	0	0	0
	計	3,362	3,536	3,353
治療・手術・処置	上部・下部消化管 E S D	38	47	41
	上部消化管ポリペクトミー	2	12	14
	下部消化管ポリペクトミー	242	259	341
	胃食道静脈瘤治療 (EVL・EIS)	11	4	13
	胆道治療 (EST・ENBD・ERBD・ステント挿入)	202	196	161
	レーザー照射術・アルゴンプラズマ焼灼術	13	24	24
	消化管拡張術・ステント挿入術	28	26	34
	経皮内視鏡的胃瘻造設・交換	76	75	72
	その他の	29	30	32
	計	641	673	732
合 計		4,003	4,209	4,085
生 検 (再 掲)		875	927	1,004
気 管 支 鏡		0	0	0

(2) 透析業務

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
維持血液透析導入		27	21	25
C A P D 導入		0	0	0
腹膜透析患者訪問		2	0	0
血漿交換・血液吸着療法		10	2	20
年間透析回数	入院	1,078	1,465	1,174
	外来	10,225	10,095	10,575
腎 生 検		7	6	5
手 術 件 数		81	124	143

※腹膜透析患者訪問は、2021 年度より (10) 在宅医療より移動した。

(3) リハビリテーション業務

(単位：件)

区 分			2021 年度	2022 年度	2023 年度
理 学 療 法	脳血管等リハビリテーション	入院	6,221	3,986	5,425
		外来	118	73	82
	運動器リハビリテーション	入院	12,058	9,683	9,704
		外来	2,567	1,591	1,035
	呼吸器リハビリテーション	入院	2,047	1,511	2,293
		外来	1	43	0
	心大血管リハビリテーション	入院	3,533	2,925	3,100
		外来	703	219	160
	がんリハビリテーション	入院	-	-	-
	廃用症候群リハビリテーション	入院	5,718	4,546	5,650
		外来	5	0	0
作 業 療 法	計	入院	29,577	22,651	26,172
		外来	3,394	1,926	1,277
	脳血管等リハビリテーション	入院	5,390	4,547	5,126
		外来	80	154	107
	運動器リハビリテーション	入院	744	373	1,186
		外来	483	835	1,231
	呼吸器リハビリテーション	入院	532	858	1,073
		外来	0	0	0
	心大血管リハビリテーション	入院	102	250	654
		外来	0	0	0
言 語 聴 覚 療 法	がんリハビリテーション	入院	-	-	-
	廃用症候群リハビリテーション	入院	1,892	1,845	2,514
		外来	0	0	0
	計	入院	8,660	7,873	10,553
		外来	563	989	1,338
	脳血管等リハビリテーション	入院	3,524	2,076	1,646
		外来	78	88	40
	呼吸器リハビリテーション	入院	1,866	1,533	1,140
		外来	0	0	0
	摂食嚥下訓練	入院	43	48	0
		外来	15	13	15
患 者 数 合 計	がんリハビリテーション	入院	-	-	-
	廃用症候群リハビリテーション	入院	2,922	1,625	1,414
		外来	0	0	2
	計	入院	8,355	5,282	4,200
		外来	93	101	57
	入院	入院	46,592	35,806	40,925
		外来	4,050	3,016	2,672
	計	計	50,642	38,822	43,597

(4) 健康管理業務

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
保 健 指 導	内 科	3	0	2
	呼 吸 器 内 科	2	0	0
	循 環 器 内 科	25	19	13
	消 化 器 内 科	139	131	142
	婦 人 科	47	51	39
	外 科	50	46	75
	眼 科	30	28	29
	泌 尿 器 科	32	37	16
	そ の 他	46	58	69
	計	374	370	385
健 康 診 断 活 動	健 康 診 断	151	198	165
	が ん 検 診	1,559	1,421	1,512
	人 間 ド ッ ク	1,041	1,062	1,050
	協会けんぽ健康診断	1,288	1,265	1,197
	特定健診（単・兼）	2,988	2,540	3,271
	特 定 保 健 指 導 （ 初 回 面 談 ）	18	26	22
	特 定 保 健 指 導 （ 継 続 支 援 ）	50	33	32
	事 業 所 健 診 等	735	630	520
	そ の 他	505	598	574
	計	8,335	7,773	8,343
公衆衛生活動	予 防 接 種 インフルエンザ	339	241	153
	予 防 接 種 その他	4,235	5,341	2,938
	糖 尿 病 教 室 参 加 者 数 （ 人 ）	0	17	16
	計	4,574	5,599	3,107
合 計		13,283	13,742	11,835

(5) 放射線業務

【X線撮影】

(単位：人)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
一般単 純 撮 影	胸 部	20,937	20,309	19,717
	腹 部	6,618	7,623	7,011
	骨 体 幹	9,067	9,164	10,360
	骨 四 肢	13,633	13,406	13,967
	乳 房	398	353	416
	計	50,653	50,855	51,471
一般造 影 撮 影	血 管 手 術	136	121	168
	心 臓 手 術	287	259	240
	心 カ テ	419	358	329
	血 管 診 断	47	65	42
	消 化 管	1,125	1,240	1,196
	消 化 管 手 術	288	303	232
	そ の 他 造 影	361	395	280
	計	2,663	2,741	2,487
合 計		53,316	53,596	53,958

【検診】

(単位：人)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
胸 部 検 診	6,348	6,301	6,327
乳 房 検 診	1,128	1,050	1,125
胃 部 検 診	1,231	1,230	1,210
脳 ド ッ ク	190	197	160
肺 が ん C T 検 診	146	141	163
骨 塩 定 量 測 定	144	161	164
合 計	9,187	9,080	9,149

【C T検査】

(単位：人)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
C T 単 純 合 計	9,093	8,974	10,869
C T 造 影 合 計	2,383	2,352	2,226
合 計	11,476	11,326	13,095

【MR I 検査】

(単位：人)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
M R I 単 純 合 計	4,249	4,615	4,732
M R I 造 影 合 計	214	189	209
合 計	4,463	4,804	4,941

【R I 検査】

(単位：人)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
局 所 シ ン チ	11	8	8
動 態 シ ン チ	4	5	8
全 身 シ ン チ	96	118	97
ス ペ ク ト	217	188	211
合 計	328	319	324

【放射線治療】

(単位：人)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
治 療	I 型 治 療	53	100	64
	II 型 治 療	172	59	86
	III 型 治 療	557	1,375	718
	治 療 合 計	782	1,534	868
計 画	I 型 管 理	6	10	9
	II 型 管 理	12	5	9
	III 型 管 理	31	77	40
	計 画 合 計	49	92	58
合 計		831	1,626	926

【その他】

(単位：人)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
骨 塩 定 量	605	653	685

(6) 臨床検査業務

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
尿 検 査	入院	5,424	4,311	4,216
	外来	41,885	43,098	42,488
糞 便 検 査	入院	332	358	345
	外来	8,717	8,472	8,711
穿 刺 液 検 査	入院	365	350	485
	外来	274	335	428
血 液 学 的 検 査	入院	49,109	52,099	53,737
	外来	121,521	131,773	128,895
生 化 学 検 査 (Ⅰ)	入院	312,526	308,337	311,926
	外来	877,199	894,482	877,432
生 化 学 検 査 (Ⅱ)	入院	2,866	3,120	3,275
	外来	33,550	33,745	33,195
免 疫 学 的 検 査	入院	23,653	23,731	25,566
	外来	63,574	67,899	63,512
微 生 物 学 的 検 査	入院	13,981	13,072	14,902
	外来	10,840	9,735	10,767
病 理 学 的 検 査	入院	1,042	1,033	1,005
	外来	916	990	1,202
細 胞 診 検 査	入院	545	562	515
	外来	2,186	2,125	2,069
輸 血 に 伴 う 検 査	入院	1,548	1,630	1,590
	外来	3,423	3,276	3,649
負 荷 試 験 等	入院	96	37	30
	外来	235	188	189
生 理 機 能 検 査	入院	6,624	7,568	7,674
	外来	29,370	30,142	30,889
計	入院	418,111	416,208	425,266
	外来	1,193,690	1,226,260	1,203,426
	計	1,611,801	1,642,468	1,628,692
検 診 (受 託 検 査 を 含 む)		(194,746)	(197,990)	(196,818)
外 部 委 託 検 査		26,067	29,005	28,856

※日本臨床衛生検査技師会日常検査準拠

()は再掲

(7) 薬剤業務

【業務統計】

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
病棟	薬剤管理指導料算定（患者数）	4,645	4,870	5,054
	薬剤管理指導料算定（件数）	6,443	6,505	7,031
	入院処方薬のセット・配薬（件数）	39,099	37,471	36,521
調剤	入院処方せん（枚数）	38,904	39,861	39,009
	注射指示せん（枚数）	33,419	32,430	35,502
	院外処方せん（枚数）	64,978	65,269	62,643
	外来処方せん（枚数）	3,583	4,356	4,485
	院外処方せん発行率（％）	94.8%	93.7%	93.3%
薬品管理	入院無菌製剤処理料（件数）	158	152	128
	外来化学療法加算（件数）	1,515	1,747	1,641
	院内製剤調製（本数）	312	346	326
	麻薬管理（件数）	2,534	2,399	2,586
	特定生物由来製剤（件数）	1,282	1,207	962
医薬品情報	持参薬識別（件数）	4,365	4,060	3,934
	医薬品採用数（年度末件数）	1,036	1,036	1,055
	後発医薬品採用数（年度末件数）	353	373	376
	院外処方せん疑義照会（件数）	3,285	3,319	2,980
	プレアボイド事例報告（件数）	793	270	392

※プレアボイドとは、医療現場において薬剤師が直接薬物療法に関与することにより、薬物療法における患者の不利益を回避あるいは軽減した事例である。

【ジェネリック医薬品の割合】

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
購入金額（在庫管理システム）	14.8%	15.0%	12.0%
購入品目（在庫管理システム）	53.5%	46.0%	41.0%
品目（薬事委員会採用医薬品）	34.0%	45.3%	35.6%

【医薬品購入額比率（２桁薬効別）】

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
42	腫 瘍 用 薬	27.2%	29.2%	25.8%
39	そ の 他 の 代 謝 性 医 薬 品	23.2%	18.6%	19.0%
33	血 液 ・ 体 液 用 薬	7.4%	7.9%	7.5%
63	生 物 学 的 製 剤	8.9%	7.6%	9.2%
62	化 学 療 法 剤	3.1%	5.9%	6.3%
24	ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	4.2%	5.3%	4.7%
61	抗 生 物 質 製 剤	3.3%	3.5%	4.6%
72	診断用薬（体外診断用医薬品を除く）	3.4%	3.1%	2.8%
34	人 工 透 析 用 薬	3.5%	3.0%	3.0%
21	循 環 器 官 用 薬	3.5%	3.0%	4.3%
22	呼 吸 器 官 用 薬	3.0%	2.9%	2.8%
23	消 化 器 官 用 薬	2.4%	2.8%	2.7%
11	中 枢 神 経 系 用 薬	2.0%	2.6%	2.6%
32	滋 養 強 壮 薬	3.3%	1.8%	2.0%
12	末 梢 神 経 系 用 薬	0.6%	0.8%	0.8%
13	感 覚 器 官 用 薬	0.4%	0.4%	0.4%
26	外 皮 用 薬	0.3%	0.4%	0.3%
82	非 アルカロイド系麻薬	0.4%	0.3%	0.3%
79	その他の治療を主目的としない医薬品	0.3%	0.3%	0.2%
31	ビ タ ミ ン 剤	0.2%	0.2%	0.2%
71	調 剤 用 薬	0.2%	0.2%	0.2%
81	アルカロイド系麻薬（天然麻薬）	0.1%	0.1%	0.1%
52	漢 方 製 剤	0.1%	0.1%	0.1%
25	泌 尿 生 殖 器 官 及 び 肛 門 用 薬	0.1%	0.1%	0.1%
44	ア レ ル ギ ー 用 薬	0.1%	0.0%	0.0%
64	寄 生 動 物 用 薬	0.1%	0.0%	0.0%
27	歯 科 口 腔 用 薬	0.0%	0.0%	0.0%
29	その他の個々の器官系用医薬品	0.0%	0.0%	0.0%
73	公 衆 衛 生 用 薬	0.0%	0.0%	0.0%

※小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100 にならない場合がある。

(8) 給食業務

(単位：食)

区 分			2021 年度	2022 年度	2023 年度
特 別 食	加 算	エ ネ ル ギ ー 食 塩 調 整 食	36,788	36,706	37,067
		易 消 化 食	4,973	7,227	4,857
		脂 質 調 整 食	2,694	2,314	1,457
		胃 切 術 後 食	607	905	1,165
		た ん ぱ く 質 調 整 食	9,435	9,090	9,631
		エ ネ ル ギ ー 食 塩 調 整 嚥 下 食	4,615	4,982	5,867
		そ の 他	23	0	6
	加 算 外		348	1,233	1,292
	計		59,483	62,457	61,342
一 般 食	常 食		50,708	47,805	48,504
	軟 食		41,571	41,132	46,590
	流 動 食		8,592	7,896	8,076
	そ の 他		288	109	0
	計		101,159	96,942	103,170
合 計			160,642	159,399	164,512
1 日 平 均			440.1	436.7	449.5

(9) 栄養指導業務

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
エネルギー・食塩調整食 (糖尿病 脂質異常 肥満)		795	637	655
たんぱく質調整食 (腎不全保存期 透析期)		395	323	226
減塩常食(高血圧)		157	117	121
脂質調整食(膵炎 脂質異常)		5	8	9
胃切術後食		40	33	36
易消化食(腸切除)		112	177	115
嚥下食		17	13	19
そ の 他		4	4	3
合 計		1,525	1,312	1,184
1 日 平 均		5.2	4.5	4.0

(10) 在宅医療

(単位：件)

区 分			2021 年度	2022 年度	2023 年度
訪 問 診 療			0	0	0
訪 問 看 護			0	0	0
退 院 前 訪 問			0	0	0
退 院 後 訪 問			0	0	0
地 区 別	市 内	西 行 政 セ ン タ ー 管 内	0	0	0
		そ の 他	0	0	0
	三 浦 市		0	0	0
	葉 山 町		0	0	0
	逗 子 市		0	0	0

※地域の往診医のご活躍により、当院は 2021 年度より在宅医療は実施していない。

※腹膜透析患者訪問は、2021 年度より (2) 透析業務へ移動した。

(11) 医療相談

【相談内容】

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	転 院 相 談	298	216	155
2	施 設 入 所 相 談	416	338	255
3	自 宅 退 院 援 助	338	371	222
4	在 宅 医 療 調 整	115	125	119
5	訪 問 看 護 調 整	110	155	117
6	介 護 保 険 申 請	338	319	176
7	介護保険サービス利用	261	251	168
8	生 活 保 護 関 連	-	-	-
9	障 害 者 福 祉 関 連	10	16	7
10	経 済 的 問 題	42	39	30
11	母 子 福 祉 関 連	-	-	-
12	虐 待 対 応	6	2	0
13	心 理 的 サ ポ ー ト	-	-	-
14	後 見 関 連	8	3	3
15	移 送 サービス 紹 介	384	280	185
16	そ の 他	94	91	68
合 計		2,420	2,206	1,505

【業務内容】

(単位：件)

区 分		2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	面 接	1,170	1,266	894
2	連 絡 調 整	-	-	-
3	電 話 相 談	57	34	65
4	医師と患者家族との合同面談	685	739	353
5	院 内 カ ン ファ レ ン ス	1,525	1,335	1,109
6	地 域 連 携 カ ン ファ レ ス	124	161	95
7	関係機関との情報交換	53	75	100
合 計		3,614	3,610	2,616

※同一患者の同内容の相談の重複を除く

(12) エコー業務

(単位：件)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
乳 房	532	540	575
甲 状 腺	321	345	316
肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓	921	942	848
腎・膀胱・前立腺	142	87	109
穿 刺	－	－	－
体 表 そ の 他	1,041	986	1,270
子 宮 附 属 器	211	423	453
産 科	497	0	0
心 臓	2,512	2,371	2,596
ド ッ プ ラ ー	479	580	514
頸 動 脈	479	580	514
ド ッ ク	1,113	1,141	1,118
合 計	8,248	7,995	8,313

(13) がん部位別退院患者数

(単位：件)

部 位 名	2021 年度	2022 年度	2023 年度
口 唇 、 口 腔 及 び 咽 頭	0	1	0
食 道	13	6	3
胃	52	56	49
小 腸	1	2	2
結 腸	79	97	68
直腸・直腸 S 状結腸移行部	35	35	17
肛 門	0	1	0
肝 及 び 肝 内 胆 管	23	23	25
胆 嚢 ・ 胆 道 そ の 他	17	14	8
膵	17	16	14
そ の 他 消 化 器	0	0	0
鼻腔・副鼻腔・喉頭・気管	0	0	0
気 管 支 及 び 肺	2	2	0
その他呼吸器・胸腔内臓器	0	0	0
骨 及 び 関 節 軟 骨	5	4	2
皮 膚	0	0	0
中 皮 及 び 軟 部 組 織	6	4	0
乳 房	35	21	42
女 性 性 器	1	2	0
男 性 性 器	56	104	111
尿 路	121	90	104
眼 、 脳 及 び 中 核 神 経 系	0	2	3
甲状腺及びその他の内分泌線	0	0	0
部 位 不 明	0	0	0
リンパ組織、造血組織及び関連組織	20	15	3
合 計	483	495	451

(14) ME業務

【医療機器点検業務】

(単位：件)

機 器 名	2021 年度	2022 年度	2023 年度
超音波ネブライザー	197	122	50
輸 液 ポ ン プ	616	690	424
シ リ ン ジ ポ ン プ	527	602	452
低 圧 持 続 吸 引 機	65	62	59
ベッドサイドモニター	3	25	11
人 工 呼 吸 器	168	136	125
合 計	1,576	1,637	1,121

【医療技術提供業務】

(単位：件)

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
冠 動 脈 造 影 検 査	435	372	255
冠 動 脈 治 療	224	187	156
一 時 ペ ー シ ン グ	29	27	34
ペースメーカー植え込み	35	36	29
ペースメーカー電池交換	12	16	14
静脈フィルタ留置	4	5	11
四 肢 血 管 拡 張	42	29	37
シ ャ ン ト P T A	70	109	106
腹 部 治 療	10	2	12
脳 外 科 検 査	26	28	27
血 液 透 析	11,385	11,294	11,643
血 漿 交 換	0	3	5
吸 着 療 法 等	18	31	21
合 計	12,290	12,139	12,350

(15) 医療安全業務

【ヒヤリハットレポート集計】

分 類	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	件 数 (件)	構成比 (%)	件 数 (件)	構成比 (%)	件 数 (件)	構成比 (%)
内 服 ・ 与 薬	230	19.3	224	23.6	172	19.6
注 射	146	12.2	110	11.6	99	11.3
転 倒 ・ 転 落	156	13.1	116	12.2	119	13.6
検 査 関 連	120	10.1	126	13.3	113	12.9
チューブ類管理	135	11.3	110	11.6	103	11.7
手術看護・透析	83	7.0	69	7.3	72	8.2
機 器 ・ 設 備	32	2.7	17	1.8	15	1.7
輸 血	4	0.3	3	0.3	6	0.7
そ の 他	267	22.4	142	15.0	158	18.0
カレンス・合併症報告	19	1.6	32	3.4	20	2.3
合 計	1,192	100	949	100	877	100

【患者さん影響レベル別】

レ ベ ル	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	件 数 (件)	構成比 (%)	件 数 (件)	構成比 (%)	件 数 (件)	構成比 (%)
レ ベ ル 0	384	32.2	283	29.8	247	28.2
レ ベ ル 1	301	25.3	188	19.8	181	20.6
レ ベ ル 2	374	31.4	361	38.0	351	40.0
レ ベ ル 3 a	95	8.0	67	7.1	54	6.2
レ ベ ル 3 b	19	1.6	18	1.9	24	2.7
レ ベ ル 4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
レ ベ ル 5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
カレンス・合併症報告	19	1.6	32	3.4	20	2.3
合 計	1,192	100	949	100	877	100

3 地域医療支援病院

(1) 紹介率等に関する状況（医科）

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
紹 介 件 数	5,389 件	5,439 件	5,573 件
紹 介 率	76.2%	72.7%	81.7%
逆 紹 介 率	82.7%	78.2%	84.3%

(2) 施設の共同利用に関する状況

（単位：件）

区 分	2021 年度	2022 年度	2023 年度
M R I	1,646	1,708	1,717
C T	394	334	367
リ ニ ア ッ ク	6	9	5
シン チ グ ラ ム	17	15	13
そ の 他	112	185	173

(3) 地域の医療従事者に対する研修の実施

ア．講演会

市民病院研究会等 「腎性貧血治療における HIF-PH 阻害薬について」 ほか 10 回
実施（108 ページ参照）

イ．市民病院看護セミナー

「若年末期心不全患者を自宅に帰す！！ ～カテコラミン持続点滴を在宅で施行した
症例～」 実施（115 ページ参照）

ウ．摂食嚥下勉強会（教育講演）

「口腔ケアの目的」（言語聴覚士）、「口腔ケアの手技とテクニック」（看護師）、「機能的口腔ケア」（医師） 実施（114 ページ参照）

(4) 地域医療支援病院諮問委員会

第1回 2023年6月8日(木)

- 議題 (1) 2022年度の実績報告
- ①紹介率について
 - ②救急車の受け入れについて
 - ③手術件数(入院・外来)について
 - ④地域別入院・外来・新規登録者数について
 - ⑤年齢別入院・外来・新規登録者数について
- (2) その他 なし

第2回 2023年9月29日(金)

- 議題 (1) 2023年4月～8月度の実績報告
- ①紹介率について
 - ②救急車の受け入れについて
 - ③手術件数(入院・外来)について
 - ④地域別入院・外来・新規登録者数について
 - ⑤年齢別入院・外来・新規登録者数について
- (2) その他 なし

第3回 2023年12月22日(金)

- 議題 (1) 2023年4月～11月度の実績報告
- ①紹介率について
 - ②救急車の受け入れについて
 - ③手術件数(入院・外来)について
 - ④地域別入院・外来・新規登録者数について
 - ⑤年齢別入院・外来・新規登録者数について
- (2) その他 なし

第4回 2023年3月7日(木)

- 議題 (1) 2023年4月～2024年2月度の実績報告
- ①紹介率について
 - ②救急車の受け入れについて
 - ③手術件数(入院・外来)について
 - ④地域別入院・外来・新規登録者数について
 - ⑤年齢別入院・外来・新規登録者数について
- (2) その他 なし

V 部門紹介

内 科

内科系の部門（消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科）で専門医が常勤し、診療を行っています。

内科外来は、患者さんを総合的に診察して、内科、外科を問わず、専門科に紹介するのが役割です。

現在、内科外来は、月曜から金曜日までは1診体制で診察しており、土曜日は、内科各科医師の持ち回りで診察しています。

専門科の充実に伴い、迅速に適切な科に紹介できるようになりました。

（小松 和人）

外科（乳腺・消化器外科）・ 肛 門 外 科

当科は管理者以下6名（関戸、長嶺、杉浦、浅野、中山、堀内）で診療にあたっています。消化器外科、乳腺、肛門疾患等幅広く診療、手術を担当しています。消化器外科指導医は3名、消化器外科専門医は4名おり、十分な診療・指導体制をとっています。

外来は、月曜日から金曜日の毎日、第3、第5土曜日（いずれも午前中）としています。

火曜日午後にはストーマ外来があり、皮膚排泄ケア認定看護師を中心として人工肛門を有する患者さんのQOL向上に努めています。また、第2、第4水曜日には、女性の乳腺外科専門の医師による乳腺外来も行っております。

手術は平日全ての曜日を手術日として、患者さん個々のニーズに合わせて対応しています。個々の症例については毎週水曜日に当科と消化器内科、病理診断科医師を含め十分な検討会の後、合意を形成して手術適応、術式を決定しています。腹腔鏡手術についても積極的に対応しています。

高齢者の周術期では術後栄養管理が重要となることが多く、NST（栄養サポートチーム）や嚥下チームとも協力し、術後のリハビリテーションを円滑に進め、より良い状態で退院できるよう努力しています。

再発進行癌に対する化学療法も積極的に行っています。がん治療認定医4名を中心に外来、入院で患者さんの希望に合わせて最新のエビデンスに基づいた治療を行っています。癌終末期患者さんの緩和ケアについては緩和ケアチームと連携し、患者さんになるべく苦しみの少ない安らかな時間をご家族とすごせるよう努力しています。

以上、我々は患者さんにとって最も必要なことは何なのかを常に考え、かつ迅速に対応するよう日々の診療に励んでいます。

（長嶺 弘太郎）

呼吸器内科

2023年度は非常勤体制となります。入院加療は難しくなりますが、少しでも地域医療に貢献できますよう、工夫しながら診療体制を整えていきたいと考えています。

消化器内科

消化器内科は、上部および下部消化管疾患、肝胆膵疾患を主な対象としているため、対象患者数は極めて多くなります。それに対して、当院の2023年度の消化器内科常勤医は5名のままで増員ができなかったため、忙しい診療が続いています。一方、検査や治療を行う件数は年々増加してきています。また、横浜市立大学病院から専門医を招き、大腸内視鏡、ERCP治療の指導を受けられる体制も継続しています。

消化器外来は毎日2診で行っており、新患や予約外の再来および急患患者も積極的に受け入れています。

緊急の消化管出血（吐血・下血）や総胆管結石、異物除去、S状結腸軸捻転解除、などの緊急処置に対しては、従来通り、365日24時間体制で対応しております。

消化管疾患の治療に関しては、食道・胃・大腸のポリペクトミー、粘膜切除（EMR）、食道静脈瘤に対する硬化療法（EIS）、胃静脈瘤に対するヒストアクリル局注、胃癌患者に対するAPCレーザー焼灼術、早期胃癌や早期大腸癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）、食道癌に対する化学放射線療法、などは従来通り積極的に行っています。希望者には経鼻内視鏡検査も行っています。

胆道系疾患に関しては、ERCP、十二指腸乳頭切開術（EST）、胆管ステント留置術（ERBD、ENBD、メタリックステントなど）、総胆管結石除去術、PTCD、PTGBD、などを行なっています。

肝疾患に関しては、ウイルス性肝炎や、肝硬変患者に対する治療、肝癌に対する肝動脈化学塞栓術（TACE）、肝動注（TAI）、ラジオ波焼灼術（RFA）、化学療法、などを行っています。ソナゾイドを用いた造影エコーも、肝癌の診断・治療に積極的に活用しています。

今後も、地域の皆さまからのご紹介に対して積極的に対応ができるようにしていきます。これからも、皆さまのご理解・ご支援をいただき、病診連携や救急患者の受け入れの充実、医療の質の向上を目指していきたいと考えております。

（小松 和人）

循環器内科

【2023 年度診療実績】

冠動脈カテーテル治療	152 件（うち急性心筋梗塞に対する緊急治療 36 件）
下肢動脈カテーテル治療	40 件
永久ペースメーカー植込み術	29 件

循環器内科は心臓救急医療に積極的に取り組むことを目標としておりますが、2024 年 4 月より循環器内科常勤医師の減少ならびに働き方改革の影響で循環器内科医師による 24 時間 365 日体制を維持できなくなりました。現在、土曜日午後からと祝日の心臓救急疾患の受け入れは中止していますが、それ以外の日時は今まで通り緊急のカテーテル治療を含め積極的な治療を行っています。

当科は虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）、心不全、不整脈、肺血栓塞栓症など心臓救急に関わる疾患はもちろん、高血圧症、下肢動脈の疾患である閉塞性動脈硬化症の治療にも取り組んでいます。虚血性心疾患に対する治療として、心筋梗塞、不安定狭心症の救急疾患のみならず、安定労作狭心症や冠攣縮性狭心症などに対する精査・治療にも積極的に取り組んでいます。安定狭心症患者さんに対する FFR、心筋シンチなどを用いた血行再建の適応決定、血管内超音波や OCT、血管内視鏡などのイメージングモダリティを用いた病変評価・血管内治療、高度石灰病変に対するロータブレードやダイヤモンドバック、IVL による石灰化病変に対する治療を行っています。また冠微小循環障害に対する精査としての CoroFlow を行い、原因不明の胸痛とされていた疾患の診断にもあたっています。高齢化に伴い増加している心不全に対し、多職種による心不全チームを発足し、心不全外来、心不全教育入院、InBody（体組成計）を用いた心不全管理を行っております。入院中のみならず、退院後も適切なフォローを行うことを心がけております。

心臓血管外科による手術が必要な症例や不整脈でカテーテルアブレーションが必要な症例、当院での治療が困難な症例に対しては、横浜市立大学附属病院やうわまち病院などの近隣の医療機関へ転院し、患者さんにとってより良い医療が提供できるよう努めています。

市民病院としての親しみやすさと、質の高い医療を行うことを実践するため、診療に励んでいきますので、よろしくお願いいたします。

（坂 賢一郎）

腎 臓 内 科

慢性腎臓病の原因の多くは糖尿病や高血圧症と言った生活習慣病になります。

生活習慣の見直しに重点を置き教育・指導を重視しております。管理栄養士による個別相談、腎臓病教室への参加、理学療法士による運動指導、ご家族を含めた透析室見学等を通して、患者さんの知識レベルの向上に努めております。パラメディカルスタッフとゆっくりと時間をかけて個別に相談する場を設ける事で、ご自分が抱えている病気に対する理解を深めていただき、今の残った腎機能を大切にして頂くようアドバイスさせて頂いております。いざ透析が必要な段階になれば透析に対する精神的受け入れや、透析方法についての理解を深め、適切な時期に苦しむ事なくスムーズな透析導入を行えるよう心がけております。末期腎不全治療には透析の他に腎移植と言う選択肢もあります。日本では特に家族から腎臓を提供してもらう生体腎移植を行うケースが多く、特に若い方を中心に希望される方がいます。一度透析になった後でも腎移植する事によって透析を離脱する事ができます。ご希望の方がいらしたら遠慮なくご相談下さい、移植病院へのご紹介も行っております。

高血圧症に関しましては、わが国で最も患者数の多い疾患と言われております。日本の65歳以上の人口は総人口の20%に達し「5人に1人が高齢者」という時代に突入しております。高齢者を中心に高血圧症は認められ、未治療患者や血圧管理の不十分な方も少なくありません。この膨大な数に上る高血圧症に対しての質の高い医療を提供するためには地域医療が欠かせません。

当院の役割として二次性高血圧症のスクリーニング、高血圧合併症の検討などを行なったうえで、血圧がコントロールついた段階で診療所の先生にご紹介し以後管理していただいております。

(國保 敏晴)

脳 神 經 内 科

2020年度より常勤医4名体制で診療しています。

外来では、パーキンソン病などの変性疾患・末梢神経障害・頭痛などを中心に診療しております。パーキンソン病については、診断では心臓交感神経系との関連が診断の補助となり、MIBGシンチグラフィの有用性が確立されております。新しい治療薬も出てきており患者さんにあった薬の選択を行っております。

入院は、主に脳血管障害が中心となっております。急性期の点滴治療をし、当院でのリハビリを経てスムーズに回復期リハビリ病院への転院が行えるように、リハビリテーション療法科や地域医療連携室と協力しております。

また、2018年より当院にも回復期リハビリテーション病棟が開設され、そこでリハビリを行う方もいらっしゃいます。

これからも地域の診療に貢献していきたいと考えております。

(渡辺 大祐)

血 液 内 科

【概要】

横浜市立大学病態免疫制御内科（旧第一内科）の医局より医師が派遣されております。当院も、横浜市立大学の血液疾患の診療グループの一員です。現在、1名体制（非常勤医師の外来あり）で診療しております。このため現状では、医師の減員により新規患者さんの受け入れを休止させていただいております（ただし、当科からご紹介した患者さんの症状が再燃・悪化したなどの場合は、お手数ですが当科までご一報いただければ個別に対応させていただきます。）。大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

【診療対象疾患と内容】

急性および慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍等の造血器腫瘍の治療、全身管理などが主体です。非腫瘍性疾患では、再生不良性貧血・溶血性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの診断・治療を行います。なお、当院では、造血幹細胞移植は施行していないため、適応のある方は大学病院などへ紹介しております。

治療法は、EBMに基づいたプロトコルを採用することを心がけております。実際には、白血病では日本成人白血病研究グループ（JALSG）、悪性リンパ腫では横浜市立大学グループの治療方針が主体となっております。セカンドオピニオンにも対応しておりますので遠慮なく申し出てください。

（原野 浩）

リ ウ マ チ 科

当院リウマチ科は横浜市立大学血液・リウマチ・感染症内科より医師が派遣されており、常勤医（日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医）1名 非常勤医1名（週1回）体制で、月曜日から金曜日までの外来診療をメインに行っております。

対象疾患は、関節リウマチをはじめ、シェーグレン症候群・全身性エリテマトーデス・全身性強皮症・抗リン脂質抗体症候群・皮膚筋炎／多発性筋炎・成人 Still 病・ベーチェット病などの自己免疫疾患、および、リウマチ性多発筋痛症・乾癬性関節炎、血管炎症候群まで、横浜市立大学附属病院や関連施設と協力して診療にあたっております。

近隣の病院から紹介患者さんも着々と増え、当院のリウマチ科の認知度が広まってきたように実感しており、大変うれしく思います。今後も横須賀地域の膠原病リウマチ診療に貢献できるように精一杯頑張っていきたいと考えております。

（浅見 由希子）

内分泌・糖尿病内科

当科は、糖尿病は勿論のこと、甲状腺疾患・内分泌疾患にも対応しております。

糖尿病疾患に関しては、糖尿病教室・糖尿病フットケア外来を運営し、教育入院クリニカルパスも導入しております。糖尿病外来担当看護師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・薬剤師・糖尿病専門医からなるチーム医療を行っており、更なる糖尿病患者教育に力をいれていきたいと思っております。

また、スタッフの教育にも力を入れており、患者指導の中核をなす糖尿病療養指導士が、現在計 6 名在籍し、年々増加傾向にあります。

当院では近年話題の CGM(Continuous Glucose Monitoring)や FGM(Flash Glucose Monitoring)を取り入れ血糖コントロール行っており、1 型糖尿病では SAP 療法(Sensor Augmented Pump)も導入し、日々最新情報・最新機器を駆使し診療を行っております。

内分泌疾患に関しては、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎などの内分泌疾患の診断・治療も対応いたします。負荷試験等にて診断確定し、内科的治療は当院で行い、行える手術は当院で行い、他施設での手術が必要な場合は横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター等対応可能な施設へご紹介いたします。なお、甲状腺疾患に関しては 2018 年度より甲状腺専門外来を開設し、自科にて甲状腺エコーも施行しております。内分泌疾患に関する核医学検査も充実しておりますので診断する上では十分な体制が整っています。

また、以前より当院では、多職種による NST(Nutrition Support Team)の活動が行われていましたが、2018 年より当科が担当となり活動を継続しています。入院中の介入が必要な症例に対して NST を介して栄養管理を行っております。

当科は、現在日本糖尿病学会認定施設・甲状腺学会認定施設に認定され、日本内分泌学会関連施設・栄養管理 NST 実施施設に認定されております。

(土屋 博久)

脳 神 経 外 科

当科は日本脳神経外科学会教育プログラムにおいて、横浜市立大学脳神経外科関連施設です。

脳腫瘍は良性から悪性まで原則すべて当院で治療しています。手術だけでなく、術後の化学療法及び放射線療法まで行っています。

脳血管障害（主にくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、頸動脈狭窄など）の治療には積極的に取り組んでいて、急性期脳梗塞の血栓溶解療法および血栓回収療法も行っています。

脳血管内治療は、横浜市立大学講師の清水信行医師（当院非常勤）が診療を行っています。

これらの疾患は治療のみでなく、その後のリハビリテーションを含めトータルでの診療を行っています。地域の病院として、当院で治療を完結することを原則としていますが、当院のみでは治療が難しいケースは横浜市立大学はじめ、しかるべき医療機関へ紹介しています。

診療機器では 3.0 テスラ MRI があり、より解像度の高い画像での診断が可能です。脳血流シンチによる脳血流評価も可能です。

手術機器では最新の手術顕微鏡を有していて、より精度の高い手術が可能です。また、神経内視鏡を有していて適応となる疾患については侵襲の少ない手術が可能です。更に電気生理モニタリングを使用した神経機能温存を目指した手術をおこなっており、術後の神経障害の予防が可能となっています。

（吉田 俊）

整 形 外 科

【診療スタッフ】

部長 保田 勉

部長 相原 利男

【診療内容・専門分野】

外傷のみならず、関節疾患や脊椎脊髄疾患、スポーツ傷害、関節リウマチなど整形外科領域全般の診療を行っております。

【特徴・特色】

疾患としては大腿骨頸部骨折や脊椎圧迫骨折が増加しています。入院後、できるだけ早期に手術を行うよう心がけています。また、特に脊椎圧迫骨折に対しては、低侵襲手術である経皮的椎体形成術や後方固定を併用し、早期離床をすすめています。

人工膝関節置換術、人工股関節置換術も数多く、安定した治療成績をおさめています。また、脊椎固定術や椎弓形成術なども行っております。脊椎手術には顕微鏡を用いて安全に手術を行っています。

骨粗鬆症に対しては、DEXA も導入され、最新の骨粗鬆症治療を行っています。

2023 年度の外来患者数は一日平均 44.8 人で、手術件数は 268 件と、いずれも昨年度をわずかに下回っていました。

近年、高齢者の手術件数が増加しています。高齢者は合併症を有していることが多く、在院日数も長くなりがちですが、内科、麻酔科などの先生の御協力や、近隣診療所の先生、地域連携室などの御協力、クリティカルパス、さらに DPC の導入などにより、在院日数も少なくなっています。近隣の病院、診療所、施設などの先生やスタッフの方々につきましては、ますますのご協力のほどよろしくお願いいたします。

(相原 利男)

関節外科・人工関節センター

当センターでは、膝関節をはじめ、上・下肢の関節疾患を中心に治療いたします。特に膝関節に関しては、極めて専門的な治療を展開しております。

近年注目されている再生医療分野のAPS療法を2022年6月より始めました。APSとは自己タンパク質溶液の略です。APS療法は自分の血液中の修復成分や成長成分を抽出し濃縮して膝関節へ注入する治療法ですので日帰りで行えます。約1年間の除痛効果があると言われています。また軟骨の修復や再生も期待されています。保険適応外のため高額ですが、もう手術しかないと言われた方や絶対に手術を受けたくない方に、新たな治療選択肢として検討いただくことをおすすめしています。

手術療法においては、一人一人の患者さんの長期的な改善を図るため、画像所見・臨床所見のみならず社会背景や生活様式まで考えたうえで手術方法を提案しております。

膝の手術では、特に変形性膝関節症、大腿骨内側顆部骨壊死において関節温存を希望される方には骨切り術を優先的に検討し提供しております。私どもは長年 Closed Wedge High Tibial Osteotomy (CWHTO: 外側閉鎖式高位脛骨骨切り術) に携わってきました。近年では Open Wedge High Tibial Osteotomy (OWHTO: 内側開大式高位脛骨骨切り術) の手術方法の改良と手術器具の開発にも携わりました。手術方法の改良や内固定材料の進歩などにより、早期より荷重歩行することも世界に先駆けて可能としております。現在も、より良い手術方法を求めて改良を続けており、変形性膝関節症の治療に関しては日本でトップレベルと自負しております。一方、人工膝関節置換術はCTを用いないことでCT被爆のないナビゲーションシステムによって精度の高い手術を行っております。

包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を併設しておりますので、術後のリハビリテーションを長く希望される方にも対応しております。

膝や股関節の痛みに関しては是非お気軽にご相談ください。

(石川 博之)

形 成 外 科

2023年度は非常勤体制となります。入院加療は難しくなりますが、少しでも地域医療に貢献できますよう、工夫しながら診療体制を整えていきたいと考えています。

精 神 科

2014年4月から常勤医1名＋非常勤医1名の体制となっています。外来業務においては、再来担当は、月曜日から金曜日まで磯島が担当としております。木曜日の午前の再来は従来通り、非常勤医の細岡も担当します。初診担当は基本的に常勤医1名体制で対応しています。初診は予約制となっており、ご本人もしくはご家族に精神科外来窓口に直接来ていただいて、予約を受け付けてしております。精神科入院病床がないため、入院を要する場合には近隣の施設を紹介する形で対応しています。

市民病院としての性格上、地域住民を中心とした医療を目指しています。主に身体疾患の治療を必要とする精神症状を有する患者さんの診療を中心に行っています。疾患としては認知症、気分障害、統合失調症、神経症圏、不眠症等を中心に診療させていただいております。

近年は、地域の高齢化や関心の高まりを背景として、認知症の診断・治療を目的とした受診が増えており、MRI等の画像検査も積極的に行っています。また、他科と協力してリエゾン診療や緩和ケアに関わっており、各種身体疾患で入院中の患者さんの不眠や不安、せん妄等も対応しております。

(磯島 大輔)

小 児 科

当院の小児科はうわまち病院小児医療センターからの医師派遣で、診療を継続いたしました。小児科診療部長は宮本（うわまち病院小児医療センター長、横須賀総局小児医療対策担当）が兼任し、紹介を受けた患者さんのうち、入院の必要な方はうわまち病院に転送しました。転送に関しては全く問題なく再び逆紹介でかかりつけの診療所に戻っています。

日本小児科学会は、小児医療を集約化を進めており、地域小児科センター認定制度を作っています。その地域小児科センターとしての認定を受けているうわまち病院との連携を今後も維持しつつ診療を継続して参ります。

(宮本 朋幸)

皮 膚 科

2023 年度は非常勤体制となります。入院加療は難しくなりますが、少しでも地域医療に貢献できますよう、工夫しながら診療体制を整えていきたいと考えています。

泌 尿 器 科

当科は約 8 年にわたり、常勤医が不在でしたが、2016 年 4 月より 2 名の泌尿器科専門医が常勤として就任いたしました。

外来は、現在、常勤 4 名で診療を行っております。診療日は月曜日から金曜日までです。主に三浦半島地域の患者さんを診療しています。紹介も多くいただいております。泌尿器科で扱っている疾患としては、尿路感染症、尿路結石症、下部尿路排尿障害等の良性疾患に加えて、腎がん、膀胱がん、前立腺がん等の悪性疾患があります。

入院または手術が必要な方については、当院でも行えるようになりました。

体外衝撃波結石破碎装置、ホルミウム・ヤグレーザー、ツリウムレーザー等が導入され、結石治療、前立腺肥大、または悪性疾患の内視鏡治療等について、より広範囲な疾患を治療できるようになっています。

また当院で扱えない疾患に関しては、横浜市立大学病院、横須賀共済病院などと連携を取り、紹介しています。

少しでも地域医療に貢献すべく努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

(藤川 敦)

産科・婦人科

2023 年 8 月現在、常勤医 1 名体制です。

当院健康管理センターにおける人間ドック、市民健診でも婦人科検診を担当しています。

【婦人科】

- ・月経困難症などの月経トラブルや外陰部症状、更年期症候群の診断と治療
 - ・良性疾患（子宮筋腫、卵巣のう腫、子宮内膜症、骨盤臓器脱など）の診断と治療と経過観察
- ※手術症例は紹介させていただきます。
- 悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がん）の診断

【産科】

- ・スタッフ拡充準備のため、現在分娩は取り扱いを見合わせております。

当院地域医療連携室に事前に情報提供をいただけると、緊急手術等が必要な場合は、横須賀市立うわまち病院、横須賀共済病院等へのご紹介をご案内させていただき、可能な限り患者さん負担を減らす努力をいたします。

（橘田 嘉徳）

眼 科

眼科は、これまで通り常勤医 1 名体制で診療を行っております。外来診療に北里大学眼科医局から非常勤医師の応援をお願いしています。月曜日は高木医師（専門領域：白内障手術）、木曜日は笠原医師（大学専任講師、専門領域：緑内障）が担当しています。第 4 金曜日は、神谷医師（教授、専門領域：屈折矯正、角膜疾患）に診療をお願いしています。

2023 年度の眼科手術の実績は、白内障手術 177 例、レーザー手術 69 例（網膜光凝固術 8 例、後囊切開術 58 例、虹彩切開術 3 例）、その他の小手術 6 例でした。

一般の眼科疾患には、広く対応しております。しかし、硝子体手術、硝子体注射、角膜移植術、小児眼科手術などは対応しておりませんので、専門病院に紹介させていただいております。眼形成（眼瞼下垂など）は当院の形成外科にお願いしています。

その他の特色としては眼瞼けいれん、片側顔面けいれんに対するボトックス治療をおこなっています。

地域の眼科との病診連携、病病連携を深めていきたいと考えています。また、病院の眼科という特性を生かし、各専門内科とも連携して、全身疾患の眼合併症のフォローアップにも努めてまいります。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（富岡 敏也）

耳鼻いんこう科

2023 年度は常勤医師不在で非常勤医の体制となりますが、地域の皆様に貢献できるよう、務めさせていただきます。外来診療を中心に、耳鼻科疾患全般を診療させていただいております。

患者さんで、耳鼻科的症状にお困りの方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。手術や入院が必要と判断した場合には、横須賀市立うわまち病院や横須賀共済病院へご紹介させていただいております。

放 射 線 科

2014年度の秋から再導入した遠隔読影システムを使いながら、読影業務は安定稼働しております。これは院外からの検査依頼に迅速に対応するためでもあり、徐々に件数を増やすことも考えながら運営しています。

また、放射線治療には非常勤医師2名があたっており、がん治療に貢献しております。

(望月 隆男)

病 理 診 断 科

近年、腫瘍性疾患では組織型の細分化が進み、従来通りその確定診断に加えて、各種コンパニオン診断など、病理診断科に求められる項目は増加しており、その重要性、存在意義が増しております。また、非腫瘍性疾患においてもその確定診断の過程で病理検査に対して詳細な検索がこれまで以上に求められるようになっております。さらに、予防医学の観点からも病理検査の重要性が問われております。当院においては、病理診断の重要性を反映し、病理診断科を標榜科として運営しております。病理診断科は現在、病理医1名、臨床検査技師3名で業務を行っております。

業務内容は(1)病理組織診断、(2)細胞診、(3)病理解剖の三本柱からなっております。病理組織診断は年間約2,500～3,000件の生検検体、手術検体をこなしております。また、症例に関して系統的に保管し既往との対比が迅速に行える環境を保つことにより、より迅速かつ正確な診断を提供することを心がけております。

病理組織診断の中で重要な項目の一つに術中迅速組織診断が挙げられます。これは手術中の切除断端評価、転移の有無、病変の性状判定など、凍結組織を用いて術中に診断するもので、術式決定の上で極めて重要な検査です。年間約100～120件の検体が提出されており、その重要性はより増しております。

細胞診は主に病変のスクリーニングや診断を行ううえで、低侵襲で行える検査法として重要な役割を担っており、がん検診など予防医学の場においてもその力を発揮します。本院での検体数は年間約3,400～3,500件で、子宮、呼吸器、泌尿器、乳腺、甲状腺、体腔液など様々な領域からの検体が提出されています。

診療の質の評価を行ううえで重要な医行為と位置づけられている病理解剖は、本院が臨床研修指定病院であることを鑑みると、臨床研修医にとってCPCなどを通じて病態をより深く理解する貴重な機会であります。本院におけるその意義はより高まっており、臨床各科の指導のもとで活発に行われているCPCに対し、これまで以上に協力していく所存であります。

(竹川 義則)

麻 酔 科

【診療スタッフ】

常勤 2 名でした。(が、2024 年 4 月から 1 名が新たに常勤となってくださいました。水曜日が研修日です。) 月、火、水、金は聖マリアンナから、木曜日は横浜市立大から非常勤麻酔科 Dr に来ていただいております。また昨年 12 月より、診療看護師(NP) (麻酔をすると麻酔管理加算 2 が加算されます)に、Dr が行っていたインチャージやサマリー作成等周術期管理の緻密なバックアップ、周術期疼痛管理チームの立ち上げ(疼痛管理加算されます)等をお願いしております。残念ながら手術室ナースの不足で、手術室がまわりません。

【診療実績】

麻酔科管理症例数は、1,176 症例(2023 年度)、1,077 症例(2022 年度)、1,120 症例(2021 年度)でした。2023 年は脳外科 20 症例、100 歳以上が 3 症例でした。危機的偶発症例は 3 例で、血圧低下しないはずのレミマゾラム導入での心不全患者さんの血圧低下、ER で手術開始となった大出血、高度肥満によるリカバリーでの酸素飽和度低下で、いずれも救命できております。臨床研修医の受け入れは 8 名、うち県立志摩病院から 2 名、救急救命士の受け入れはビデオ喉頭鏡(AWS)の実習 2 名でした。コロナ禍の影響、術前併存症の重症化、麻酔科医確保(世代交代)等が、また、OR ナース確保が課題となっております。

【科の特色・積極的に取り組んでいること】

当科は、課題解決の意味もあり、モニターの活用が他施設に比して比較的積極的といえます。筋弛緩モニターT0Fcuff の装備充実は大学にも劣りません。また、当手術室では全室全症例非常勤の先生も含め挿管のプロフェッショナル達が 100%マックグラスで気管挿管を実施しており、挿管困難は忘れてはならないものの過去の脅威として忘れ去られようとしています。当院救急外来にもマックグラスを置いており、販売台数からは置いてない病院はないのではないかとはいわれ、慣れない研修医や救命士が、従来の喉頭鏡で訓練する意味はないといえる状況になりつつあります。救急救命士の気管挿管実習 30 症例が古い喉頭鏡に指定されていることについて、コロナ禍も相まって、30 症例実習受け入れ拒否の消極的改善要求を続けさせていただくことで社会的責任を果たしていく所存となっております。

さて、臨床研修医の麻酔科ローテートは厚生労働省による必修指定ではありませんが、教育熱心な心ある病院は救急外来とセットで麻酔科を必修としている施設がほとんどであります。大学レベルの忙しい救命室では、研修医は邪魔者扱いされ、見学に始終することになります。当科では、 α と β 昇圧薬、晶質液と膠質液、人工呼吸器といった生きた基本的臨床資料が充実しており、針の構造から静脈穿刺法を科学的に解説した資料は、1 年目の研修医によれば「4 月に聞いたかった」といった声が続出しております。

(野瀬 浩文)

歯科口腔外科

近年、超高齢化社会に加え、周辺科学の進歩などにより疾病構造に変化がもたらされています。当科でも整形外科、婦人科、内科などで処方されるビスフォスフォネート製剤の副作用である顎骨壊死や化学療法にともなう口腔粘膜炎、真菌感染症などが増加していて、対応しています。また、超高齢者の増加にともない、経口摂取の可否を判断するためと思われる地域の医療機関、老健施設などから嚥下造影検査の依頼が増加しています。院内では毎週月曜日 11 時 50 分より嚥下回診を行っていますが、他院、他施設からの見学者も増えています。

他科での悪性腫瘍の手術、化学療法、放射線治療を行っている患者さんの周術期口腔管理も積極的に行っています。

現在まで多様な有病者の歯科治療、口腔外科疾患治療、嚥下障害への様々な角度からのアプローチを行ってきましたが、上述したように社会のニーズに応えられる病院の歯科口腔外科を目指したいと考えています。

(三宅 哲)

健康管理科

(1) 2023 年度の実績

①健康診断

- ・人間ドック 1,035 件 (一日ドック 1,009 件、二日ドック 26 件)

※うち肺 CT 検査 (オプション) 94 件

- ・脳ドック 137 件 (単独 15 件、ドックオプション 122 件)
- ・簡易脳ドック 15 件
- ・市民健診 3,099 件
- ・協会健保健診 1,216 件
- ・契約健保健診 204 件
- ・事業所健診 520 件

(安衛法 66 条第 1 項に基づく一般健診：雇入時・定期・海外派遣労働者、安衛法 66 条第 2 項に基づく特殊健診のうち、高圧室内・潜水業務、放射線業務、特定化学物質を取り扱う業務、有機溶剤を取り扱う業務の健康診断)

- ・各種がん検診 (肺・大腸・子宮・乳房・前立腺・胃がんリスク層別化検査) 1,347 件
(人間ドックオプション検査含む)
- ・一般健康診断、市職員採用健診など 535 件
- ・乳がん検診 (第 4 土曜日) 71 件
- ・集団健診 総計 5,360 件

(横須賀市職員 (本庁) 3,101 件、横須賀市公立学校職員 1,494 件、市民病院職員 485 件、(一財) シティサポートよこすか職員 276 件、(株) アルファシステムズ職員 4 件)

- ・特定健康診査 3,271 件 (単独 886 件、オプション 2,385 件)

②その他

- ・特定保健指導 22 件 (積極的支援 6 件、動機づけ支援 16 件)
- ・予防接種 318 件 (インフルエンザ 153 件、肺炎球菌 28 件、その他 137 件)

(2) 科としてアピールしたいこと

健康管理センターでは人間ドック・脳ドックをはじめとする健康診断や各種がん検診、メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群) に着目した「特定健診・特定保健指導」などを通じて、皆様の健康づくりを支えていきたいと考えています。

「まもる健康からつくる健康へ」を合言葉に、より一層質の高い健康サービスを提供するよう努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

(杉本 孝一)

(診 療 支 援 部)

【診療看護（NP）について】

2023年4月より当院では初めて診療看護師（NP）の活動が開始され、診療部に1名在籍しています。2023年3月に大学院修士課程と看護師特定行為（38行為21区分）を修了し、日本NP教育大学院協議会の資格試験を経て診療看護師（NP）となりました。現在、全国で759名が登録されております。

診療看護師（NP）は、特定行為研修に先立ち医療サービス地域偏在の解消を目的に2008年にスタートしました。定義として、医師・薬剤師等の他職種と連携を図り、一定レベルの診療を自律的に遂行し、「症状マネジメント」をタイムリーに実施し、患者のQOLの向上を図ることとされております。タスクシェア・タスクシフトとしてチーム医療の架け橋となれるよう、特定行為や相対的医行為を手段として患者ケアに対応しています。

【2023年 活動報告】

本年は、卒後臨床研修として活動体制づくりと麻酔科・関節外科・脳神経外科・循環器内科・外科の診療科ローテーションを行いました。大学院で学んだ臨床推論や他職種連携・各種手技を駆使し、医師の直接指示のもと外来診療・病棟管理を実施できる様に代行入力権限を頂きました。

各診療科では、ガイドライン・最新研究に基づく治療・経験からのコツを熱心にご指導頂き、周術期麻酔管理・手術/カテーテル検査助手・病棟管理（代行入力で指示簿入力・検査・点滴オーダー・輸血準備・内服調整・ICU/HCU入室申し込みや、医師が実施している血液培養検査・胃管挿入・男性導尿・造影・化学療法・輸血ルートキープ）など医学的視点と看護学視点を合わせた患者ケアを提供できるように努め、担当看護師と情報共有を積極的に実施しました。初期研修医・特定ケア看護師と共同して実施することもありました。ローテーション診療科のみならず主治医から依頼があった際は院内横断的にタスクシェアを実施しました。

診療補助の一部として、麻酔管理187件・関節外科/脳神経外科/外科を合わせた手術助手51件・循環器内科/脳神経外科カテーテル助手30件でした。特定行為に該当する手技も医師指導のもと実施しました。気管チューブ管理・侵襲的陽圧換気の設定・人工呼吸器管理中の鎮静・人工呼吸器からの離脱が一番多く138件、創部ドレーン抜去21件、直接動脈採血15件、橈骨動脈ライン8件、その他一時ペースメーカーの操作管理と抜去、CVC抜去、褥瘡壊死組織除去と陰圧閉鎖式療法など20行為に該当したケアがありました。

災害医療では、DMATとして能登半島地震の医療派遣に参加しました。看護ケアの視点が広がる情報共有を実施できるよう、日々精進していきます。

(埴 美穂)

薬 剤 部

薬剤部は、医薬品の適正使用と医療安全をモットーに、すべての病棟に薬剤師を配置することで責任を持った薬物療法に努めてまいりました。理念である「チーム医療の一員として誰からも頼られ信頼される薬剤師を目指すこと」は、医療スタッフのみならず患者家族にとっても相談のできる薬剤師として力量を発しています。薬剤師 17 名、調剤補助兼事務 2 名は、決して余裕のある人数ではありませんが、行うべきことを第一に考え、円滑な業務を目指しました。

注射薬管理の一元化により不良在庫を一掃することが可能となり、徐々に経営面への効果も見られ始めています。医薬品の供給が十分でない昨今ではありますが、個々の治療方針を理解して調剤をすることで必要な薬品に対して治療の弊害にならないよう先読みをした医薬品の購入に繋げることが行えました。

また、入退院支援センターに常駐することは、予定入院の患者さんに、入院前からの薬学的介入につながりました。特に休薬を要する薬剤は、抗血栓薬に限らず多岐に渡るため、十二分に注意を払うことで、安全確保に努めました。保険調剤薬局との連携をとることを重視し協力を仰ぐとともに、退院サマリーの作成によりシームレスな薬剤管理を目指しました。

院内のチーム活動に対しても可能な限り参入してきました。薬学的な視点で関わるのが、他部門との情報共有の場となり、しいては薬剤管理指導へとつながる最適な医療となっています。

業務を推進するにあたり、薬剤師一人一人が自己研鑽を積み、新たな認定薬剤師も生まれました。業務外の研修への参加も惜しまず、医療のための行動が個々の成長にも力となりました。学会発表に加え、医学誌への投稿実績も残しております。その成果を臨床へフィードバックすることで地域に密着した薬剤部を目指します。

【認定取得人数】

・がん薬物療法認定薬剤師	1 名	・外来がん治療専門薬剤師	1 名
・緩和薬物療法認定薬剤師	1 名	・緩和医療暫定指導薬剤師	1 名
・麻薬教育認定薬剤師	1 名	・腎臓病療養指導士	1 名
・抗菌化学療法認定薬剤師	1 名	・心不全療養指導士	1 名
・高血圧・循環器病予防療養指導士	1 名	・日本糖尿病療養指導士	1 名
・栄養サポートチーム専門療養士	3 名	・摂食嚥下専門療養士	1 名
・日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師	1 名	・簡易懸濁法認定薬剤師	1 名
・認定実務実習指導薬剤師	4 名	・日病薬病院薬学認定薬剤師	3 名
・日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	1 名		

(相澤 康子)

リハビリテーション療法科

当科では、入院された患者さんが円滑に自宅退院・社会復帰できるようにリハビリテーションの立場から支援をさせて頂いております。リハビリテーションの需要は増加し、ニーズも多様化しています。当院では急性期リハビリテーションから回復期リハビリテーションまでの幅広いリハビリテーションを提供させて頂いております。

【職員構成】理学療法士 14名 作業療法士 7名 言語聴覚士 2名

【対象疾患】運動器疾患・脳血管疾患・心大血管疾患・呼吸器疾患・腎臓疾患 等

【基本方針】地域の医療ニーズに対応し、その中核的役割を果たす自治体病院として、必要十分な医学的リハビリテーションを提供する。「人間らしく生きる権利の回復」すなわち「全人間的復権」を重要視し、患者の家庭・社会復帰を目標とする。地域の病院や施設と連携を図り、医学的リハビリテーション・サービスの充実と向上に努め、良好な地域リハビリテーションに貢献する。

【基本理念】安心・安全に成長できる組織 ・ 患者さんに貢献できる組織

【2023 年度の主な取り組み】

1. 回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟への貢献
2. 院内感染対策の継続、安全なリハビリテーションの提供
3. 幅広い業務に対応できる職員の育成

【2024 年度の重点目標】

1. 回復期リハビリ病棟・地域包括ケア病棟への貢献
2. 院内感染対策の継続、COVID-19 患者へのリハビリの提供
3. コンプライアンスの見直し、効率的な業務の見直し
4. 幅広い業務に対応できる職員の育成

【各種認定資格等】

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ・ 心臓リハビリテーション運動指導士 1 名 | ・ 3 学会合同呼吸療法認定士 1 名 |
| ・ 認定理学療法士（循環） 1 名 | ・ 臨床実習指導者講習会修了者 9 名 |
| | (岡山 博信) |

放射線技術科

【職員構成】診療放射線技師(常勤 16 名、非常勤 1 名)

【業務基本方針】

- ・高度医療機器の共同利用に積極的に取り組んでいます。
- ・より良い医療サービスを提供できるように、常に医療技術の研鑽を行っています。
- ・各診療科医師と連携し診断価値の高い画像を提供していきます。

【2024 年度目標】

1. 財務の視点：高度医療機器の稼働率向上、紹介患者撮影件数の増加、検診者の増加
2. 内部プロセスの視点：CT 運用検討、MRI 運用検討、RI 検査数増加、骨塩定量増加
3. 学習と成長の視点：認定資格の取得と維持、専門技術の向上、タスクシフト/シェア
4. 顧客の視点：安全な検査の実施、放射線被ばく管理への対応

【検査金額の推移】

(単位：千円)

検 査 項 目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
一 般 撮 影 金 額	121,477	103,171	91,695	92,056	92,800
造 影 検 査 金 額	150,446	136,537	144,547	141,297	126,290
検 診 金 額	46,676	38,667	43,508	43,125	41,679
CT・MRI 検査金額	302,453	284,266	258,344	261,526	250,613
R I 検 査 金 額	6,227	6,065	8,412	8,393	8,531
放射線治療金額	19,966	11,955	14,556	29,923	16,630
合 計 金 額	647,245	580,661	561,062	576,320	536,543

*造影検査にはカテーテル治療・消化管手術等を含む

【認定資格等】

- ・検診マンモグラフィー撮影認定技師 (マンモグラフィー精度管理中央委員会) 2 名
- ・放射線管理士 (日本放射線技師会) 1 名
- ・胃がん検診専門技師 (日本消化器がん検診学会) 2 名
- ・胃 X 線検診読影補助認定技師 (日本消化器がん検診学会) 1 名
- ・肺がん CT 検診認定技師 (肺がん CT 認定機構) 1 名
- ・X 線 CT 認定技師 (日本 X 線 CT 専門技師認定機構) 2 名
- ・磁気共鳴専門技術者 (日本磁気共鳴専門技術者認定機構) 1 名
- ・救急撮影認定技師 (日本救急撮影技師認定機構) 1 名
- ・血管造影・インターベンション専門診療放射線技師 1 名
(日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構)

(赤松 芳行)

臨床検査技術科

【職員構成】 臨床検査技師 21 名（うち非常勤 1 名、病理診断科兼務 3 名）

【業務基本方針】

1. 「患者さん第一の医療・検査」を実践します。
2. 診療支援体制の強化と患者さん満足度の向上を図ります。
3. 正確で信頼される検査結果を迅速に提供します。
4. 経営効率を追求します。

【重点的取り組み】

1. 採血室・・外来診療の最前線であると認識し、採血技術、接客能力の向上に科員全員で取り組んでいます。
2. 検体検査・・早出体制で病棟の検体を回収し、外来診療前に結果を報告しています。診療の円滑化に寄与しています。また日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会が定める精度保証施設認証を受けております。
3. 生体検査・・超音波検査は予約検査のみならず当日予約外検査にも対応し診療に貢献しています。また地域連携の取り組みとして開業医から超音波検査の依頼を受けています（2023 年度 111 件）。

【各種認定技師】

- ・ 2 級臨床検査士 6 名（臨床化学、血液学、微生物学、病理学各 1 名、免疫血清学 2 名）
- ・ 緊急臨床検査士 2 名
- ・ 認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師 1 名
- ・ 認定病理検査技師 1 名
- ・ 細胞検査士 3 名
- ・ 国際細胞検査士 3 名
- ・ 分析器試薬アナリスト 1 名
- ・ 遺伝子分析化学認定士（初級）1 名
- ・ 超音波検査士 5 名（腹部 5 名、心臓 2 名、泌尿器 2 名、体表、健診各 1 名）

【チーム医療】

NST、ICT、AST、医療安全、糖尿病ケアチームに参加し臨床検査技師としての役割を担うべく努力しております。

【タスクシフトシェア】

医師の働き方改革を進めるためのタスクシフトシェアの厚生労働省指定講習会を受講し、臨床検査技師に示されたタスクシフトシェアの業務を実施できるように努めています。

（長谷川 敏博）

栄 養 管 理 科

【業務目的】

患者個々に適正で安全な食事提供と栄養管理を行い早期の病状回復を図ること、栄養食事指導を行い食生活と栄養状態の改善を図ることを目的とします。

【組織及び人員構成】

栄養管理科は医療技術部に属し、栄養管理科長以下、管理栄養士 5 名で構成されています。献立作成・発注・食数管理・盛り付け・配膳・食器洗浄等の給食業務は、給食会社へ全面委託しています。

【給食管理】

献立は成分栄養で管理し、食事は患者個々に医師の指示を受けて提供をしています。食品アレルギーがある患者や化学療法による食欲不振時には個別対応した食事とし、また、摂食や嚥下機能に問題がある場合はその方に適した形態の食事を提供しています。

【栄養管理】

入院・外来患者に対して栄養食事指導を実施しています。個人のライフスタイルを尊重し、患者自身が実生活の中で改善して継続できるよう支援します。

また、入院患者の栄養管理においては GLIM 基準を導入し早期に栄養介入し、維持・改善を図っています。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・個人指導（入院・外来）月～金曜日 | 予約制 9：00～16：30 14 件／日 |
| ・糖尿病教室 隔月（偶数月） | 予約制 13：30～16：30 |
| ・腎臓病教室 4 回／年※ | 予約制 14：00～16：00 |

※2023 年度は 1 回のみ縮小して開催

【チーム医療】

管理栄養士は病棟担当制とすることで病棟カンファレンスへの参加等を通じてチーム医療を実現し、また、栄養管理委員会に属する 3 つのチーム（嚥下、褥瘡対策、NST）や緩和ケアチーム、心不全チーム、認知症ケアチーム等多職種と連携して患者に最適と思われる栄養療法を検討しながら栄養状態の改善を目指しています。

【資格】

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| ・臨床栄養師 1 名 | ・摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士 1 名 |
| ・在宅訪問管理栄養士 1 名 | ・日本栄養士会災害支援チームリーダー 1 名 |
| ・糖尿病療養指導士 1 名 | ・腎臓病療養指導士 1 名 |

（青木 恭子）

ME センター

【職員構成】 ME センター長（循環器内科診療部長）1 名、臨床工学技士 11 名

【基本方針】

チーム医療の一員として、医師及びその他の医療関係者との緊密な連携を図り、医師の指示に従い生命維持管理装置の操作を行い、また保守点検に対する臨床技術提供を行うことで適正な医療の確保に努めます。

【業務実績】

・カテーテル業務

心臓カテーテル検査は心臓病の診断をするための検査方法であり、冠動脈治療の必要性や手術の適応を決定する重要な検査です。臨床工学技士は検査一連の記録をするためにコンピュータを操作し、また、造影室内にある装置の操作を行います。緊急時には、補助循環装置やペースメーカーなどを操作することもあります。その他腎臓内科のシャント PTA や消化器内科の TAE、脳血管外科の CAS 等全ての造影検査、治療に関わっています。

・血液浄化業務

体内に貯まった老廃物などを排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合に行う治療で、血液透析療法、血漿交換療法、血液吸着療法など様々な血液浄化療法を実施します。臨床工学技士は穿刺や人工透析装置の操作を行い保守点検も行っています。

・医療機器管理業務

様々な分野で使用される医療機器を安全に使用できるように、また、機器の性能を維持できるように保守・点検を行います。また、医療機器の一括管理を行い、効率的で適切な運用ができるように努めています。

・内視鏡業務

胃カメラや大腸カメラの通常検査だけでなく、色素散布、生検、止血術、腫瘍の切除などの介助及び操作を行います。緊急に備えオンコール体制もとっています。

【資格】

- | | | | |
|-----------------|-----|-----------|-----|
| ・ 3 学会合同呼吸療法認定士 | 3 名 | ・ 透析技術認定士 | 4 名 |
| ・ 植込み型心臓デバイス認定士 | 2 名 | | |

（今井 隆二）

看護部

総 括

I 看護部の理念

すべての地域の皆様から信頼され満足していただける、質の高い看護を提供します

II 看護部方針

1. 看護職一人ひとりが専門職として、生命の尊厳と人間性を尊重した看護を実践します
2. 看護職の倫理綱領に基づき、安全・安心・信頼される看護を提供します
3. 地域の中核病院として看護職が専門性を発揮し、患者・家族および保健医療チームから信頼されるよう知識・技術・人格を高め、地域医療に貢献します
4. 組織の一員として他部門との連携をはかり社会・医療の変化に柔軟に対応し、積極的に病院経営に参画します

III 看護部重点目標及び実績

1. 安全で質の高い看護の提供

病院理念である「ありがとう」と言っていたける、そして看護部理念である信頼して満足していただけるためには、安全は不可欠であると考えます。

新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に 5 類感染症に移行し、2019 年から運用していたコロナ病棟を閉鎖いたしました。それに伴い、新型コロナウイルス感染症患者を一般病棟で受け入れるため、陰圧個室の管理や感染対策の再確認等、スタッフや患者が安心して療養できるよう体制を整えました。また、感染対策室指導のもと対策を実践し、特に感染対策の基本である手指衛生を遵守し、手指消毒実施率を向上することができました。

2023 年度の転倒転落発生率は 1.67%であり、そのうちアクシデントに相当するレベル 3b は 0.06%でした。身体抑制実施率は 23%と高めであるため、認知症ケアチームとも協働し、日々のカンファレスや観察を強化し、低減に向けて今後も取り組んでまいります。

2. 専門職としての自律を目指した人材育成

地域医療振興協会の求める看護師像として「いつでも、どこでも、限られた資源の中で、自ら行動する看護師」と掲げられています。ジェネラリストの育成として、地域振興協会共通クリニカルラダーを活用し専門職としての学習が継続できるよう、教育委員会が中心とな

って研修を実施いたしました。また、へき地や地域医療について学ぶため、伊豆方面の協会内他施設で実施された地域医療振興協会本部主催の研修に参加しました。

当院には、特定ケア看護師、専門看護師、5分野の認定看護師がスペシャリストとして活躍しています。スペシャリストが現場の看護師と協同することでエビデンスのある看護や豊富な経験から生きた指導を受けることができ、看護の質の向上や将来的にスペシャリストを目指したい看護師の育成にもつながると考えます。引き続き看護師として学び続けられる環境を目指します。

3. 働き続けられる職場環境の構築

昨年度より応援体制の構築を積極的に実施しています。毎朝師長が管理室に参集し、繁忙度を数値化して可視化したものをもとにベッドコントロールを行い、看護師だけでなく、看護補助者も含めた応援体制をタイムリーに実施しました。応援機能を充実させることで一部の部署で業務量や残業が多い状態になるべく少なくできるよう取り組みました。

また、多様な働き方として、希望に合わせた時短勤務（非常勤）の雇用や、男性の育児休暇の取得等、ワークライフバランスに合わせた対応を今後も続けてまいります

4. 積極的な病院経営への参画

ICU・HCU、急性期病棟それぞれの患者状況や重症度、医療・看護必要度等の情報を共有、ベッドコントロールすることで施設基準の維持に努めました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い一時休床していた地域包括ケア病棟を、2023年6月に再開棟いたしました。2023年度の地域包括ケア病棟の稼働率は41.4%であり、今後は急性期病棟での治療後の在宅復帰を目指す患者の院内の転棟のみでなく、レスパイトや他施設からの在宅調整の患者の受け入れを積極的に増やし、地域住民のニーズに対応してまいります。

また、回復期リハビリテーション病棟は入院基本料3を取得しております。全体の平均在院日数は15.2日と前年度と比較し1.6日長期化していることも鑑み、地域医療連携室やリハビリテーション科と連携し、効率的なベッドコントロールを強化し、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の活用、入院時からの早期介入の退院支援を積極的に行っています。

また、病棟間の応援だけでなく、診療を終えた外来部門や手術室からの病棟への応援等、看護部全体での応援体制が定着しつつあります。限りある人材を活用し、業務負担の軽減や残業時間の削減を目指しています。

(田島 里絵)

(資料1) 2023 年度 看護職員の継続教育実施状況

クリニカルラダー研修

研修名		目 的	開催日
新人研修	新採用者研修 医療安全	医療安全の目的・個人情報保護について知識を深め行動できる	2023 年 4 月
	新採用者研修 感染管理	基本的な感染対策についての知識を得る	2023 年 4 月
	教育体制について	教育体制について理解し自らのスキル向上についてイメージできる	2023 年 4 月
	接遇マナーについて	病院における接遇マナーについて理解し対応できる	2023 年 4 月
	医 療 安 全	インシデントが発生した場合の対応を学び、実践に活かす	2023 年 6 月
	技 術 演 習 感 染 対 策	正しい感染多作の知識を持ち実践できる 自分自身を守り、さらに感染の媒介にならないよう管理できる	2023 年 4 月
	技 術 演 習 褥 瘡 予 防 ・ 移 乗 ・ 移 送	患者の状況に合わせた褥瘡予防対策を理解する 患者の安全安楽を考えたケアができる	2023 年 4 月
	技 術 演 習 移 乗 ・ 食 事 介 助	患者の状況に合わせた移乗方法と食事介助の方法を理解する	2023 年 4 月
	技 術 演 習 静 脈 採 血	採血の手技に関して知識の習得と、業務マニュアルに準じた手技が実施できる	2023 年 5 月
	技 術 演 習 吸 引	呼吸についてのフィジカルアセスメントや解剖整理について理解し、エビデンスに基づいた吸引が安全に実施できる 業務マニュアル・院内感染対策諸マニュアルに沿って、吸引についての知識と技術が習得できる	2023 年 6 月
	技 術 演 習 急 変 時 対 応	急変時対応について理解し実践できる	2023 年 6 月
	技 術 演 習 医療機器の取り扱い	医療機器の取り扱いの基本知識と基本操作の技術が習得できる	2023 年 7 月
	技 術 研 修 末梢静脈確保 (留置針)	末梢静脈確保の手技や管理に関しての知識の習得を、業務マニュアルに準じた手技が実践できる	2023 年 10 月
	組 織 管 理 コミュニケーションスキ	組織の概要、理念、目標、体制を学び、組織の一員としての自己の役割が理解できる	2023 年 4 月
			2023 年 5 月
			2024 年 3 月
	患 者 体 験	移送・抑制体験、手術室体験を通して患者の苦痛や不安を理解することができる	2023 年 4 月
	看 護 記 録	電子カルテの操作の演習	2023 年 4 月

研修名		目 的	開催日
新人研修	看 護 記 録	看護記録の意義について理解し、必要な情報を記載できる	2023 年 5 月
	フィジカルアセスメント 循 環 ・ 呼 吸	フィジカルアセスメントを理解し日々の看護に活かすことができる	2023 年 6 月
	薬 剤 の 知 識	安全に薬剤を扱うため、知識を習得し実際の業務に活用できる	2023 年 7 月
	看 護 観 の 形 成	看護体験を振り返ることで、自分の長所に気がつき、自分が考える看護を言葉で表現できる	2023 年 7 月 2024 年 2 月
	看 護 倫 理	看護倫理の基礎を学び、倫理観を深めることができる	2023 年 10 月
	退 院 支 援	当院の退院支援の方法を学び、知識として習得できる	2023 年 11 月
	フ ォ ロ ー 研 修	研修における新人の状況を把握し、部署と連携を図ることができる 新人看護師が自身の思いや考えを表現し、お互いに共有することができる 同期の絆を深める事ができる 看護師・社会人としての自己の成長を感じることができる	2023 年 4 月
			2023 年 5 月
			2023 年 6 月
			2023 年 7 月
			2023 年 8 月
			2023 年 9 月
			2023 年 10 月
			2023 年 11 月
			2023 年 12 月
			2024 年 1 月
			2024 年 2 月
			2024 年 3 月
I	フ ォ ロ ワ ー シ ッ プ	フォロワーシップとは何か理解し、業務に活かすことができる	2023 年 7 月
I ・ II	急 変 時 対 応	急変が起こる前に患者が発しているサインを知る事ができる 急変予兆に気づき対応することができる	2023 年 7 月
	医 療 安 全	個人のリスク感性を高める事ができる 日常業務におけるリスクアセスメントを行い、主体的に行動できる	2023 年 9 月
	看 護 倫 理	患者個々の倫理的問題に気づき看護の実践ができる	2023 年 9 月
	組 織 的 役 割 遂 行	組織の一員であることを自覚し横須賀市立市民病院の良さを知る事ができる	2023 年 12 月
II	リーダーシップにおけるコミュニケーションとは	リーダーシップを担う上で、どのようにコミュニケーションを図っていったらよいか学ぶ	2023 年 8 月

研修名		目 的	開催日
Ⅱ ・ Ⅲ	プ リ セ プ タ ー 研 修	プリセプターを通して教育観を見出し、今後の人材育成 や日々の看護実践に活かすことができる プリセプターを通して自身がどのように成長できたか を実感することができる	2023 年 4 月
			2023 年 5 月
			2023 年 7 月
			2023 年 9 月
			2023 年 11 月
			2024 年 1 月
			2024 年 3 月
Ⅲ	組 織 的 役 割 遂 行	地域医療振興協会における専門的能力を要する役割を 果たし、自身の役割を考え今後のキャリアアップを図る きっかけを作る	2023 年 10・11 月
Ⅲ ・ Ⅳ	災 害 看 護	災害時に迅速克適切な対応ができるようにする 危機管理体制を確立し周知徹底する 普段から災害時に対応できる実践技能を身につける	2023 年 9 月
	成 人 教 育	組織の一員として管理的側面から方針や課題を理解し、 他部署との連携や支援するために役割を発揮できる	2023 年 9 月
	急 変 時 対 応	急変時対応について理解し実践できる	2023 年 9 月
	医 療 安 全	心理的安全性やノンテクニカルスキル、ヒヤリハットを どう活かすかについて学び実践に活かすことで医療事 故を未然に防止できる	2023 年 10 月
	看 護 倫 理	チームの中心となってチーム運営を行うために必要な 看護の実践能力、組織的役割遂行能力を身につけ発揮で きる	2023 年 10 月
	退 院 支 援	患者が退院後に生活する上での課題を、院内外その他職種 と情報共有を行い明確にできる	2023 年 10 月
Ⅳ	組 織 的 役 割 遂 行	地域医療振興協会における派遣事業に貢献できる	2023 年 10・11 月
Ⅴ	組 織 的 役 割 遂 行	組織の一員として管理的側面から方針や課題を理解し、 他部署との連携や支援するために役割を発揮できる	2024 年 2 月
Ⅱ ＼ △	看 護 研 究	看護研究を通し、研究に取り組むことの意義を知り、日 常業務の中でも研究的視点を持つことができる 倫理的配慮を考えた研究を行い、病院外で発表すること ができる	講義 7 月
			指導日 2023 年 7・9・11 月

その他院内研修

研修名	目 的	開催日
看護助手との協働のための研修	看護職が看護助手との協働推進のために必要な知識や考え方を理解し、現場での安全な業務実施のための役割分担や業務指示に活用することができる	2023 年 8～9 月
重症度、医療・看護必要度 院内研修	2022 年度診療報酬改訂に伴う変更点を理解できる	2023 年 8 月
	項目ごとの定義を充分理解し正確に評価できる	2024 年 1 月

(資料 2) 2023 年度 看護助手研修

開催日	テーマ	内容	e-ラーニング
8 月	病院組織とチーム医療	看護補助者との更なる協働のための研修 (イ) 看護補助者との協働の必要性 ～何故今、協働が必要なのか (ロ) 看護補助者と協働する看護業務と看護実施体制の 基本的な考え方 ～役割と責任範囲 (ハ) 看護補助者と協働する看護業務と看護実施体制の 基本的な考え方 ～業務内容と業務範囲 (ニ) 看護補助者との協働のためのコミュニケーション ～会議での対話 (ホ) 看護補助者へ業務指示を行う看護師の指示責任 ～指示書	ナーシングスキル
10 月	感染管理	介護現場に必要な感染管理 ～知識・技術・管理	ナーシング メソッド
10 月	看護技術	根拠がわかる実践！口腔ケア①②③ 食事介助の基本知識①②③④⑤	ナーシング メソッド
10 月	医療安全	安全に関する基礎知識と技術	ナーシングスキル
11 月	個人情報プライバシー	個人情報保護の基礎知識	ナーシングスキル
11 月	倫理・接遇	介護現場の接遇マナー ～利用者家族に「伝わる」かかわり方 介護スタッフに必要な倫理 ～基本とポイントをおさえよう	ナーシング メソッド

(資料3) 院外研修

主催	研修会名	開催日
公益社団法人地域医療振興協会	新人主任研修会	2023 年 6 月・8 月
	中堅師長研修	2023 年 8 月・9 月
	へき地・地域医療施設 1 泊 2 日見学研修	2023 年 11 月・12 月
横須賀市 健康部 健康総務課	横須賀市 2 年目看護師パワーアップ研修	2023 年 8 月
神奈川県看護協会	がんばれ新人ナース	2023 年 5 月
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	2023 年 6 月
ヴェクソンインターナショナル株式会社	23' 「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	2023 年 6 月～8 月
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	看護実習指導者講習会	2023 年 6 月～9 月

西 3 階病棟

【診療科】循環器内科、腎臓内科

【2023 年度部署目標】

1. 看護実践能力を向上し、専門性のある丁寧な看護の提供を促進する
2. 業務の効率化を図り、働きやすい職場環境の構築を目指す

【部署概要・活動報告】

2 つの診療科の混合病棟で許可病床は 51 床、そのうち陰圧個室 3 床を有し、COVID-19 陽性や結核等の隔離が必要な患者の受け入れを行っています。2023 年度当病棟の入院患者総数は 12,589 人、平均在院日数は 14.7 日でした。

循環器内科は心臓疾患や下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル検査及び治療、不整脈治療としてのペースメーカー植え込みやジェネレーター交換を目的とした入院が中心となっています。腎臓内科の多くは慢性腎臓病に対するシャント造設や透析導入、腎不全、ネフローゼ症候群、電解質異常等の治療を目的としています。

2 つの診療科とも疾患の特性上、病とともに過ごす生活を余儀なくされるため、これまでの生活習慣の見直しが必要であり、退院後も内服の継続、塩分等の食事制限や水分、体重管理等が必要となります。継続した医療と患者個々の意思決定を支援できるよう、各科の医師を含めた多職種カンファレンスで情報を共有し、病棟看護師と地域連携室退院支援看護師、MSW やリハビリテーション科と連携して退院支援をおこなっています。退院後も再入院を予防する取り組みとして、病棟に在籍している慢性心不全看護認定看護師 1 人、心不全療養指導士 3 人が退院後の生活状況について心不全外来で面談をおこなっています。さらに、心不全教育入院の受け入れを開始するなど専門性の高い看護提供と人材育成に努めています。

また、今年度より認知症ケア認定看護師 1 人が加わり、高齢化率の高い入院患者の療養サポートに努めています。

(野中 志保)

西 4 階病棟

【診療科】産後ケア

【病床数】4床

【部署概要・活動報告】

経験豊富な助産師が対応しているので安心できるとの声があり、リピーターも多いです。児童相談所や行政の母子保健担当者と連携をとる事例もありました。助産師が寄り添い子育て支援を行うことで、母児が心身ともに安らげるよう関りを継続しています。

(岸 ひとみ)

西 5 階病棟

【診療科】 消化器外科、消化器内科、眼科

【2023 年度部署目標】

1. チーム医療の充実を図り、安全で安心な看護を提供します
2. 専門職として自律し、知識・技術を学び続ける姿勢を持ち、看護を実践します

【部署概要・活動報告】

手術・検査からターミナルケア、初期治療から治療後のフォローまで継続した医療・看護の提供を目指しています。

入院患者の高齢化への配慮や苦痛を最小限にできることを目的とし、侵襲の少ない内視鏡や腹腔鏡での検査や手術に対応しています。入院時から患者・家族が退院後の生活をイメージし療養生活を送れるよう、入院時より MSW・退院支援看護師と週 3 回のカンファレンスを行い、退院支援にも力を入れています。また、リハビリテーション療法科と協働し、早期離床を進め ADL 低下予防に努めています。

ターミナル期には緩和ケアチームと連携を取り、疼痛コントロールや精神的苦痛の緩和に努め、残された時間をその人らしく過ごせるよう、患者・家族の希望にできるだけ寄り添ったケアが提供できるよう心がけています。

ストーマリハビリテーション講習会を受講した「ストーマチーム」のスタッフが皮膚排泄ケア認定看護師と連携し、術前からの指導、管理を行っています。毎週火曜日のストーマ外来はチームメンバーが担当し、退院後のフォローも継続して行っています。

病床稼働率 65.5%、平均在院日数 10.2 日で、クリニカルパスによる短期入院も増加していますが、患者・家族とのコミュニケーションを大切にし、個々に合った看護ケアの提供、多職種との連携を強化し、充実したチーム医療を提供できるよう努めています。

(岸 ひとみ)

西 6 階病棟

【診療科】 整形外科、関節外科、泌尿器科

【2023 年度部署目標】

1. 看護師一人一人が組織の一員として病院の経営に参画する
2. 安全で質の高い看護が提供できる人材を育成する
3. 応援体制を取りながら協働でき、長く働ける働きやすい職場環境を作る

【部署概要・活動報告】

3 科編成の混合病棟であり、入院患者の割合は関節外科 29.9%、整形外科 19.5%、泌尿器科 48.3% で 1 日平均在院患者数 39.4 名、平均在院日数は 13.6 日、病床稼働率は 72.9% でした。

整形外科では、主に大腿骨骨折による手術や、胸・腰椎の圧迫骨折によるリハビリテーションでの入院が多く、手術後は ADL の回復に時間を要するため、患者・家族と連絡を十分にとりながら MSW と連携し退院調整を行なっています。

関節外科では、変形性膝関節症のため高位脛骨骨切り術を目的とする患者が入院し、手術後は 1 本杖で歩行が出来る状態までリハビリテーションを行い、安心して自宅へ退院できるように援助しています。また、2019 年度からは大腿骨骨折の手術件数も増えているため、適切な時期に回復期リハビリテーション病棟への転棟ができるよう医師やリハビリテーション療法科、転棟先のスタッフと情報共有を行っています。

泌尿器科は、経尿道的手術や結石の破砕術、腹腔鏡手術目的の入院や Biojet による前立腺針生検や前立腺の水蒸気治療（REZUM）など先端医療にも数多く携わっています。また、ターミナル期での疼痛コントロール目的の入院などもあります。ターミナル期の患者さんには緩和ケアチームと協力し、患者さんが安楽に過ごせるよう情報共有を行っています。

常に患者・家族の安心・安全を優先し、医師やリハビリテーション療法科スタッフ、薬剤師、MSW、退院支援看護師と連携しチーム医療の充実を図るため努力しています。

（佐久間 照美）

中 3 階病棟

【診療科】脳神経内科、脳神経外科、内分泌・糖尿病内科

【2023 年度部署目標】

1. 他部署でも勤務できるスタッフを育成し、協働し働きやすい職場環境を作っていきます
2. 適切な感染管理を行い、安全な療養環境を提供します
3. スタッフ同士が成長し合える職場風土を作り、自律した看護師を育成します

【部署概要・活動報告】

2023 年度は 779 名の入院を受け入れ、全体の 38%が緊急入院でした。診療科の割合は脳神経内科が 35%、脳神経外科が 31%、内分泌・糖尿病内科が 19%、その他の診療科が 15%、平均在院日数は 17.4 日でした。

診療科の特殊性から機能障害が残存することが多いことや、近年では患者・家族の高齢化や家族関係の複雑化など社会的背景も様々であり、治療後に元の生活に戻ることができず、入院を機に生活の場の変更を余儀なくされる場合もあります。個々の患者に適した療養環境に戻れるよう、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・薬剤師・栄養士・MSW など多職種で意見交換を行なう場を定期的に設けることで、多角的に患者や家族の状況を把握し支援しています。

当病棟では 2 人の看護師がペアとなり複数の患者を受け持ち、協力して業務を行なう看護方式である PNS を導入してから 6 年以上が経過しました。ペアがお互いの意見を伝え合い、患者にとってより良い看護を考えることができるようになり、PNS のメリットを発揮することができています。

当病棟には 4 名の糖尿病療養指導士が所属しています。4 名を中心に患者の個別性に合わせた継続した指導や介入を実施しています。今後もスタッフ個々の知識や技術の向上を図り、質の高い看護を提供していきたいと考えています。

(村石 一郎)

東 3 階病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

【診療科】 脳神経外科、脳神経内科、整形外科、関節外科、外科

【2023 年度部署目標】

1. 回復期リハビリテーション病棟の看護師として看護の専門性を発揮し安全安心な看護を提供します
2. 多職種と連携し退院後も自信をもって療養生活が送れるように支援します

【部署概要・活動報告】

回復期リハビリテーション病棟では、急性期の治療を終え、自宅や社会に戻ってからの生活を、元に近い状態に近づけるためのリハビリテーションを専門に行います。対象疾患は脳血管疾患、脊椎疾患、大腿骨骨折、変形性膝関節症の手術後などです。入院期間は疾患や状態により異なりますが最大 180 日、1 日最大 3 時間のリハビリテーションを行います。

2023 年度の 1 日平均入院患者数は 18 名、平均在院日数は 61 日、在宅復帰率は 94.1%でした。

回復期リハビリテーション病棟では最大 3 時間のリハビリ訓練だけでなく、起床から就寝まで、食事や更衣、歯磨きや整容、排泄などの日常動作も含めた生活そのものをリハビリととらえ、24 時間生活援助を行います。

患者家族が安心して自宅に帰れるよう、病棟看護師を含め、医師、理学療法士、作業療法士、メディカルソーシャルワーカー、退院支援看護師、薬剤師、管理栄養士などの院内の多職種、また、地域の医療機関や行政と連携をとり、自宅の状況に合わせて強化したリハビリの提供に加えて介護保険申請の案内や福祉サービスの調整など在宅復帰に向けた支援を行っています。

(渡辺 美恵子)

東 4 階病棟 (地域包括ケア病棟)

【診療科】 全診療科

【2023 年度部署目標】

1. 他職種と協働しより良い在宅療養生活が送れるように支援します
2. 個々の患者に必要な社会資源が提供できるように学びを深めます
3. 患者・家族に寄り添った安全で安心な看護を提供します

【部署概要・活動報告】

2023 年 6 月に東 4 階病棟(地域包括ケア病棟)を再開棟し、主に在宅復帰に向けての退院支援を行っています。急性期治療が終了した患者さんの退院後の生活がより安全に安心して過ごせるように考え、退院支援看護師・MSW・リハビリテーション担当者・薬剤師・管理栄養士など多職種と連携しながら退院支援を行っています。また、本人への指導だけではなく、在宅療養に向けた家族指導や本人・家族の方の思いを傾聴し、少しでも不安がなく退院できるようにケアマネジャーとの情報の共有や、継続するプランや追加するプランの確認を行っています。

また、他院からの転院調整をスムーズに行えるようにケアブックのシステムを取り入れ、医師やリハビリテーション担当者と連携しながら受け入れを行っています。その他にもレスパイト入院や救急外来や一般外来からの入院受け入れも行っています。

2023 年度の在宅復帰率 88.3%、自宅や院外からの受け入れ 31%、平均在院日数 32.2 日、平均稼働率 41.1%でした。今年度の自宅や院外からの受け入れ状況を振り返り、今後も患者さんや家族の方に寄り添い、地域の方に貢献できるように努めていきます。

(武田 法子)

特定集中治療室

(ICU・CCU)

【診療科】全診療科

【病床数】4床

【2023年度部署目標】

1. 急性期医療に関して、根拠に基づいた看護を実践する
2. 専門職として知識・技術の向上を図り、チームで共有し、安全・安心な看護を提供する
3. 組織の経営方針を理解し積極的に参画する

【部署概要・活動報告】

2015年から特定集中治療室管理料Ⅰの施設基準を取得、2対1看護体制で高度急性期病床として、危機的かつ重篤な状態の患者や、高齢や合併症等リスクのある患者の術後管理など全診療科の患者の受け入れを行っています。病状によって単科での診療ではなく、複数科での診療が必要な状況も多くあり、各診療科の医師、臨床工学技士、リハビリテーション担当者、栄養士等多職種と連携して回復に向けた支援をおこなっています。

2023年度の延べ患者数は748名、平均在棟日数は11.4日となっています。循環器内科、脳神経外科の受け入れが多く、外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科の術後管理をしました。人工呼吸器やIABP(大動脈内バルーンポンピング)、PCPS(経皮的心肺補助装置)、CHDF(持続的血液透析濾過法)など医療機器を用いた治療に関して、臨床工学技士が院内に常時勤務していることで、高度で精密な医療機器をいつでも安全に使用し、急性期治療を継続することができます。

特定行為研修を修了した看護師の他、呼吸療法認定士、心不全療法指導士の資格を持つスタッフが在籍し、重症患者の治療が安全に継続できるよう支援し、また、急激な状況の変化に不安を抱いている患者、家族に対して倫理的配慮を持った看護を実践しています。

(近藤 舞子)

ハイケアユニット (HCU)

【診療科】 全診療科

【病床数】 12 床

【2023 年度部署目標】

1. 急性期医療に関して、根拠に基づいた看護を実践する
2. 専門職として知識・技術の向上を図り、チームで共有し、安全・安楽な看護を提供する
3. 組織の経営方針を理解し積極的に参画する

【部署概要・活動報告】

2014 年 2 月に 8 床で開棟し、2015 年 7 月から 12 床に増床、ハイケアユニット管理 1 の施設基準を取得しています。

2023 年度延べ患者数は 2341 名、1 日平均患者数は 6.4 名、稼働率は 54.1%でした。急性期看護の提供を主として、救急外来からの入院や一般病棟で急変した患者、術後患者の受け入れを行っており、全診療科の対応にあたっています。

内科系では循環器内科の入室が多く、主な疾患として、うっ血性心不全、冠血管疾患、次いで、腎臓内科では腎不全、消化器内科では消化管出血となっております。消化器外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科のハイリスク患者を術後管理目的で受け入れています。高度急性期看護において、感染と医療安全に関しては十分な配慮と対策を講じ、多職種と連携して、いつでも安心・安全な療養環境の提供に努めています。

また、患者、家族は心身ともに危機的状況にあるため、身体的苦痛・精神的負担を軽減できるような看護ケアの提供と接遇の向上に努めながら、看護師全員が日々学習し自己研鑽に励んでいます。

(近藤 舞子)

外来

【診療科】

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、内分泌化、外科（肛門外科含む）、脳神経外科、整形外科、関節外科、皮膚科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻科、放射線科、歯科、内視鏡室、化学療法室

【専門外来】

ペースメーカー外来、糖尿病フットケア外来、ストーマ外来、がん相談外来、APS 外来、禁煙外来、骨粗鬆症外来

【2023 年度部署目標】

1. 患者の安全を確保した看護の提供
2. 看護師の役割を発揮できる知識と技術の向上
3. 働きやすい職場環境作り
4. 組織の一員として、経営に参画できる

【部署概要・活動報告】

2023 年 8 月より禁煙外来が新設されました。問診をもとに、患者の喫煙歴や生活状況を確認し、医師・看護師・患者・家族とともに禁煙の成功体験に向け診療を実施しています。

関節外科 APS 専門外来は 2 年目になり、毎月実践症例を重ねています。高齢で手術が困難な患者、手術を希望されない方に評判を得ています。

2023 年度は、糖尿病フットケア外来患者数 100 名、ストーマ外来は 133 名、がん相談外来は 110 名（緩和ケア認定看護師 1 名で実施）であり、専門知識と技術を持った看護師が看護専門外来で活躍しています。

内視鏡検査室は検査室 3 室、リカバリールームと検査前処置室を完備しており、24 時間体制で常時検査が行える体制を維持しています。今年度は年間 4,085 件の内視鏡検査を実施いたしました。

化学療法室では日帰りで化学療法を行っております。

多様化している医療に対応できる看護師のスキルアップを図り、外来受診される患者や家族に安心で安全な医療・看護を提供できるよう努めてまいります。

（末綱 和子）

救急外来

【診療科】全診療科

【2023 年度部署目標】

1. 救急看護のスキルアップに努め、安全・安心な医療を提供します
2. 相手の立場に立った接遇に努め、信頼される救急外来を目指します
3. 組織の一員として病院経営に参画します

【部署概要・活動報告】

二次救急指定病院として 24 時間体制で対応し、月・水曜日の日中は救急担当の専門医師の診療により救急体制の充実を図っています。

横須賀市救急隊が救急外来に待機し、当院医師と共に出動して現場から迅速に診療を開始する派遣型ワークステーションを継続しています。

2017 年度から配備されたドクターカーは、近隣病院からの紹介患者の迎えや三次病院への転院搬送を行っています。2023 年度は 36 回出動し、心筋梗塞や急性冠症候群、持続性心室頻拍等の患者を高次機能病院へ搬送しました。

2023 年度の救急実績は、救急車受け入れ 3,208 台 総受け入れ患者数は 6,119 名でした。重症患者の診療に迅速対応できるよう看護師が院内トリアージを行い、重症・緊急を要する病態を見逃さないように取り組みを行っています。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、発熱を伴う症状を有する方が多く来院するようになって 4 年が経過しました。引き続き、感染予防策を徹底してまいります。

様々な病態の患者の診療に対応するために看護師個々が自己研鑽に励み、スキルアップを目指して DMAT ナースや JNTEC、ICLS やフィジカルアセスメント等の研修に参加しています。

患者や家族の苦痛や不安が少しでも軽減できますよう、今後もより一層の努力をしてまいります。

(渡辺 美恵子)

手術室

【手術室】6室（バイオクリーンルーム1室）

【診療科】外科、整形外科、関節外科、脳神経外科、脳神経内科、泌尿器科、形成外科
眼科、腎臓内科

【2023年度部署目標】

1. 安全で、質の高い手術看護を提供します
2. コスト意識を高め、病院経営に貢献します
3. 看護師一人ひとりが組織の一員である事を自覚し、役割を果します

【部署概要・活動報告】

手術室では安心して安全な手術が行われるように担当医師や麻酔科医、看護師が連携を図っています。チームで情報を共有し、患者にとって最善の手術となるように努めています。また、病棟看護師とも連携し、それぞれの情報を共有することで患者にとって必要な看護が継続して行なえるようにしています。術前訪問では写真付きパンフレットで手術室の様子がイメージできるよう丁寧に説明しています。術前から介入し患者の様子を確認するとともに、術中に実施した看護の評価をおこなっています。術後にアンケート「手術室ほっとめーる」を回収し、意見や要望はスタッフで共有して業務に反映させています。

年間手術件数は1,768件で、泌尿器科が513件と最も多く、次いで外科、関節外科、整形外科となっており4科で全手術数の約80%を占めています。

医療は目まぐるしく変化、進歩しています。泌尿器科ではBiojetによる前立腺生検（MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法）も行われています。私たち看護師もこれらに対応するため勉強会を行い、常に新しい知識・技術を持てるように努力を続けています。

（田子 晶子）

透析室

【診療科】 腎臓内科

【2023 年度透析件数】 11,643 件

【2023 年度部署目標】

1. 安全・安心な透析治療を実施する
2. 業務の効率化を図り労務環境を整える
3. 災害対策の強化を実施する
4. 専門性を発揮し患者サービス向上を目指す

【部署概要・活動報告】

2023 年度、新規透析導入患者数は 19 名でした。日本国内においても 97%の方が血液透析療法を選択され、腹膜透析を実施している施設には限りがあります。当院の透析室では、療法選択外来を実施し、腎代替療法の 3 本柱となる血液透析・腹膜透析・腎移植について説明しています。それぞれの治療法にはメリットとデメリットもあるため、そのなかでどれが患者自身にとって最善の治療であるか、ライフスタイルを含め選択できるように医師、看護師、栄養士、理学療法士などの多職種で連携して対応しています。

また、透析治療を選択される患者には、安心して透析治療を開始できるように、家族を含めた治療方法の説明も実施しています。2022 年度末には日本国内で透析治療を受けている患者数は約 35 万人となり高齢化も進み、当院においても 65 歳以上の患者は 75%を超えています。透析治療は生涯必要な治療であるため、透析を導入した後も、安心して受けられる治療の場を整えるとともに、ライフステージの変化に合わせ、透析が継続できるように、患者のライフスタイルに合わせた透析看護を日々スタッフで検討し、実践しています。また災害時の対策強化を周辺地域の病院と連携を図っています。

保存期、透析導入期、透析維持期という継続した治療において、専門的な看護を実践できるように、日々学びを深めながら、多職種と連携を図り看護を実践しています。

(清水 太郎)

専門・認定看護師活動報告

1. 感染症看護専門看護師

【役割】

感染症看護専門看護師の主たる役割は、個人や集団に対する感染予防と発生時の適切な対策に従事するとともに、感染症の患者に対して高度な看護を提供することです。患者・職員・訪問者間の感染予防と管理に努め、適切なケアを実施するために、看護職や他職種間において「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」の6つの役割を果たせるよう活動しています。

【実践報告】

新型コロナウイルス感染症対策では、5月に感染症法の位置づけが5類感染症に変更されたことに伴い、各部門と協同して診療体制の変更および整備に努めました。さらに、厚労省が作成する診療の手引きの変更に合わせ、新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを改定し、現場への周知、対策の実施に取り組みました。また、海外での流行が報告されているデング熱、エムポックス(旧称：サル痘)の対応マニュアルを作成し、疑似症患者発生時の診療体制整備に努めました。

抗菌薬の適正使用に向けた取り組みでは、感染対策室の医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師による抗菌薬適正使用ラウンドを1,115名の患者に対して実施しました。

感染症患者・易感染患者の対応では、医師・看護師等と綿密に連携を図りながら、必要に応じ患者への指導および感染対策を実施しました。

(大釜 恵)

2. 緩和ケア認定看護師

【役割】

患者と家族の、身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛を緩和し、その人らしく今を生きることを支援する。チームアプローチをするために患者・家族・医療者間の架け橋となる役割があります。

【実践報告】

外来に勤務し、主治医や外来担当看護師と連携をとり、がん告知や治療の選択時など外来診療時同席し心理的サポートを行っています。外来化学療法や放射線治療など、治療に伴う有害事象に対して、患者の個別性に応じたセルフケアの指導などを行い、治療を継続して受けることができるよう援助を行っています。また院内緩和ケアチームメンバーとして病棟看護師と連携し、がん患者の苦痛緩和に関わっています。随時非がん患者の疼痛や

呼吸苦、不安などの心理面への援助などの相談も受けています。

リンパ浮腫専門看護師の資格を取得し、主治医の指示のもと、乳がん、子宮がんに伴いリンパ郭清後のリンパ浮腫を発症した患者様のケアを提供しています。

(岸川 美輪)

3. 皮膚・排泄ケア認定看護師

【役割】

実践：皮膚・排泄ケア認定看護師の創傷管理技術を基盤とした看護支援と安全な特定行為による治療

指導：医学的視点と看護的視点から患者さんを全人的にとらえ、創傷、人工肛門、失禁関連技術の指導

相談：創傷、褥瘡、人工肛門、失禁関連の相談、適切な治療のために診療科間を調整し退院支援

【実践報告】

1. 超高齢化に伴い増々皮膚トラブルが増加してきました。本年度は透析患者様への皮膚管理支援を行いました。シャント肢皮膚障害が最も多く、皮膚内出血ついでスキンテア・下肢壊疽・皮膚脆弱の順に目立ちました。基本的な運用にとどまらず、管理が難しく重点的な看護ケアが必要な患者に対しても、予防治療計画に基づき個々に合わせた管理・指導に努め、臨床工学技士や看護師とも連携して看護支援を行いました。
2. 院内活動では、ストーマ・失禁患者に個々に合わせたアセスメントを行い、患者様一人一人に合わせたケアの提供とスタッフ指導を行いました。ストーマ外来は 133 件でした。ストーマ看護では、入院から退院後の継続した看護支援活動を行い、ストーマケアチームを中心に病棟スタッフと連携した看護を行い、患者様が安心してセルフケアが習得できるよう看護支援に努めました。
3. 活動全体では治癒だけを目的とせず、疾患・病状を考慮した患者様中心の皮膚看護ケアに心がけ、多職種メンバーと連携し改善に努めました。

(横山 優美)

【実践報告】

1. 重点的な看護ケアが必要な患者に対し、予防治療計画に基づき個々に合わせた褥瘡対策の実施に努め連携して看護支援を行いました。褥瘡ハイリスク件数は 690 件でした。
2. コンサルテーション数は 824 件、創傷に対する相談が多く看護師スタッフ以外にも医師やリハビリ科からの相談が増えています。
3. 特定医療行為に関しては、医師と協働しプロトコールの作成を行いました。実施した特定行為はデブリードマン 78 件、局所閉鎖陰圧療法が 16 件、薬剤代行処方（軟膏のみ）

が 225 件、検査オーダー（創部感染、培養検査）が 28 件でした。

4. 東海大学病院で創傷分野のシンポジストとして特定行為研修終了後の活動について発表しました。厚生労働省職員、特定行為研修修了者とパネルディスカッション、フォローアップ研修を実施しました。
5. 神奈川県看護協会横須賀支部、第 40 回看護・介護実践報告会で特定ケア行為研修終了後の皮膚・排泄ケア認定看護師としての活動について発表しました。
6. 地域の施設職員に向けて褥瘡ケアの多職種合同研修会を開催しました。
7. 看護学校では在宅栄養管理について、栄養士の学生には褥瘡と栄養について講義を行いました。

（伊勢谷 晃一郎）

4. 慢性心不全看護認定看護師

【役割】

安定期・増悪期・人生の最終段階にある心不全患者とその家族に対して、各病期に応じ「病い」に折り合いをつけながら生活するための調整を行います。在宅、外来、病棟をつなぎ、途切れのない療養支援を実施するために活動しています。

【実践報告】

1. 入院早期から患者の能力や理解力に合わせた心不全教育を行い、退院後もサポートが必要と判断した患者には、心不全外来を導入しました。心不全外来では、生活や困りごとを丁寧に聞き取りながら、セルフケアを生活に組み込む調整を支援しました。外来受診時に短期間での心不全増悪リスクが高いと判断した患者には、再入院を回避するために、地域のスタッフと生活上の注意点や受診の目安など情報共有を行いました。体調管理を強化することで心不全再入院に至らず、自宅療養を継続することができています。
2. 心不全教育入院クリティカルパスを作成し、心不全予防のための教育を 2 泊 3 日で集中的に実践する入院システムを構築しました。心不全を発症させないことを重要とした多職種による専門的な知識の提供に加え、患者から事前に問診を行い、患者ニーズに合わせた教育内容としました。症例は 1 件で、患者様からの反応は好評でした。
3. 神奈川県看護協会オープンセミナーで、若年末期心不全患者の意思決定支援について講義を行いました。
4. 地域住民に対し、公民館で毎月 1 回「まちの保健室」を開催し、こころとからだの健康相談を行っています。フレイルを予防しながらゆるやかに繋がるコミュニティを目指し、住民が主体となり、お菓子作りやファッションショーなどの企画を考案し運営しています。この活動については JADECOM 学術大会で発表しました。

（今枝 優美）

5. 認知症看護認定看護師

【役割】

1. 認知症の人の視点に立ち、意思を尊重し、権利を擁護すること(実践、指導)
2. 認知症の人の状態像を統合的にアセスメントし、認知症の行動心理症状（BPSD）を悪化させる要因・誘因に働きかけ、予防・緩和すること(実践)
3. 認知症看護の実践を通して役割モデルを示し、看護職に対する具体的な指導・相談対応を行うこと(実践、指導、相談)
4. 認知症の人に関わる全ての職員に対して、認知症に対する知識を提供すること(指導)
5. 多職種と協働し、認知症に関わる知識の普及とケアサービス推進の役割を担うこと(実践、指導)

【実践報告】

2023年6月より、認知症の人が不安なく入院生活を過ごし、早期退院が図れるように医師、社会福祉士、作業療法士、薬剤師と多職種が協働して活動する認知症ケアチームの立ち上げを行いました。認知症ケアチームとして、認知症ケアに対する基本的な知識の普及を図るために認知症ケアマニュアルを作成し、全職員対象の勉強会の開催を行いました。勉強会はe-Learningを活用することで352名が受講することが出来ました。また、行動心理症状が見られている人を中心に認知症ケアチームとして145名に対して院内ラウンドを行い、病棟看護師とケア方法の共有を行うことが出来ました。

看護職を対象として、より具体的な認知症の人のケア方法を普及させるため看護部の認知症ケア委員会において、認知症の主な原因疾患とされるアルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症について事例検討会を開催しました。また、病棟毎にテーマを募り、病棟毎のニーズに沿った内容での勉強会の開催に取り組みました。

各部署からの相談に応じて、認知症の人の視点で苦痛や不快症状を察知し、対応するための思考の過程やケアの方法、薬剤調整などの提案を行いました。

(森 正樹)

6. 特定ケア看護師

【役割】

1. 医学的視点と看護的視点から患者さんを全人的にとらえ、看護を提供します。
2. 多職種連携の調整を積極的に担います。
3. 特定行為を駆使し、医師とのタスクシェアに努めます。

【実践報告】

特定集中治療室内の患者対応が中心でしたが、他部署の依頼にも応じました。他病棟依

頼の主な内容は、採血困難患者対応、血液培養採取が中心でした。医師から直接連絡をいただき対応することもありました。

特定集中治療室内では、重症患者の緊急入室時などに、医師の処置介助の一環として胃管の挿入やバルンカテーテルの挿入（男性患者）、オーダーの代行入力を医師の指示を受けながら実施しました。A ラインの留置については、医師の指導を受けながら実施し年間3件でした。

一般病棟へのラウンドは、業務の状況でなかなか難しく、定期的には実施できませんでした。一般病棟では、夜勤のリリーフ業務をしている際に、状態変化があり対応した症例が2件ありました。病棟看護師より相談を受け、1件は当直医、1件はオンコール医師に状況を報告し、適宜指示を受けながら必要な検査オーダーの代行入力、検査の実施をしました。

その他、ラダー研修や病棟主催の勉強会の講師をさせていただく機会がありました。日々の看護の悩みを共有し解決できるよう努めました。

（中村 明日美）

地域医療連携室

【業務統計】

1. 連携業務	医師紹介患者数	7,493 人
	医師逆紹介患者数	5,911 人
2. 医療相談	相談件数	1,505 人
	業務件数	3,648 人

当院は「地域医療支援病院」として、かかりつけ医との紹介患者制度を実施しています。「地域医療支援病院」とは、それぞれの医療機関が機能や役割を分担し地域における医療の提供を充実させるため様々な役割を担っています。

地域連携室では主に連携業務と医療相談業務を行っています。

連携業務としては、前方連携では紹介患者の事前予約、受診受付、外部医療機関からの検査依頼（MRI 等）の受付、検査結果の発送、当院からの逆紹介時の事務手続きなどを対応しています。

医療相談業務は、入院患者の退院支援として、転院先の紹介および調整、在宅調整など退院支援看護師とメディカルソーシャルワーカーとともに情報共有して対応しています。

外来に来院された方々の心配事や今後の方向性に対しての疑問や不安等細かい相談にも対応しています。

在宅医療の訪問看護に関して、現在中止しています。

地域の中核を医療機関として病病連携、病診連携を深め、看護・介護・福祉機関とともに密に連携していきたいと考えています。

（富岡 敏也）

入退院支援センター

【診療科】 全診療科

【部署概要】

入退院支援センターは、患者サービスの向上と急性期医療の充実を図ることを目的として、2018年2月に開設された部署です。現在、入退院支援センターでは看護師2名、薬剤師1名が常駐し、入院が決まった患者の面談を行っています。面談を行うことで、患者の現在の生活状況を把握するとともに、個々の抱える問題を早期に発見することを目標としています。また、入院前から多職種と連携をとることで、安心して入院治療を受けられるようにオリエンテーションを行っています。

入院までに必要な薬の飲み方についても、薬剤師が分かりやすく説明しています。必要時には、かかりつけ薬局と情報の共有を行っています。

また、必要な書類や手続きについては、担当の事務と共に説明し、入院までに必要な準備ができるよう援助しています。

(柳 栄治)

医療安全管理室

「個人の教訓を共有し、組織のリスク感性を向上させ、安全文化を育てる」を基本理念として活動を続けています。医療安全管理者が組織横断的に活動することで病院職員が常に安全に対する意識を持ち続け、多職種が協働しチーム医療を実践できることを目指しています。

【目標】

1. 医療（重大）事故を防止する
2. 安全に関する職員の意識を高め、それに基づく行動がとれるよう支援する
3. 安全に関する教育の企画促進、実施

【2023年度 おもな取り組み】

1. PICC（末梢挿入式中心静脈カテーテル）の使用基準について
2. 外注検査結果報告書の取り扱いについて
3. 給食（パンおよび麺類）の提供について見直し
4. セントラルモニタのアラーム対応について
5. 救急カートの配置変更
6. 電子カルテのスクリーンセーバー開始時間の短縮

(杉浦 浩朗・金子 美香子)

感 染 対 策 室

感染対策室とは、医療関連感染症（院内感染を含む）の制御を主な任務としている部署で、以下にあげる重要業務を遂行しています。

1. 感染症の予防：感染症には種々の感染経路があるので、その経路をいかに遮断するか
院内の職員への教育、患者さんの理解に資するための院内報の発行やポスターの掲示等
2. その時々流行している感染症情報の収集及び、注意の喚起（インフルエンザの流行状況、予防接種の情報等）
3. 感染症の広がりや発生を防ぐため、環境整備、手指衛生についての指導及び注意喚起等
4. 有効な抗菌薬適正使用の啓発等
5. 2類感染症《急性灰白髄炎、ジフテリア、新型インフルエンザ、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MARS）等》の診療

2 種感染指定病院として COVIT-19 の患者さんも 2020 年 2 月より受け入れを開始しています。その後も患者数増加に対して、病棟改変、医療スタッフの配置転換、環境整備、医療物資の確保など多くの問題に直面しながら最前線で活動してきました。

感染対策は、医療安全対策とともに病院の最重要課題の一つといえます。
今後、COVID-19 だけでなく、感染対策室としての任務は拡大すると思われ、それぞれの課題に適切に対応していきたいと考えております。

（國保 敏晴）

総務課

総務課は、「人事・給与」、「経理」、「施設」、「総務・購買・庶務（医局秘書含む）」、「SE」により構成されています。

【職員構成】（2024年3月31日現在）

課長1名、課長補佐1名、係長3名、係員9名 合計14名

【基本方針】

病院における全ての職種をつなぐ隙間産業であり、自称「縁の下の力持ち」です。職員一人ひとりが安全に安心して働けるよう、日々心がけて対応してまいります。

【目標】

- ・経費の削減
- ・業務の標準化と超勤管理の実施

【業務】

1. 職員の任免、含む、給与その他人事、労務管理並びに教育及び研修に関すること。
2. 職員の福利厚生および安全衛生に関すること。
3. 職員の休職、表彰および懲戒に関すること。
4. 規程等の制定および改廃に関すること。
5. 公印に関すること。
6. 文書に関すること。
7. 渉外および広報に関すること。
8. 予算および決算に関すること。
9. 現金、預金等の出納並びに保管に関すること。
10. 資金計画、資金運用および借入金に関すること。
11. 契約に関すること。
12. 諸官公庁、開設者、協会本部等に対する申請、報告等または連絡調整に関すること。
13. 病院内の秩序の維持および警備に関すること。
14. 施設・設備の維持管理、修繕および防災対策に関すること。
15. 療養環境の維持管理（契約等含む）に関すること。
16. 工事や修繕に関する諸官公庁、開設者に対する申請、報告又は連絡調整に関すること。
17. 職員住宅の環境整備や管理に関すること。
18. 物品の取得、維持管理、修繕および処分に関すること。
19. 物流システム（SPD）に関すること。
20. システム全般に関すること。
21. 前各号のほか、他の部署の所掌に属しない事項の処理に関すること。

（浅見 委代）

医 事 課

【業務】

1. 患者の受付および接遇に関すること。
2. 患者の入院および退院の手続に関すること。
3. 入院及び外来患者の料金算定及び支払請求並びに窓口徴収に関すること。
4. 医業未収金に関すること。
5. 診療報酬の算定の基礎となる法令上の手続きに関すること。
6. 診療録等の整理保存に関すること。
7. 医事統計に関すること。
8. 施設基準の取得と維持に関すること。
9. 行政機関や保険連合会との連絡調整に関すること。
10. 前各号のほか、医事事務に関すること。

【施設基準等新規取得・取り下げ（2023 年度）】

<施設基準新規取得>

【基本診療料】

- ・看護補助体制充実加算（地域包括ケア病棟）

【特掲診療料】

- ・二次性骨折予防継続管理料 1
- ・二次性骨折予防継続管理料 2
- ・二次性骨折予防継続管理料 3
- ・腹腔鏡下肝切除術

<施設基準取り下げ>

【基本診療料】

- ・なし

【特掲診療料】

- ・認知症ケア加算 1

目まぐるしく変わる医療情勢と制度に対し、日々知識や情報を得ながら保険請求に反映されるよう、課員一丸となり取り組んでおります。

（高瀬 忠明）

VI 研究・研修の状況

1 学会・研究会等

所属	演題名	発表者	学会等名称
外科	急性上腸間膜動脈閉塞症の術後 4 日目 に急性下肢虚血を来し、集学的治療で 救命した 1 例（口演）	藤原 大樹 （演者） 中山 岳龍 池田 孝秀 杉浦 浩朗 長嶺 弘太郎 関戸 仁	第 48 回日本外科系連合学会学術集 会（2023 年 6 月 横浜市）
	小腸原発 Goblet cell adenocarcinoma による腸閉塞に対して腹腔鏡下小腸部 分切除術を施行した 1 例（口演）	山本 晃成 堀 達彦 中山 岳龍 藤原 大樹 杉浦 浩朗 長嶺 弘太郎 竹川 義則 関戸 仁	第 159 回神奈川県臨床外科医学会 集談会（2023 年 9 月 横浜市）
	腸閉塞を契機に診断された回腸原発の goblet cell adenocarcinoma の 1 切除 例（口演）	堀 達彦 中山 岳龍 藤原 大樹 杉浦 浩朗 長嶺 弘太郎 竹川 義則 関戸 仁	第 78 回日本大腸肛門病学会学術集 会（2023 年 11 月 熊本県 熊本市）
	「医療提供体制の改革」に向けて ポスター発表 3 「P-病院運営」	長嶺 弘太郎 （座長）	日本医療マネジメント学会第 23 回 神奈川県支部学術集会 （2024 年 3 月 鎌倉市）
循環器内科	PCI が困難な重症多枝病変の急性冠症 候群に対し、血栓溶解療法後に準緊急 冠動脈バイパス手術を施行した一例	鈴木 弘之	第 61 回 CVIT 関東甲信越地方会 （2023 年 5 月 東京都）
	ELVIA 留置後慢性期の血管内視鏡で血 栓像を認め、DOAC により血栓像の消退 を認めた一例	坂 賢一郎	第 16 回 Trans Catheter Imaging Forum（2023 年 5 月 WEB 開催）
	心不全加療中に左室内血栓が出現し、 抗凝固療法に難渋した HIT の一例	野田 光里	第 269 回日本循環器学会関東甲信 越地方会（2023 年 9 月 東京都）
	房室解離と非持続性心室頻拍を伴う左 室心筋緻密化障害に対し、薬物加療お よび CRT-D 植込み術を施行し心機能が 改善した一例	木村 明香里	第 71 回日本心臓病学会 （2023 年 9 月 東京都）

所属	演題名	発表者	学会等名称
循環器内科	生体吸収性ポリマーエベロリムス溶出性ステント留置から6年後に超遅発性ステント血栓症を発症した一例	鈴木 弘之	第62回 CVIT 関東甲信越地方会 (2023年10月 東京都)
腎臓内科	確定診断に難渋した ANCA 陰性 ANCA 関連腎炎の一例	小口 由乃	第68回日本透析医学会学術集会 (2023年6月 兵庫県 神戸市)
	当院で経験した HIF-PH 阻害薬における甲状腺機能低下症例について	安藤 匡人	第68回日本透析医学会学術集会 (2023年6月 兵庫県 神戸市)
	当院における透析患者への COVID-19 感染に対する加療・対策の報告	藏口 裕美	第68回日本透析医学会学術集会 (2023年6月 兵庫県 神戸市)
	IgA 優位の膜性腎症の診断となった一例	池谷 雄祐	第53回日本腎臓学会東部学術大会 (2023年9月 宮城県 仙台市)
脳神経内科	運動ニューロン疾患診断における神経筋超音波検査所見	渡辺 大祐	第42回日本脳神経超音波学会総会 (2023年6月 東京都)
	筋萎縮性側索硬化症の表現型を呈した神経核内封入体病の経時的末梢神経超音波所見	渡辺 大祐 阿部 達哉 塚本 浩 多田 美紀子 土井 宏 田中 章景 小森 哲夫	第53回日本臨床神経生理学会学術大会(2023年12月 福岡県 福岡市)
	Parkinsonism を伴う亜急性経過の dystonia を呈し抗 GAD 抗体関連免疫介在性脳症が疑われた 74 歳女性例	西濱 脩平 池田 理紗 池田 真悟 田中 章景 渡辺 大祐	第248回日本神経学会関東・甲信越地方会 (2024年3月 東京都)
薬 剤 部	がん治療中の難渋する疼痛コントロールに対し、少量ミダゾラムが奏功した1症例	相澤 康子	第16回日本緩和医療薬学会 (2023年5月 兵庫県 神戸市)
	薬薬連携における薬剤サマリー活用の実態調査 ～心不全チームの地域連携に向けて～	亀田 洋子 伊藤 卓也 相澤 康子	日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会 (2023年8月 新潟県 新潟市)
	薬薬連携 今昔物語 ～トレーニングレポートは誰のため～	相澤 康子	横須賀エリア薬薬連携の会オンライン (2023年9月 横須賀市)

所属	演題名	発表者	学会等名称
薬 剤 部	一包化調剤仕分け装置導入における業務量の変化	村松 聡美	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)
	摂食嚥下障害に対する内服薬経口投与の問題点と今後の課題	白鳥 千穂	第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術大会 (2024 年 1 月 横浜市)
	多職種連携により術後廃用症候群・嚥下障害から経口摂取可能まで改善を認めた一例	中野 絹羽	第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術大会 (2024 年 1 月 横浜市)
放 射 線 技 術 科	上肢の MRI 撮影について ～新たなポジショニングの考案～	加々美 充	第 26 回 神奈川 MAGNETOM 研究会 (2023 年 5 月 横浜市)
	ERCP における放射線防護具使用の術者被ばく低減効果の検討	田島 尚人 中舎 幸司	第 39 回 日本診療放射線技師学術大会 / 第 30 回 東アジア学術交流大会 (2023 年 9 月 熊本県 熊本市)
	当院における STAT 画像報告の現状と取り組み	百合 智美	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)
	ゾーニングと識別タグを用いた MRI 安全管理の取り組み	加々美 充	第 27 回 神奈川 MAGNETOM 研究会 (2023 年 11 月 横浜市)
	基礎から考える MRI 管理区域の安全管理について	加々美 充	第 52 回 横須賀・三浦 MRI 技術研究会 (2023 年 11 月 横須賀市)
	「RADspeed Pro」と「PLESi0」&「Satellite」の使用経験 ～ポジショニング法と症例を添えて～	加々美 充	第 33 回 横須賀三浦・横浜南部地区合同勉強会 (2024 年 3 月 横須賀市)
臨 床 検 査 技 術 科	採血室における当院の取り組み	竹内 快	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)
	健康診断業務での便潜血検査の取り組み	鈴木 武幸	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)
ME センター	当院におけるタスクシフトの現状	西藤 太郎	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)
看 護 部	まちの保健室	今枝 優美	第 15 回 JADECORE 学術大会 (2023 年 10 月 東京都)

所属	演題名	発表者	学会等名称
看護部	特定行為研修終了後の皮膚・排泄ケア 認定看護師としての活動	伊勢谷 晃一郎	神奈川県看護協会横須賀支部 第40回看護・介護実践報告会 (2023年11月 横須賀市)
看護部 (特定集中治療室)	吸引時の个人防护具着用率向上を目指 した取り組み	清田 隆司 森 由紀	神奈川県看護協会横須賀支部 第40回看護・介護実践報告会 (2023年11月 横須賀市)
看護部 (西3階病棟)	利尿剤使用及び口渇のある高齢者に対 する口腔ケア ～うまみ成分を用いた口腔内保湿～	山本 菜月 石坂 春奈 石井 愛梨 内山 優子 野中 志保	第25回神奈川看護学会 (2023年12月 横浜市)
医療安全管理室	多職種協働による報告書の確認不足防 止策について	須藤 敏 金子 美香子 杉浦 浩朗 望月 隆男	第61回全国自治体病院学会 (2023年9月 北海道 札幌市)

2 講演活動等

所属	演題名	演者	講演会等名称
循環器内科	当院における心不全への取り組み ～急性期心不全管理から心不全外来まで～	坂 賢一郎	第 10 回心不全パンデミック講演会 講演（発表）（2023 年 6 月）
	在宅での慢性心不全管理について	坂 賢一郎	心不全地域連携の会 講演（発表）（2023 年 6 月）
	高齢化社会における HFpEF 症例の早期発見と治療	坂 賢一郎	心不全地域連携 Web 講演会 講演（発表）（2023 年 6 月）
	心血管疾患と高尿酸血症	坂 賢一郎	ユリス Web チャンネル 講演（発表）（2023 年 8 月）
	心不全に潜む ATTR 心アミロイドーシス ～地域での早期診断・治療の重要性～	坂 賢一郎	横須賀・三浦医療圏「心アミロイドーシス」Web セミナー 講演（発表）（2023 年 10 月）
	心血管疾患の連続性から考えるリスク ファクターの管理	坂 賢一郎	逗葉内科医会学術講演会 講演（発表）（2023 年 11 月）
	飽食時代における肥満と心不全 ～高中性脂肪血症との関係～	坂 賢一郎	Yokosuka Cardiac Young Web Meeting 講演（発表）（2023 年 12 月）
脳神経内科	筋超音波を用いたサルコペニアの評価 文献レビューより	渡辺 大祐	第 23 回神奈川神経・血管超音波 セミナー 発表者（2023 年 2 月）
	神経筋超音波	塚本 浩 高松 直子 山崎 博輝 水地 智基 渡辺 大祐	第 19 回神経筋疾患診断セミナー 講師（2023 年 9 月）
	脳梗塞の急性期治療	渡辺 大祐	横須賀西南地域医療連携 発表者（2024 年 3 月）
麻 酔 科	麻酔法、呼吸管理、輸液管理その他	野瀬 浩文	治療総論Ⅱ（麻酔法）講義 講師（2023 年 5 月、6 月）
（診療支援部）	令和 5 年度横須賀市医師会災害救護訓練 ～トリアージ訓練～	長嶺 弘太郎 塙 美穂	令和 5 年度横須賀市医師会災害 救護訓練 インストラクター （2023 年 11 月）

所属	演題名	演者	講演会等名称
薬 剤 部	その薬飲めてますか？	白鳥 千穂	第 3 回横須賀市薬剤師会学術講演会 講師（2023 年 7 月）
	横須賀エリア薬薬連携の会オンライン	相澤 康子	横須賀エリア薬薬連携の会オンライン 講師（2023 年 9 月）
放 射 線 技 術 科	放射線管理 2 【放射線被ばく】	田島 尚人	第 39 回 日本診療放射線技師学術大会 / 第 30 回 東アジア学術交流大会 座長（2023 年 9 月）
	医療被ばく相談 / 改正 RI 規制法への対応	田島 尚人	2023 年度 放射線管理講習会 司会（2024 年 3 月）

3 著書及び論文

所属	論文名等	著者	発表掲載紙
脳 神 経 内 科	筋ジストロフィーの筋超音波検査	渡辺 大祐	臨床検査（医学書院）67 巻 8 号（2023 年）
薬 剤 部	特集 漫然処方をする 下剤処方を考える	石渡 啓真	月刊 地域医療 vol.37 No.8 2023 p753(39)-758(44) （2023 年）
放 射 線 技 術 科	島津社製 X 線撮影装置「RADspeed Pro」の使用経験	加々美 充	映像情報メディカル 4 月号 第 55 巻 第 4 号 p68-73(2023 年)

4 市民病院公開講座

- ・2023年度は感染拡大防止のため、開催を見合わせた。

5 横須賀法人会報「みなと」健康のページ

号数	発行月	テーマ	執 筆 者
第 299 号	2023 年 5 月	脳卒中は予防がとても大切です	渡辺 大祐（脳神経内科）

6 院内発表等

(1) 市民病院研究会等

開催日	演題	演者	司会者
2023 年 5 月 18 日	症例検討会（カンサホート） 腎性貧血治療における HIF-PH 阻害薬について	腎臓内科 鈴木 拓也	—
	症例検討会（カンサホート） 診断に難渋した急性腹症の一例	研修医 飯村 澤	外科 杉浦 浩朗
	CPC 壁肥厚が目立たない肥大型心筋症の一例	研修医 久米 宏和 服部 純也	循環器内科 坂 賢一郎
2023 年 6 月 15 日	症例検討会（カンサホート） 腸閉塞を契機に診断された回腸原発の Goblet Cell adenocarcinoma の一例	研修医 久米 宏和	外科 杉浦 浩朗
	CPC 尿路感染症による敗血性ショックに対して CRRT を実施した剖検症例	研修医 篠原 恵人 山本 晃成	腎臓内科 國保 敏晴
2023 年 7 月 20 日	症例検討会（カンサホート） 人間ドックにおけるがん登録 -2019 年度の成績-	健康管理科 杉本 孝一	—
	CPC 白血球増多遷延で発見された本態性血小板血症の一例 ～骨髄増殖性腫瘍の一型として～	研修医 藤野 佑一朗 千葉 航平	血液内科 原野 浩
2023 年 8 月 17 日	症例検討会（カンサホート） 低異形度虫垂粘液性腫瘍の一例	研修医 千葉 航平	外科 杉浦 浩朗
	CPC 腹痛を契機に診断され無治療で軽快した IgA 血管炎の一例	研修医 久米 宏和	消化器内科 高畑 豪
2023 年 9 月 21 日	CPC 大腸癌を背景とした慢性下痢による代謝性アルカローシスを伴う低カリウム血症を呈した一例	研修医 千葉 航平	腎臓内科 國保 敏晴
	CPC 薬剤性冠攣縮から急性心筋梗塞を発症した症例	研修医 篠原 恵人	循環器内科 坂 賢一郎

開催日	演題	演者	司会者
2023 年 10 月 19 日	症例検討会（カンサホート） 横行結腸癌に対する ESD 中に CO ₂ ナルコースを来した一例	研修医 山本 晃成	外科 杉浦 浩朗
	CPC 不随意運動を伴う上位・下位運動ニューロン障害を呈する 83 歳女性の症例	研修医 久米 宏和 服部 純也	脳神経内科 渡辺 大祐
2023 年 11 月 16 日	CPC 遠隔転移を伴う末期膵臓癌の一例	研修医 千葉 航平 藤野 佑一朗	消化器内科 小松 和人
2023 年 12 月 21 日	症例検討会（カンサホート） 大腸癌の肝転移再発、卵巣転移腹膜播種、残肝再発に対して集学的治療を施行した一例	研修医 篠原 恵人	外科 杉浦 浩朗
	CPC 下壁心筋梗塞に左主幹部の高度狭窄を合併しており冠動脈造影中に心肺停止となった一例	研修医 山本 晃成	循環器内科 坂 賢一郎
2024 年 1 月 18 日	症例検討会（カンサホート） 前立腺癌のリスク分類と治療法の選択	泌尿器科 喜納 悠斗	—
	CPC 利尿薬と経口 Ca 拮抗薬で改善しえた加速型-悪性高血圧の一例	研修医 藤野 佑一朗	腎臓内科 國保 敏晴
2024 年 2 月 15 日	症例検討会（カンサホート） 遅発性外傷性横隔膜ヘルニアに対して残胃全摘術を来した一例	研修医 服部 純也	外科 杉浦 浩朗
	CPC 高 Ca 血症を合併した下垂体性副腎皮質機能低下症の一例	研修医 山本 晃成 篠原 恵人	内分泌・糖尿病 内科 土屋 博久
2024 年 3 月 21 日	症例検討会（カンサホート） 癌関連網膜症	眼科 富岡 敏也	—
	症例検討会（カンサホート） 当院における緩和ケア認定看護師の役割	緩和ケア認定 看護師 岸川 美輪	—
	CPC 心房細動に対する Ablation 施行後に胃不全麻痺を来した一例	研修医 服部 純也	消化器内科 道端 信貴

(2) モーニングレクチャー

開催日	担当科	内 容	担当講師	担当研修医
2023 年 5 月 12 日	消化器内科	救急での超音波検査	小川	久米
2023 年 5 月 26 日	健康管理科	予防接種について	杉本	篠原
2023 年 6 月 2 日	産科、婦人科	産科、婦人科レクチャー	橘田	千葉
2023 年 6 月 9 日	循環器領域	見逃してはいけない心電図・胸痛	木村	服部
2023 年 6 月 23 日	循環器領域	これからの救急医療に必要なこと	木村	藤野
2023 年 6 月 30 日	循環器内科	徐脈性不整脈・リードスペースメーカー	鈴木	山本
2023 年 7 月 7 日	外科	急性腹症	杉浦	久米
2023 年 7 月 14 日	放射線技術科	脳出血の見方	菅原	篠原
2023 年 7 月 28 日	泌尿器科	泌尿器科について	楠田	千葉
2023 年 8 月 4 日	脳神経内科	脳卒中の診療	池田 (理)	藤野
2023 年 8 月 25 日	栄養管理科	栄養管理科について	轟	服部
2023 年 9 月 1 日	リハビリテーション療法科	回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟について	木村	山本
2023 年 9 月 8 日	臨床検査技術科	心エコー	師田	久米
2023 年 9 月 22 日	薬剤部	HIV 予防薬	大久保	篠原
2023 年 9 月 29 日	ME センター	人工呼吸器の設定について	今井	千葉
2023 年 10 月 6 日	整形外科	骨・関節感染症の治療	保田	服部
2023 年 10 月 13 日	腎臓内科	高カリウム血症	藏口	藤野
2023 年 10 月 27 日	内分泌・糖尿病内科	免疫チェックポイント阻害薬	土屋	山本
2023 年 11 月 10 日	リウマチ科	ステロイドについて	浅見	久米
2023 年 11 月 24 日	脳神経外科	脳外科の救急について	森信	藤野
2023 年 12 月 1 日	放射線科	放射線科について	望月	千葉
2023 年 12 月 8 日	眼科	眼科について	富岡	服部
2023 年 12 月 15 日	麻酔科	肺胞気式 その使い方と問題	野瀬	篠原
2024 年 1 月 5 日	関節外科	救急外傷について	脇田	久米
2024 年 1 月 12 日	病理診断科	標本固定のいろは	竹川	藤野
2024 年 1 月 26 日	精神科	精神科について	磯島	山本
2024 年 2 月 2 日	血液内科	貧血の復習	原野	千葉
2024 年 2 月 9 日	ACP・人生会議	ACP について	相澤	服部

(3) 医療安全管理室主催研修

No.	開催日	内容	演者	参加人数
1	2023 年 4 月 3 日	新規採用者 医療安全研修 ・ 医療安全総論 ・ 医療安全対策や事故発生時の流れなど	医療安全管理者 金子 美香子	34 名
2	2023 年 4 月 4 日	初期研修医オリエンテーション 医療安全 ・ 画像確認について ・ 院内で発生したヒヤリハットについて	医療安全管理者 金子 美香子	6 名
3	2023 年 5 月 25 日 ～ 5 月 26 日	医師対象 PICC エコーガイド下穿刺 Hands-on セミナー ・ シミュレーターを用いたエコーガイド下 穿刺トレーニング等	カーディナルヘルス 株式会社学術担当者	24 名
4	2023 年 6 月 21 日	医師対象 オンライン研修 中心静脈穿刺の医療事故の再発防止に向けた提言を読み解く ・ 中心静脈カテーテル挿入、抜去に係る死亡事例の分析について ・ 提言の背景と目論みについて解説	カーディナルヘルス 株式会社 杏林大学医学部 麻酔科学 徳嶺 譲芳	9 名
5	2023 年 6 月 23 日	看護部 医療安全 新人研修 ・ ヒヤリハットについて ・ インシデントが発生した場合の対応を 学び実践に活かす	医療安全管理者 金子 美香子	12 名
6	2023 年 10 月 12 日	看護部 ラダーⅢ・Ⅳ 医療安全研修 ・ 心理的安全性について（動画視聴） ・ ノンテクニカルスキルについて ・ ヒヤリハット報告の活用	医療安全管理者 金子 美香子	9 名
7	2023 年 10 月 20 日 ～ 12 月 23 日	第 1 回 医療安全研修 「DNAR について考える」（集合研修） ・ 本当の意味での DNAR とは？について職員 の理解と意識の浸透、知識の構築 ・ 現場ではどう立ち振る舞えば良いのか、 特に医師や看護師は日頃のジレンマにつ いて一緒に考える ・ 様々な DNAR が存在する問題点について、 安全意識のブラッシュアップ	ゼネラルリスクマネジャー 杉浦 浩朗	453 名

No.	開催日	内容	演者	参加人数
8	2023 年 11 月 13 日	研修医対象 中心静脈カテーテル（CVC）挿入講習会 ・エコーの使い方 ・CVC の適応 ・CVC 挿入手順 等	循環器内科医師 松本 祐介 野田 光里	7 名
9	2024 年 2 月 26 日 ～ 3 月 27 日	第 2 回 医療安全研修 「MRI 安全講習会」（e-ラーニング） ・MRI（磁場、電磁波）の危険性について ・MRI 室に安全に入室するための取り組みについて ・MRI 検査を安全に行うために必要なこと ・磁場体験（対象職員、希望者）	放射線技術科	432 名
10	2024 年 3 月 11 日 ～ 3 月 29 日	医師・放射線技師・臨床検査技師・医療安全管理室対象 報告書管理研修 「報告書確認について」（e-ラーニング） ・画像診断報告書の確認の重要性 ・病理診断報告書の確認の重要性 ・当院の確認不足対策について	報告書確認管理チーム	158 名
11	2024 年 3 月 18 日 3 月 21 日 3 月 22 日	2024 年度 新規採用 医師オリエンテーション ・医療安全総論 ・CLIP 報告について ・画像診断報告書について	医療安全管理室科長 須藤 敏 医療安全管理者 金子 美香子	14 名

(4) 感染症対策研修会

No.	開催日	内容	演者	参加 人数
1	2023 年 4 月 3 日	新規採用者感染管理研修 「感染対策、手指衛生、針刺し粘膜汚 染について」	感染対策室	32 名
2	2023 年 4 月 4 日	研修医研修 「耐性菌・培養オーダー等電子カル テ操作演習」	感染対策室	6 名
3	2023 年 5 月 16 日	薬剤部勉強会 「バンコマイシン TDM」	感染対策室 薬剤師	14 名
4	2023 年 6 月 20 日	薬剤部勉強会 「HIV 感染予防について」	感染対策室 薬剤師	12 名
5	2023 年 7 月 3 日 ～ 7 月 31 日	e-ラーニングでの院内感染対策研修 「当院における感染対策 COVID-19 編について」	-	666 名
6	2023 年 7 月 28 日	COVID-19 オンラインミニレクチャー 「COVID-19 標準治療について」	横浜市大附属病院 感染症科医師	9 名
7	2023 年 10 月 16 日 ～2024 年 2 月 29 日	手洗いチェッカーを用いた手洗い演習	ICT メンバー 看護部感染管理委員	660 名
8	2023 年 12 月 4 日 ～2024 年 1 月 5 日	e-ラーニングでの院内感染対策研修 「インフルエンザについて」	-	325 名
9	2024 年 2 月 28 日	清掃業者研修 「インフルエンザについて」	感染対策室	16 名
10	2024 年 3 月 18 日 3 月 21 日 3 月 22 日	新入職者医師 N95 マスクフィット テスト 「着用手技確認・漏れ率確認」	ICT メンバー	13 名

*看護部（新人研修、ラダー研修、助手研修）については、看護部記載欄参照

(5) 摂食嚥下勉強会

No.	開催日	内容	演者	参加人数
1	2023 年 11 月 29 日	口腔ケアの目的	リハビリテーション療法科 若命 裕史	27 名
		口腔ケアの手技とテクニック	看護部	
		機能的口腔ケア	歯科口腔外科 三宅 哲	

(6) NST 勉強会

No.	開催日	内容	演者	参加人数
1	2023 年 12 月 15 日	ONS の正しい活用方法 ONS とは！？	薬剤部 中野 絹羽	22 名
		経腸栄養剤(薬品)と濃厚流動食(食品)	栄養管理科 轟 夏帆	

(7) ME 勉強会

No.	開催日	内容	参加人数
1	2023 年 5 月 26 日	IABP について (ICU、HCU)	5 名
2	2023 年 7 月 7 日	輸液ポンプ、シリンジポンプ (新人 NS)	12 名
3	2023 年 9 月 29 日	人工呼吸器の設定 (研修医)	6 名
4	2023 年 10 月 16 日	PCPS について (ICU、HCU)	14 名

(8) - 1 糖尿病ケアチーム勉強会

No.	開催日	内容	演者	参加人数
1	2023 年 9 月 28 日	～ “糖尿病” 基礎のキ～	内分泌・糖尿病内科 土屋 博久	50 名
2	2023 年 2 月 21 日	依頼関係を築くコーチングのすすめ	看護部 佐藤 大輝	39 名

(8) - 2 世界糖尿病デー

開催日	内容	参加人数
2023 年 11 月 16 日	計ってみよう～1 日分の野菜～	31 名
	エルゴメーターで運動体験	
	血糖値、HbA1c 測定	
	In body 測定	
	頸動脈エコー	
	フットケア体験	

(8) - 3 世界糖尿病デー講演会

開催日	内容	演者	参加人数
2023 年 11 月 16 日	糖尿病をよく知ろう ～歴史的な観点から～	内分泌・糖尿病内科 土屋 博久	31 名

7 神奈川県看護協会主催 施設オープンセミナー

開催日	テーマ	演者	参加人数
2023年11月16日	若年末期心不全患者を自宅に帰す！！ ～カテコラミン持続点滴を在宅で施行した症例～	緩和ケア認定看護師 飯澤 ぬみ 慢性心不全看護認定看護師 今枝 優美	18名

Ⅶ 実習生等の受け入れの状況

(1) 医学生実習

名称	期間	学校名	人数
臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 循環器内科／腎臓内科	2023 年 5 月 31 日	横浜市立大学医学部	7 名
臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 循環器内科／腎臓内科	2023 年 6 月 21 日	横浜市立大学医学部	7 名
臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 腎臓内科	2024 年 2 月 21 日	横浜市立大学医学部	3 名
臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 腎臓内科	2024 年 2 月 28 日	横浜市立大学医学部	4 名

(2) - 1 看護学生実習

領域	期間	日数	学校名	人数
基礎看護学実習Ⅰ	2023 年 12 月 12 日～12 月 14 日	3 日間	横須賀市立 看護専門学校	10 名
	2024 年 1 月 11 日～1 月 16 日	4 日間		10 名
基礎看護学実習Ⅱ	2023 年 9 月 25 日～10 月 10 日	11 日間		9 名
健康段階別実習Ⅰ	2024 年 1 月 24 日～2 月 7 日	11 日間		5 名
老年看護学実習Ⅱ	2023 年 5 月 8 日～5 月 19 日	8 日間		5 名
	2023 年 6 月 19 日～6 月 30 日	8 日間		5 名
	2023 年 9 月 4 日～9 月 13 日	6 日間		5 名
	2023 年 10 月 16 日～10 月 27 日	8 日間		5 名
	2023 年 11 月 6 日～11 月 17 日	8 日間		5 名
臨床総合実習	2023 年 12 月 4 日～12 月 8 日	5 日間		14 名
外来実習	2023 年 5 月 16 日	1 日間		5 名
	2023 年 6 月 6 日	1 日間		5 名
	2023 年 6 月 27 日	1 日間		4 名
	2023 年 7 月 18 日	1 日間		5 名
	2023 年 9 月 12 日	1 日間		5 名
	2023 年 10 月 24 日	1 日間		4 名
	2023 年 11 月 14 日	1 日間		5 名
基礎看護学実習Ⅰ	2023 年 6 月 12 日～6 月 15 日	3 日間	神奈川衛生学園 専門学校	10 名
基礎看護学実習Ⅱ	2024 年 2 月 20 日～2 月 27 日	4 日間		9 名
基礎看護学実習Ⅲ	2023 年 11 月 14 日～11 月 28 日	8 日間		4 名

領域	期間	日数	学校名	人数
成人看護学実習Ⅰ	2023年5月15日～5月26日	10日間	神奈川衛生学園 専門学校	4名
成人看護学実習Ⅰ	2023年6月26日～7月7日	10日間		5名
	2023年7月10日～7月21日	9日間		4名
	2023年7月31日～8月10日	9日間		10名
成人看護学実習Ⅱ	2023年6月26日～7月7日	10日間		4名
	2023年7月10日～7月21日	9日間		5名
成人看護学実習Ⅲ	2023年5月29日～6月9日	10日間		5名
	2023年7月10日～7月21日	9日間		5名
	2023年9月11日～9月21日	8日間		2名
老年看護学実習Ⅱ	2023年5月15日～5月26日	10日間		4名
	2023年9月11日～9月21日	8日間		1名
統合実習	2023年10月10日～10月20日	8日間	神奈川歯科大学 短期大学部	4名
基礎看護学実習Ⅰ	2023年10月16日～10月19日	4日間		8名
基礎看護学実習Ⅱ	2024年1月9日～1月19日	8日間		8名
成人看護学実習Ⅰ	2024年1月23日～1月25日	3日間		16名
成人看護学実習Ⅱ	2023年8月21日～8月30日	8日間		6名
統合実習	2023年10月30日～11月10日	9日間		8名
養護教諭見学実習	2024年1月17日～2月7日	6日間	聖徳大学 通信教育部	1名

(2)-2 現任研修等

名称	期間	主催	人数	延べ数
特定行為研修 臨地実習	2023年4月 ～ 2024年3月	J A D E C O Mアカデミー NP・NDC研修センター	5名	12症例
看護実習指導者講習会 臨地実習	2023年7月17日	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	1名	1日間

(3) 中学生総合学習職場体験、高校生職場見学等

名称	日程	人数
高校生一日看護体験	2023年7月27日	横須賀・三浦地区公立私立高校生 30名
令和5年度 高校生インターンシップ	2023年8月3日	横須賀・三浦地区県立高校生 8名

(4)医療系学生実習等

リハビリテーション療法科

名称	期間	学校名	人数
理学療法学科 臨床実習	2023 年 6 月～7 月	神奈川県立保健福祉大学	1 名
理学療法学科 臨床実習	2023 年 6 月～8 月	横浜リハビリテーション専門学校	1 名
作業療法学科 臨床実習	2023 年 4 月～6 月	横浜リハビリテーション専門学校	1 名

栄養管理科

名称	期間	学校名	人数
校外実習	2023 年 9 月 5 日～15 日 8 日間	横浜栄養専門学校	1 名
臨地実習Ⅱ	2024 年 2 月 5 日～17 日 2 週間	駒沢女子大学	2 名

薬剤部

名称	期間	学校名	人数
薬学部 5 年生実務実習生	2023 年 5 月～8 月 11 週間	横浜薬科大学	2 名
薬学部 5 年生実務実習生	2023 年 8 月～11 月 11 週間	横浜薬科大学	2 名
薬学部 5 年生実務実習生	2023 年 8 月～11 月 11 週間	昭和薬科大学	1 名

交 通 案 内



▼ 最寄り駅等からのバスによるアクセス

【ＪＲ横須賀駅、京急横須賀中央駅、衣笠十字路バス停から】

- ・横須賀市民病院行きバスで終点下車
- ・佐島マリーナ入口行きバスで「横須賀市民病院」バス停下車
- ・長井行きか三崎方面行きバスで「林」バス停 下車徒歩 10 分

【ＪＲ逗子駅、京急逗子・葉山駅から】

- ・横須賀市民病院行きバスで終点下車
- ・長井行きバスで「横須賀市民病院」バス停下車

【京急ＹＲＰ野比駅、京急三浦海岸駅、京急三崎口駅から】

- ・横須賀市民病院行きバスで終点下車

▼ 駐車場案内

お車でご来院の方は市民病院駐車場（380 台駐車可能）をご利用下さい

2023年度 横須賀市立市民病院 病院年報

2024年11月発行

編集発行

公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立市民病院

神奈川県横須賀市長坂1-3-2

電話 (046) 856-3136

FAX (046) 858-1776

<https://yokosuka-shimin.jp>



